

山国川圏域大規模氾濫減災協議会

山国川圏域流域治水協議会

日時：令和8年5月27日（水）14:00～

15:30 場所：中津市役所 3階大会議室

議事次第

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

トピックス（大分地方気象台）

資料 1

【減災協議会】

（1）規約の改正

（2）取組方針の確認について

資料 2

（3）各機関の取り組み状況について

資料 2

（4）その他（情報提供）

資料 3

【流域治水協議会】

（1）取り組みの振り返りについて

資料 4

（2）各機関の取り組み状況について

資料 5・資料 6

（3）令和8年度の取り組みについて

資料 7

（4）その他

資料 8

4. 閉会

減災協議会・流域治水協議会 出席者名簿

令和8年5月27日

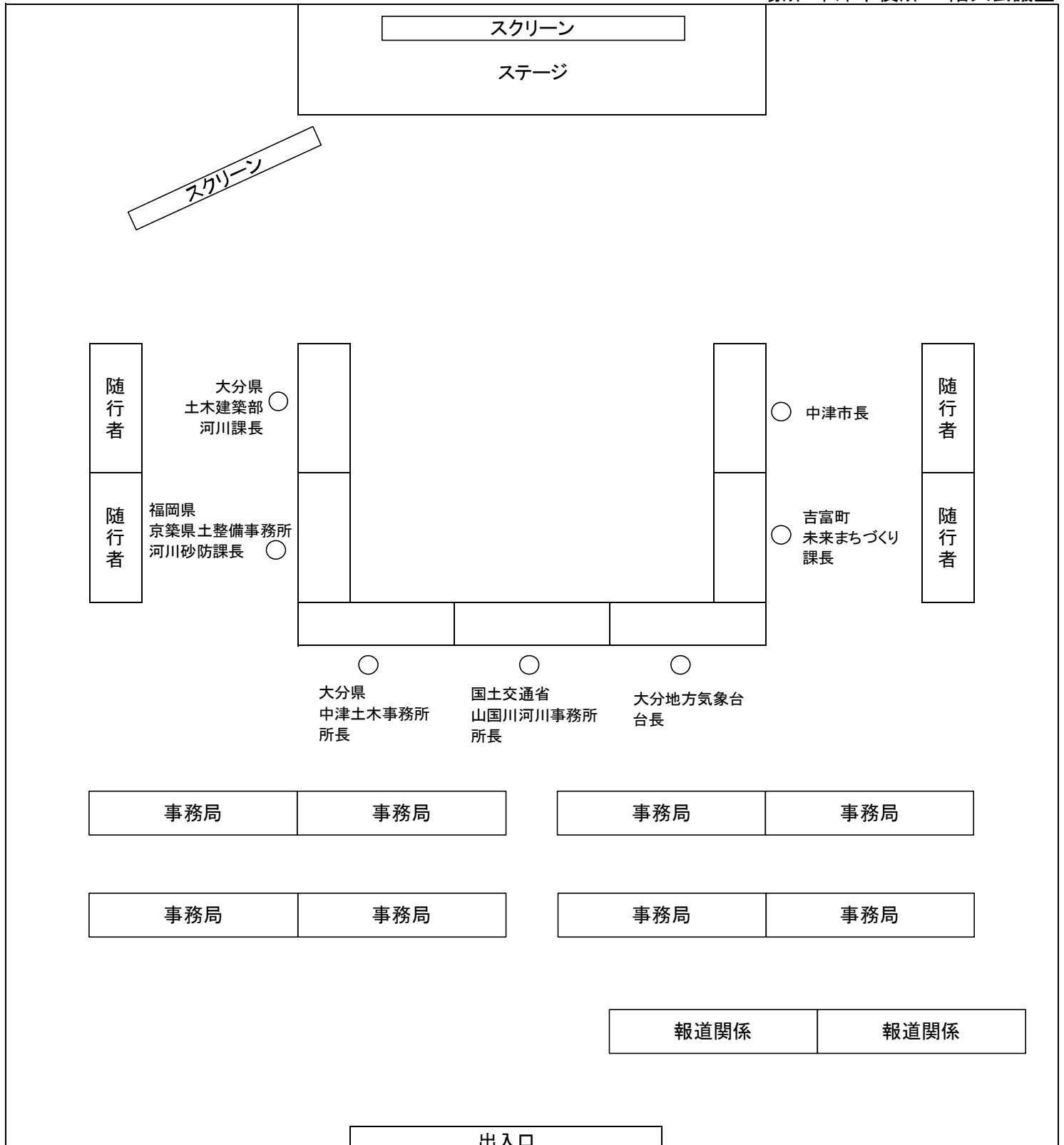
機関及び団体名		出・欠席			出席者（役職・氏名）			
		減災協議会	流域治水協議会	（備考）				
気象庁	福岡管区気象台	○	○	(WEB)	気象防災部長	永田 和彦	(代理)	
	大分地方気象台	○	○		台長	晴山 智		随 行 流域治水対策係長 柳 了介
中津市		○	○		中津市長	奥塚 正典		随 行 防災危機管理課長 小堀野 忠 排水対策課長 水戸 英樹
吉富町		○	○		未来まちづくり課 危機管理室 課長	岩井 保子	(代理)	随 行 未来まちづくり課係長 今村 祐亮
上毛町		○	○	(WEB)	上毛町長	坪根 秀介		
福岡県	総務部防災危機管理局 防災企画課	○		(WEB)	主任主事	宮本 涼太 中島 晋弥	(代理)	
	県土整備部 道路維持課		○	(WEB)	課長技術補佐	今村 吉弘	(代理)	
	県土整備部 河川管理課	○	○	(WEB)	課長補佐	中津 顕知	(代理)	
	県土整備部 河川整備課	○	○	(WEB)	企画主幹	伊藤 圭也	(代理)	同席 技術主査 江口 敦
	県土整備部 港湾課		○	(WEB)	課長技術補佐	倉本 広志	(代理)	
	県土整備部 砂防課		○	(WEB)	課長技術補佐	井上 敏志	(代理)	
	建築都市部 都市計画課		○	(WEB)	都市計画課長	岡本 直樹		
	建築都市部 公園街路課		○	(WEB)	技術補佐	幸後 清二郎	(代理)	
	建築都市部 上下水道課		○	(WEB)	課長技術補佐	境 謙一	(代理)	
	建築都市部 住宅計画課		○	(WEB)	主任技師	北野 正一郎	(代理)	
	教育庁教育総務部 施設課		○	(WEB)	係長	正岡 裕紀	(代理)	
	農林水産部 農山漁村振興課		○	(WEB)	企画監	上村 茂一	(代理)	同席 技術主査 山口 勝
	農林水産部 林業振興課		○	(WEB)	係長	荒木 友和	(代理)	
	京築県土整備事務所	○	○		河川砂防課長	梶原 誠也	(代理)	
	行橋農林事務所		○	(WEB)	所長	能美 晋		随 行 課長 渡辺 敬
大分県	生活環境部防災局 防災対策企画課	○	○	(WEB)	主幹（総括）	瀬口 寛	(代理)	
	土木建築部 河川課	○	○		河川課長	四嶋 信一		随 行 課長補佐 田北 亮平、副主任 大友 亮治
	土木建築部 砂防課		○	(WEB)	課長補佐	野上 圭一	(代理)	
	土木建築部 都市・まちづくり推進課		○	(WEB)	主査	中村 和也	(代理)	
	土木建築部 公園・生活排水課		○	(WEB)	課長補佐	阿南 徹矢	(代理)	
	土木建築部 建築住宅課		○	(WEB)	参事	平 清朗	(代理)	
	農林水産部 農地・農村整備課		○	(WEB)	課長補佐	渡辺 敬介	(代理)	
	農林水産部 森林保全課		○	(WEB)	参事	河野 孝徳	(代理)	
	農林水産部 森林整備室		×					
	北部振興局		○	(WEB)	課長補佐	池上 正人	(代理)	
	中津土木事務所	○	○		所長	北野 善隆		随 行 主査 安倍 敬博
林野庁 大分西部森林管理署			○	(WEB)	署長	杉崎 浩史		
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター			○	(WEB)	九州整備局長	松村 伸治		
国土交通省九州地方整備局 山国川河川事務所		○	○		所長	原田 佐良子		

山国川圏域大規模氾濫減災協議会 山国川圏域流域治水協議会



配席図

場所: 中津市役所 3階大会議室



【参考】関係会議の効率化

合同開催

→ 洪水予報連絡会 [水防法]

自衛隊

警察署

インフラ
(NTT、JR、九電)

報道
(NHK)

河川情報
センター

→ 大規模氾濫減災協議会 [水防法]

→ 水防連絡会 [水防法]

気象庁
気象台

大分県
防災局

福岡県防災
危機管理局

国土交通省
河川事務所

中津市

吉富町

上毛町

大分県
河川課

福岡県
河川担当課

県土整備・
土木事務所

県関係部局（本庁各課、振興局、県土整備・農林・土木事務所等）
（道路、港湾、砂防、都市計画、公園・下水道、住宅、教育委員会、農林水産）

農林水産省
九州農政局

河川協力団体

幹事会オブザーバー

合同開催

→ 流域治水協議会 [河川法、特定河川法、水防法]

山国川圏域流域治水協議会 規約

(設置)

第1条 本協議会は、「山国川圏域流域治水協議会」（以下「協議会」）と称する。

(目的)

第2条 本協議会は、令和元年東日本台風をはじめとした近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、山国川圏域において、あらゆる関係者が協働して圏域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的とする。

(協議会の構成)

第3条 協議会は、別表1の職にある者をもって構成する。

- 2 協議会の運営、進行及び招集は事務局が行う。
- 3 事務局は、第1項によるもののほか、協議会構成員の同意を得て、必要に応じて別表1の職にある者以外の者（学識経験者等）の参加を協議会に求めることができる。

(幹事会等の構成)

第4条 協議会に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、別表2の職にある者をもって構成する。
- 3 幹事会の運営、進行及び招集は事務局が行う。
- 4 幹事会は、協議会の運営に必要な情報交換、調査、分析、対策等の各種検討・調整を行うことを目的とし、結果について協議会へ報告する。
- 5 事務局は、第2項によるもののほか、幹事会構成員の同意を得て、必要に応じて別表2の職にある者以外の者（学識経験者等）の参加を幹事会に求めることができる。

(協議会の実施事項)

第5条 協議会は、次の各号に掲げる事項を実施する。

- 2 山国川圏域で行う流域治水の全体像を共有・検討。
- 3 河川に関する対策、流域に関する対策、避難・水防等に関する対策を含む、「流域治水プロジェクト」の策定と公表。
- 4 「流域治水プロジェクト」にもとづく対策の実施状況のフォローアップ。
- 5 その他、流域治水に関して必要な事項。

(会議の公開)

第6条 協議会は、原則として報道機関を通じて公開とする。ただし、審議内容によっては、協議会に諮り、非公開とすることができる。

- 2 幹事会は、原則非公開とし、幹事会の結果を協議会へ報告することにより公開と見なす。

(協議会資料等の公表)

第7条 協議会に提出された資料等については速やかに公表するものとする。ただし、個人情報等で公表することが適切でない資料等については、協議会の了解を得て公表しないものとする。

- 2 協議会の議事については、事務局が議事概要を作成し、出席した委員の確認を得た後、公表するものとする。

(事務局)

第8条 協議会の円滑な推進のための事務局を置く。

- 2 事務局は、福岡県、大分県、九州地方整備局山国川河川事務所に置く。

(書面による決議)

第9条 協議会は、次に掲げる事由に該当するものは、書面による決議を行うことができる。

- 一 至急の決議が必要で、協議会を開催するいとまがない事項
- 二 事前に協議会において書面による決議の了承を受けている事項

(雑則)

第10条 この規約に定めるもののほか、協議会の議事の手続きその他運営に関し必要な事項については、協議会で定めるものとする。

(附則)

第11条 本規約は、令和2年 8月 26日から施行する。

令和3年2月25日改定

令和3年6月7日改定

令和4年3月11日改定

令和4年6月30日改定

令和5年5月24日改定

令和6年5月28日改定

別表1 (協議会の構成員)

気象庁 福岡管区気象台長
 気象庁 大分地方気象台長
 中津市長
 吉富町長
 上毛町長
 福岡県 県土整備部 道路維持課長
 福岡県 県土整備部 河川管理課長
 福岡県 県土整備部 河川整備課長
 福岡県 県土整備部 港湾課長
 福岡県 県土整備部 砂防課長
 福岡県 建築都市部 都市計画課長
 福岡県 建築都市部 公園街路課長
 福岡県 建築都市部 下水道課長
 福岡県 建築都市部 住宅計画課長
 福岡県 教育庁 教育総務部 施設課長
 福岡県 農林水産部 農山漁村振興課長
 福岡県 農林水産部 林業振興課長
 大分県 生活環境部防災局 防災対策企画課長
 大分県 土木建築部 河川課長
 大分県 土木建築部 砂防課長
 大分県 土木建築部 都市・まちづくり推進課長
 大分県 土木建築部 公園・生活排水課長
 大分県 土木建築部 建築住宅課長
 大分県 農林水産部 農地・農村整備課長
 大分県 農林水産部 森林保全課長
 大分県 農林水産部 森林整備室長
 大分県 北部振興局 農林基盤部長
 大分県中津土木事務所長
 福岡県京築県土整備事務所長
 福岡県行橋農林事務所長
 大分西部森林管理署長
 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター九州整備局長
 国土交通省九州地方整備局 山国川河川事務所長

別表2 (幹事会の構成員)

気象庁 福岡管区気象台 気象防災部 予報課長
 気象庁 大分地方気象台 防災管理官
 中津市 総務部 防災危機管理課長
 中津市 上下水道部 排水対策課長
 吉富町 未来まちづくり課長
 上毛町 総務課長
 福岡県県土整備部 道路維持課 課長技術補佐
 福岡県県土整備部 河川管理課 課長技術補佐
 福岡県県土整備部 河川整備課 企画主幹
 福岡県県土整備部 港湾課 課長技術補佐
 福岡県県土整備部 砂防課 課長技術補佐
 福岡県建築都市部 都市計画課 課長技術補佐
 福岡県建築都市部 公園街路課 課長技術補佐
 福岡県建築都市部 上下水道課 課長技術補佐
 福岡県建築都市部 住宅計画課 課長技術補佐
 福岡県教育庁 教育総務部 施設課 課長技術補佐
 福岡県農林水産部 農山漁村振興課 企画監
 福岡県農林水産部 林業振興課 課長技術補佐
 福岡県農林水産部 農村森林整備課 課長技術補佐
 福岡県京築県土整備事務所 用地課長
 福岡県京築県土整備事務所 河川砂防課長
 福岡県行橋農林事務所農村整備第一課長
 大分県生活環境部防災局 防災対策企画課 主幹(総括)
 大分県土木建築部 河川課 主幹(総括)
 大分県土木建築部 砂防課 主幹(総括)
 大分県土木建築部 都市・まちづくり推進課 主幹(総括)
 大分県土木建築部 公園・生活排水課 課長補佐(総括)
 大分県土木建築部 建築住宅課 参事(総括)
 大分県農林水産部 農地・農村整備課 課長補佐(総括)
 大分県農林水産部 森林保全課 参事(総括)
 大分県農林水産部 森林整備室 室長補佐(総括)
 大分県北部振興局 農林基盤部 企画検査班課長補佐
 大分県中津土木事務所 次長兼企画調査課長
 大分西部森林管理署 総括治山技術官
 森林整備センター 九州整備局 水源林業務課長
 国土交通省九州地方整備局 山国川河川事務所 副所長

(オブザーバー)

九州農政局 農村振興部 洪水調節機能強化対策官 設計課 水利調整係長
 レスキュー・サポート九州 事務局長・理事



令和8年度 山国川圏域流域治水協議会

(1) 取り組みの振り返り

令和8年5月27日

令和6年度の取組内容およびアンケートの結果を踏まえ、昨年度の目標の更なる強化が必要であるため、令和7年度の取り組み目標については下記のとおりとする。

①流域治水プロジェクト2.0の着実な実装

- ・各機関による着実な取組の推進

②ロゴマークなどを活用した広報強化

- ・SNS等による積極的な活用（InstagramやHPなど）
- ・ロゴマークのさらなる活用（広報誌や配布物、工事看板など）
- ・自治体イベントにおけるのぼり旗の活用やグッズ配布

③関係機関の連携強化（現地視察、交流）

- ・各機関における認識度の向上（例：所内研修など）
- ・企業への営業活動（民間イベントや企業との連携）
（例：ショッピングモールのイベント参加、企業HPへの掲載など）
- ・現地視察候補（案）
排水ポンプ車、防災ステーション（工事中）、
田んぼダム実施箇所、他流域の対策実施箇所 など

○各機関の取組状況

- 唐原地区河川防災ステーション内に上毛町水防センターの建設工事に着手、完成 (上毛町)
ため池ハザードマップ新規追加分の作成及びため池劣化状況評価を実施中
- 移動式排水ポンプ配備 (排水能力：15m³/分) (吉富町)
- 豊田幼稚園雨水貯留施設整備に着手、令和8年度完成予定 (中津市)
角木雨水ポンプ場(中津川河口付近)の整備



ため池ハザードマップ新規追加作成



移動式排水ポンプ配備



豊田幼稚園雨水貯留施設整備



角木雨水ポンプ場 整備状況

○各機関の取組状況

- 東友枝川東上地区河道掘削工事中、黒川尻高地区河道掘削着手、有田川溪流保全工事着手、北谷川堰堤工事着手（京築県土整備事務所）
- 金吉川の特特殊堤工、津民川の旧橋撤去・特殊堤工完了（中津土木事務所）
- 山国川の河道掘削、護岸工および諏訪橋架替工（令和7年度旧橋撤去）（国）
- 相原地区築堤護岸工事、唐原地区河川防災ステーション整備（国）



山国川の河道掘削、護岸工



津民川の特特殊堤工



相原地区築堤護岸工事

○各機関の取組状況

○特定都市河川の指定に向けた検討(令和8年3月指定を目指します)

(中津市、大分県、国)

- ・勉強会の開催(令和7年6月20日、8月1日、10月9日、12月22日、3月6日)
申請書や説明資料の作成、流域水害対策メニューの検討など
- ・地元説明会の開催(本耶馬溪町: 8月19日、山国町: 8月20日、耶馬溪町: 8月21日)
流域治水の必要性、特定都市河川浸水被害対策法、雨水浸透阻害行為などについて説明
- ・民間事業者(不動産、宅建、建設業、コンサルタント等)等への説明、周知(10月)



本耶馬溪公民館にて地元説明会



流域治水ハウスによる説明



チラシ: 雨水浸透阻害行為について(大分県)



チラシ: 特定都市河川に指定されると

○各機関の取組状況

○特定都市河川の指定に向けた検討(令和8年3月24日指定)

- ・申請書の上申(九州地方整備局長⇒国土交通大臣)
- ・指定法定意見聴取(国土交通大臣⇒県知事、市町長)
- ・基準降雨法定意見聴取(県知事⇒河川管理者)
- ・特定都市河川の指定、公示、確認書調印式

(中津市、大分県、国)

令和7年12月 1日)

令和8年1月16日)

令和8年1月19日)

令和8年3月24日)

山国川中上流域では、流域治水を推進し、水害に強いまちづくりに取り組むため、特定都市河川浸水被害対策法に基づき「特定都市河川」及び「特定都市河川流域」指定を行いました。(令和8年3月24日指定)



なぜ、山国川で「特定都市河川」「特定都市河川流域」の指定をするの?
山国川中上流では、平成24年7月洪水等、幾度となく浸水被害が発生しています。また、気候変動の影響による降雨量の増加が予測されています。このため「特定都市河川」の制度を活用し「流域治水」を強力に推進し、水害に強いまちを目指します。

「特定都市河川浸水被害対策法」とは?
都府県を流れる河川及びその流域について、浸水被害防止のための対策を推進する法律です。令和3年の改正により、特定の河川が追加されました。

「流域治水」とは?
気候変動の影響による水災害の激甚化・複発化を踏まえ、河川整備等の推進に加え、流域のあらゆる関係者が連携して流域全体で水災害対策を行う考えです。

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism



Press Release

令和8年3月18日
九州地方整備局
山国川河川事務所

山国川水系山国川等を「特定都市河川」に指定【大分県内初】

～まちの魅力を未来へつなぐ、みんなで守る 流域治水の本格的実践～

流域治水の本格的な実践に向けて、流域治水関連法の中核をなす特定都市河川浸水被害対策法第3条第1項等に基づき、令和8年3月24日、山国川水系山国川等の計10河川(大分県)を、特定都市河川に指定します。

- 今後、山国川水系山国川等では、河川管理者・流域の自治体の長、下水道管理者等からなる流域水害対策協議会を組織し、河川修繕等のハード対策の推進に加え、雨水貯留施設や雨水流出抑制施設等の内水対策の実施、水害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり等の浸水被害対策を流域一体で計画的に進めるための流域水害対策計画の策定を進めてまいります。
- また、指定日である令和8年3月24日から、流域内において一定規模以上の土地を、宅地にする行為等について、河川への雨水の流出増加を抑制するための対策を義務付ける運用が開始されます。
- なお、指定に伴い「山国川水系特定都市河川及び流域の指定」確認書調印式下記の日時に行います。

- 開催日時 : 令和8年3月24日(火) 15:00～(30分程度)
- 開催場所 : 中津市役所 3階大会議室
- 出席予定者 : 調整中

(添付資料)

- 添紙1 「流域治水」の本格的な実践に向けた山国川水系山国川等の特定都市河川への指定
- 添紙2 山国川水系山国川等の特定都市河川と流域の概要
- 添紙3 「山国川水系特定都市河川及び流域の指定」確認書調印式 式次第(案)
- 参 考 法的特許を活用した「流域治水」の本格的実践

【問合せ先】

国土交通省 九州地方整備局 山国川河川事務所
TEL 0979-24-0571(代表)
副所長(技術) 最前 敬明
流域治水課長 山本 貴之



○各機関の取組状況

○流域治水のぼり旗、ロゴマークの現場掲示

(京築京築県土整備事務所、国)



相原地区堤防整備(国)



災害復旧〔友枝川〕(京築県土)



原井地区護岸整備(国)



百留地区護岸整備(国)

流域治水のぼり旗、ロゴマークの現場掲示

○各機関の取組状況

- 水田の貯留機能向上の推進（のぼり旗作成、掲示・缶バッジ作成・パンフ配布） [大分県北部振興局]
- ロゴマークのマグネットを作成し、公用車へ貼り付けのPR活動（山国川改修期成同盟会の促進費より）
- 流域治水ののぼり旗の設置（本庁・支所等） [福岡県、京築県土、中津土木、上毛町、吉富町、中津市、国]
- ロゴマークを移動式ポンプの発電機へ貼り付け啓発 [中津市、吉富町]
- 流域治水に関する記事を広報誌へ掲載 [中津市、吉富町]
- 流域治水パンフレット「みんなで考えよう流域治水」 [福岡県河川整備課]
- イベントでの流域治水ののぼり旗の掲示、缶バッジ、うちわ等の配布（R7. 7. 6） [国・吉富町]
- 名刺等への利用 [国・企業]



田んぼダムの缶バッジ作成
（大分県北部振興局）



田んぼダムののぼり旗作成
（中津市三光）



（中津市）



（吉富町）

公用車へのロゴマーク掲示



(上毛町)



(中津市)



(大分県北部振興局)
公用車へのロゴマーク掲示



(中津土木事務所)



(福岡県河川整備課)



(国)
マグネットを公用車等への貼付・啓発



(吉富町)



(京築県土整備事務所)



(中津市)
発電機へロゴマークの貼付・啓発



(吉富町)

流域治水のぼり旗の設置・啓発



中津市広報資料
(山国川の治水)
[山国川の治水_中津市](#)



吉富町広報資料
(よしとみ防災特集)
[広報よしとみ_吉富町](#)

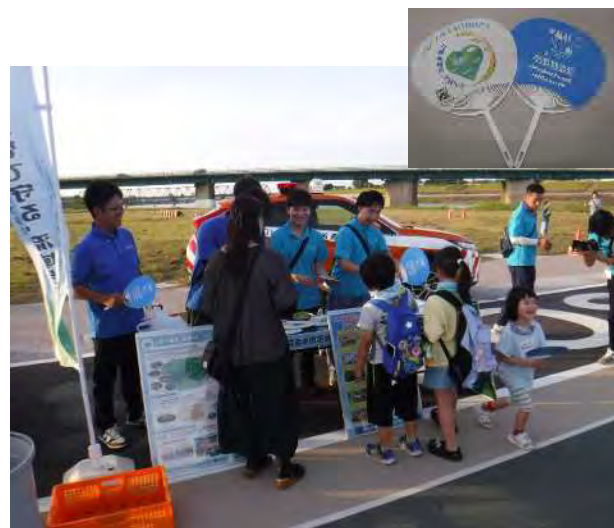
流域治水に関する記事の掲載



上毛町広報資料
(防災特集)
[広報こうげ_上毛町](#)



「みんなで考えよう流域治水」(福岡県)
流域治水パンフレット作成・配布



「水辺でカンパイ」(吉富町)

イベントでのぼり旗の掲示・うちわ等配布



「田んぼダムに取り組もう!」(大分県)
田んぼダムパンフレット作成・配布



「工事だより」にロゴ使用



名刺への活用



民間企業の方も使用

○各機関の取組状況

○小学校への防災教室

○町内河川水路一斉清掃活動の実施(令和7年5月11日:1,600人参加、11/9)

○「田んぼダム」出前授業を実施(令和7年7月15日)

○企業と連携した広報活動(令和7年5月11日、11月16日)

田んぼダムの模型⇒

(上毛町)

(吉富町)

(大分県北部振興局)

(中津市、国)



対象:上毛町立西吉富小学校(防災授業)



全町内河川水路一斉清掃活動(吉富町)



ショッピングモールでの防災フェス



対象:上毛町立西吉富小学校(避難所見学)
小学校への防災教室



○各機関の取組状況

○防災学習会及び各種訓練の実施

○海岸清掃の実施(R7. 9. 28:800人参加)、流域治水アンケート実施、チラシ等配布

○山国川水防演習の実施(令和7年6月1日)

[中津市]

[吉富町、国]

[中津市、国]



防災学習会の実施(女性、外国人)



吉富海岸清掃の実施



各種訓練の実施(中津市)



流域治水アンケートの実施、チラシ等配布



山国川水防演習の実施

○各機関の取組状況

○学校への出前授業(R7. 10. 9:城北中学校)

[中津市、国]

○「山国川の日」河川一斉清掃(R7. 10. 18)

[京築県土、中津土木、中津市、吉富町、上毛町、国]

○県立工科短期大学園祭(昂華祭)にて広報活動の実施(R7. 11. 1~2)

[中津市、中津土木、国]



浸水ドア体験(城北中学校)



山国川河川一斉清掃の実施



県立工科短期大学学園祭(昂華祭)



避難所運営〔中津市〕



○各機関の取組状況

- 全町民防災避難訓練（令和7年11月16日、約400人参加）
- 外国人のためのバスツアー（令和7年12月14日、25人参加）
- 土砂災害避難促進アクションプログラム（令和7年10月18日、11月8日）

〔吉富町、国〕
〔中津市、国〕
〔大分県・中津市〕



全町民防災避難訓練(吉富町)



外国人のためのバスツアー(耶馬溪ダム・耶馬溪橋等)



ハザードマップの再点検(中津市)



地区タイムライン作成(中津市)

土砂災害避難促進アクションプログラム(大分県)

○自治体へのヒアリング

○流域治水への取組状況や課題の抽出のため、自治体へのヒアリングを実施(令和7年8月～9月)

○中津市・上毛町・吉富町を対象に、流域治水のソフト面・ハード面での取組内容や課題について意見交換

中津市ヒアリング(令和7年8月25日(月))



上毛町ヒアリング(令和7年8月26日(火))



吉富町ヒアリング(日時:令和7年9月4日(木))



○大分県北部振興局を対象に、治山事業や田んぼダムの取組や課題について意見交換

大分県北部振興局ヒアリング(令和7年9月4日(月))

治山事業に関するヒアリング



田んぼダムに関するヒアリング



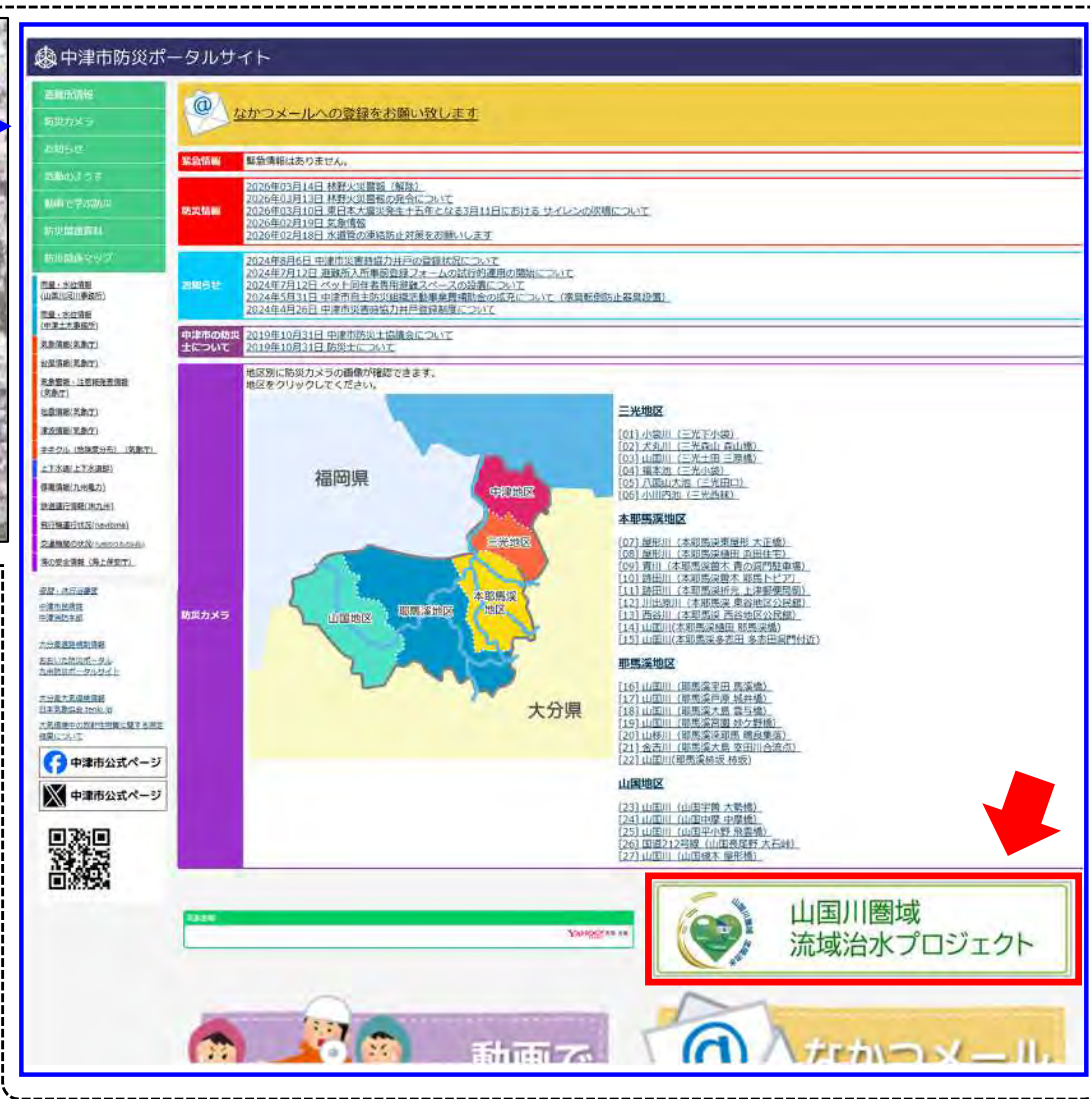
田んぼダムに関して
活用しているグッズ
(のぼり旗、缶バッチ)

○各所ホームページへのリンクバナー設置

○山国川圏域流域治水のホームページへのリンクを設定したバナーの設置



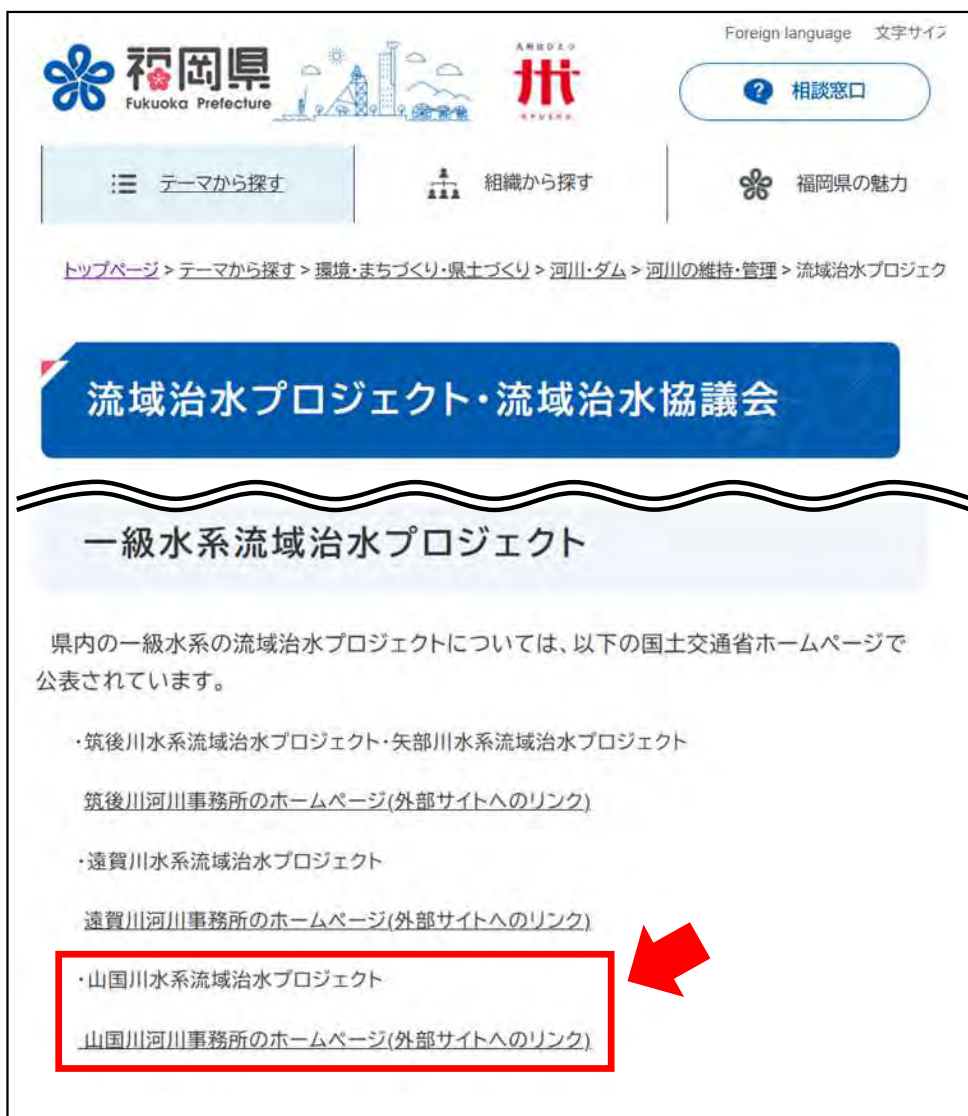
京築県土整備事務所ホームページのバナー設置状況



中津市ホームページのバナー設置状況
(防災ポータルサイト内に設置)

○各所ホームページへのリンク設置

○山国川圏域流域治水のホームページへのリンクを設置



福岡県ホームページのスクリーンショット。上部には「福岡県 Fukuoka Prefecture」のロゴと「相談窓口」のボタンがある。中央には「流域治水プロジェクト・流域治水協議会」の大きな青いボタンがあり、その下に「一級水系流域治水プロジェクト」のセクションがある。このセクションには、県内の一級水系の流域治水プロジェクトについての説明があり、以下のリンクがリストアップされている:

- ・筑後川水系流域治水プロジェクト・矢部川水系流域治水プロジェクト
- 筑後川河川事務所のホームページ(外部サイトへのリンク)
- ・遠賀川水系流域治水プロジェクト
- 遠賀川河川事務所のホームページ(外部サイトへのリンク)
- ・山国川水系流域治水プロジェクト
- 山国川河川事務所のホームページ(外部サイトへのリンク)

この中で、「山国川水系流域治水プロジェクト」と「山国川河川事務所のホームページ(外部サイトへのリンク)」は赤い枠で囲まれ、赤い矢印が指している。

福岡県ホームページのリンク設置状況



大分県ホームページのスクリーンショット。上部には「大分県 Oita Prefectural Government」のロゴと「防災ポータル」「分類でさがす」のボタンがある。中央には「令和5年度 流域治水協議会」「令和4年度 流域治水協議会」「令和3年度 流域治水協議会」のリンクがあり、その下に「関連リンク」のセクションがある。このセクションには、国土交通省が示す「流域治水」の基本的な考え方はこちらです。という説明があり、以下のリンクがリストアップされている:

- 流域治水の推進
- 流域治水プロジェクトについて
- 国土交通省が実施する大分県内の一級水系での取組みはこちらです。
- 山国川水系流域治水プロジェクト
- 筑後川水系流域治水プロジェクト・矢部川水系流域治水プロジェクト
- 番匠川水系流域治水プロジェクト
- 大分川・大野川水系流域治水プロジェクト
- 五ヶ瀬川水系流域治水対策プロジェクト

この中で、「山国川水系流域治水プロジェクト」は赤い枠で囲まれ、赤い矢印が指している。

大分県ホームページのリンク設置状況

流域治水協働推進事業 要綱等の改正



<要綱の適用期間について>

・この要綱は、令和8年4月1日から施行し、令和8年度から令和10年度までの補助金について適用する

<容量500m3未満の雨水貯留浸透施設の整備について要件を拡充>

・これまでの流域治水協働推進事業(整備費)は国庫補助事業(流域貯留浸透事業)の採択を受けた事業であることが要件となっていたため、国庫補助事業(流域貯留浸透事業)の要件である、500m3以上の雨水貯留浸透施設の整備のみ補助を受けることができた。

・今回の改定で、500m3未満の雨水貯留浸透施設の整備についても補助対象とすることにより、市町村等が行う流域治水をさらに推進する。

【流域治水協働推進事業】

事業負担割合(令和5年度～令和7年度)

事業内容	事業者	負担率			
		国	県※1	市町村	民間事業者
雨水貯留浸透施設の整備のための調査	市町村	-	1/2	1/2	-
雨水貯留浸透施設の整備※2(容量500m3以上)	市町村	1/3	1/3	1/3	-
	民間事業者※3	1/3	1/3	1/6	1/6



事業負担割合(令和8年度～令和10年度)

事業内容	事業者	負担率			
		国	県※1	市町村	民間事業者
雨水貯留浸透施設の整備のための調査	市町村	-	1/2	1/2	-
雨水貯留浸透施設の整備(容量500m3以上) ※2	市町村	1/3	1/3	1/3	-
	民間事業者※3	1/3	1/3	1/6	1/6
雨水貯留浸透施設の整備(容量500m3未満) ※4	市町村	-	1/3	2/3	-
	民間事業者※3	-	1/3	1/3	1/3

今回改定

※1 負担率は上限値であり、予算の状況により、上限値内で定めます。

※2 社会資本整備総合交付金交付要綱に定められている「流域貯留浸透事業」の採択を受けた事業であることが要件となります。

※3 民間事業者への補助について、国、県の補助金額を除いた事業費の1/2以上を市町村が負担する必要があります。また、民間事業者の交付申請等の手続きは、市町村を通じて行います。

※4 流域治水プロジェクトに事業計画を記載、又は記載の予定がある事業であることが要件となります。

参考資料

- ・流域治水の自分事化に向けた取組の整理
- ・コアメンバー会議の概要

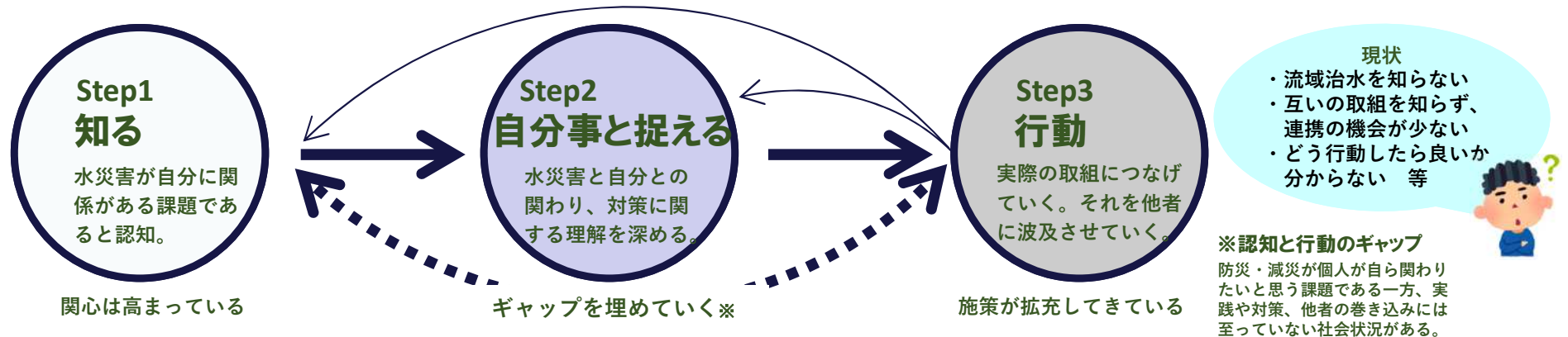
山国川圏域における 流域治水の自分事化に向けた取組の整理

治水推進における“自分事化”の取り組み

山国川圏域治水流域治水

●現状と自分事化の必要性

激甚化・頻発化する水災害から命を守り、被害を最小限にするためには、住民や企業等が自ら水害リスクを認識し、**自分事として捉え、主体的に行動**することに加え、さらに、視野を広げて、流域全体の被害や水災害対策の**全体像を認識**し、自らの行動を深化させることで、流域治水の取り組みを推進していく必要があります。（R5.8.30 国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課記者発表資料より）



●山国川圏域流域治水における“自分事化”の取り組み

みんなで流域治水

知る機会を増やす

流域治水の広報活動・ツール開発



山国川圏域オリジナルの流域治水パンフレット
家庭での治水対策模型実験
イベント等での広報活動

自分事と捉えることを促す

教育活動・リスク情報等の提供（見える化）



R5.7月豪雨被災地等の住民勉強会バスツアー
災害に強い森林づくり実施箇所等の現地視察
山国川クリーンアップ
山国川流域のハザードマップ
デジタルテストベッド3Dマップでの見える化

行動を誘発する

訓練活動・災害対策支援・連携活動・計画策定



山国川クリーンアップ
防災訓練
水防活動拠点整備
親子防災キャンプ
ジュニア防災リーダー養成
田んぼダムの現地実証

山国川圏域流域治水協議会

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

連携活動

- メディアとの連携による洪水・土砂災害情報の提供(国)
- 行政実務者コアメンバーによる現地視察(1回)
- 自治体との防災対応の振り返り(気象台)
- 防災ワークショップ(気象台)
- テレビとの連携による情報配信の強化(吉富町)
- 流域内の学校で「流域治水＆防災」展開催(国・大分県・中津市)
- 企業と連携した広報活動(国・中津市)
- 「山国川の日」河川一斉清掃(国・大分県・福岡県・中津市・吉富町・上毛町)



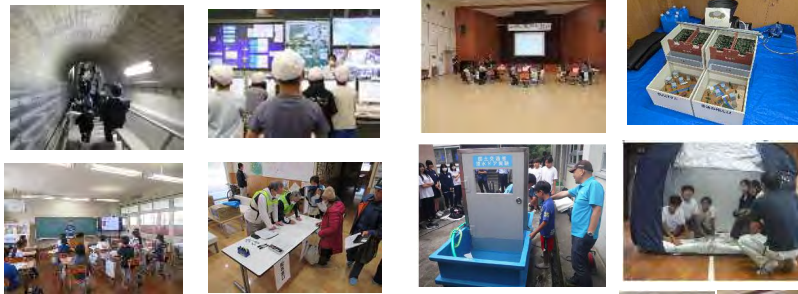
流域治水の広報

- YouTubeへの動画配信【河川カメラ画像】(国)
- 流域治水パンフレットの作成・配布・掲載(福岡県、国)
- 流域治水ロゴマークを活用した普及啓発(国等)
- おおいた防災VR等を活用した住民の防災意識の醸成(大分県)
- 広報誌等による周知・啓発・防災情報の提供(吉富町、中津市)



教育活動・人材育成

- ダム見学会における防災教育
- 小中学校等への防災教育・出前講座等の開催(福岡県、中津市、上毛町、国、気象台)
- 田んぼダムの出前授業の実施(大分県)
- 雨水浸透・貯留の分かりやすい模型教材の展示(国)
- 水辺で乾杯による地域住民との連携強化(吉富町・国)
- 防災士養成・スキルアップ研修(大分県)
- 消防学校へ講師派遣(大分県)
- 土木未来教室等の開催【小中学校】(大分県)
- ジュニア防災リーダーの養成の推進(中津市)
- 防災講演会の開催(吉富町)
- 防災資格取得の推進(上毛町)



リスク情報等の提供

- 出水時の指定河川洪水予測(国)
- 危機管理水位計による情報発信(国)
- 水害リスクマップ・防災マップ・ハザードマップの作成・更新・運用(福岡県、中津市、吉富町、上毛町、国)・作成支援(大分県)
- 防災情報の配信(福岡県、大分県、国)、防災気象情報の提供(気象台)
- 緊急速報メールによる洪水情報の提供(国)
- デジタルテストベッド等の運用(国)
- 浸水想定区域・土砂災害警戒区域等の公表(大分県)
- 洪水浸水想定区域図の作成・配信(福岡県)

訓練活動

- 住民参加型の避難訓練の実施(吉富町、国)
- 山国川水防演習の実施(中津市・国)



水防活動の支援

- 災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化(国)
- 水防活動拠点整備[唐原地区防災ステーション整備](国)



水災害対策の支援

- 出水期前に希望する市民への土のうの事前配布(国)
- 田んぼダム堰板の設置[現地実証](中津市)
- 雨水貯留浸透施設の促進(福岡県)



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

開催概要

日時:令和7年4月23日(水) 14:00~16:00
場所:中津土木事務所 3階大会議室

会議の構成員

機関及び団体名、部署名
中津市 上下水道部 排水対策課
中津市 建設部 まちづくり推進課
中津市 産業経済部 耕地課
中津市 産業経済部 林業水産課
吉富町 未来まちづくり課
吉富町 建設課
上毛町 総務課
上毛町 建設課
上毛町 産業振興課
福岡県 県土整備部 河川整備課
福岡県 京築県土整備事務所 河川砂防課
福岡県 行橋農林事務所 農村整備第一課
大分県 土木建築部 河川課
大分県 農林水産部 農地・農村整備課
大分県 北部振興局 農林基盤部 企画検査班
大分県 中津土木事務所 企画調査課
国土交通省 九州地方整備局 山国川河川事務所

議事内容

1. 流域治水協議会等の取り組みの振り返りについて
2. 流域治水協議会（コアメンバー会議）の今後の取組について
3. 特定都市河川の指定に向けた取組について

令和7年度の取組目標

山国川圏域の令和7年度の取組目標として以下の3つを柱とし、今後調整しながら進めていくこととなった。

- ① 流域治水プロジェクトの着実な実装
- ② ロゴマークなどを活用した広報強化
- ③ 関係機関の連携強化（現地視察、交流）

事務局からの取組状況の紹介・意見交換

1. 流域治水協議会等の取り組みの振り返りについて

- これまでの流域治水協議会等の取り組みを説明
- 企業の取組では、**飲料・食料等の災害時無償開放型自動販売機**を設置している事例がある。（吉富町未来まちづくり課）
- ため池ハザードマップ**の作成は継続中である。（上毛町総務課）
- 東友枝川河道掘削**は現在工事中である。（京築県土整備事務所）

2. 流域治水協議会（コアメンバー会議）の今後の取組について

- 今後の取組（**スケジュール、ロゴマークの活用、現地視察、その他イベント**）について議論し、年間スケジュールについて確認した。
- 流域治水の認知度アンケート結果**について説明。
- 山国川圏域流域の**令和7年度の3つの取組目標と具体内容**を議論し、幹事会に諮ることとなった。
- 流域治水の認知に向けた取組について以下の意見や提案があった。
 - ・**流域治水に関連する工事について認定し、HP等で公表**。また、**会社のHPや名刺にロゴマークを記載**。（中津土木事務所）
 - ・**車両にロゴマークのステッカーを張る**。（京築県土整備事務所）
 - ・自治体の**広報誌**に掲載。（山国川河川事務所）
 - ・**イベントでグッズを配布**。（上毛町産業振興課）

- ・外部に加え、関係機関の**組織内の認知度**も向上させることが重要。（山国川河川事務所）
- ・認知度アンケートは**ハザード対象エリア内外に分けて集計**したほうが良い。（京築県土整備事務所）
- ・ロゴマーク入りの**グッズを職員へ配布**。物をもらうほうが認知され易い。（上毛町総務課）
- ・**期成会**で車のステッカーを作成しているのは良い取組。（山国川河川事務所）
- ・グッズ等の製作は予算が必要である。各機関が**予算確保の方法を確認する必要がある**。（中津市林業水産課）
- ・今年は秋祭りがあるので、昨年と同様に**流域治水のブース**を設置。また、**河川敷の多目的広場のバスケットコート**に人が集まっているので、そこに**のぼり旗等**を設置。（吉富町建設課）

3. 特定都市河川の指定に向けた取組について

- ・特定都市河川の取組状況を説明。
- ・5月28日の流域治水協議会で、特定都市河川へ取り組んでいくことを中津市長が発表する予定である。（中津市）



開催概要

日時：令和7年10月22日(水) 13:30～17:00
場所：本耶馬溪公民館、諏訪橋架替工事現場

会議の構成員

機関及び団体名、部署名	
中津市	上下水道部 排水対策課
	産業経済部 耕地課
	産業経済部 林業水産課
	総務部 防災危機管理課
吉富町	建設課
上毛町	産業振興課
福岡県	県土整備部 河川整備課
	京築県土整備事務所 河川砂防課
	行橋農林事務所 農村整備第一課
大分県	土木建築部 河川課
	農林水産部 農地・農村整備課
	北部振興局 農林基盤部規格検査班
	北部振興局 農林基盤部治山林道第一班
国土交通省 九州地方整備局 山国川河川事務所	

議事内容

- 議題1：令和7年度流域治水プロジェクト
取組状況の共有
議題2：企業ヒアリングの結果共有
議題3：その他
議題4：民間企業の取り組み紹介
現地視察：諏訪橋架替工事現場

R7年度の取り組み目標

- ①流域治水プロジェクト2.0の着実な実装
・各機関による着実な取組の推進
- ②ロゴマークなどを活用した広報強化
・SNS等による積極的な活用（InstagramやHPなど）
・ロゴマークのさらなる活用（広報誌や配布物、工事看板など）
・自治体イベントにおけるのぼり旗の活用やグッズ配布
- ③関係機関の連携強化（現地視察、交流）
・各機関における認識度の向上
・企業への営業活動（民間イベントや企業との連携）
・現地視察候補（案）
→排水ポンプ車、防災ステーション（工事中）、田んぼダム実施箇所、他流域の対策実施箇所など

R7年度のスケジュール

- 4月 コアメンバー会議①
年度当初の顔合わせ及び幹事会・協議会に向けた打合せ
- 5月 幹事会
- 5月 協議会
- 10月 コアメンバー会議【中間報告】（今回）
上半期の取り組み状況、連絡事項等の意見交換＋現地視察
- 2月中旬 予定
コアメンバー会議【とりまとめ】
下半期の取り組み状況、連絡事項、来年度に向けて等の意見交換＋現地視察





R7年度の各機関の取組状況の紹介

■流域治水プロジェクト2. 0の着実な実装

- 唐原地区河川防災ステーション内に上毛町水防センターの建設事に着手、ため池ハザードマップ新規追加分の作成及びため池劣化状況評価を実施中 [上毛町]
- 移動式排水ポンプ配備(排水能力：15m³/分) [吉富町]
- 豊田幼稚園雨水貯留施設整備に着手（令和8年度完成予定）、角木雨水ポンプ場（中津川河口付近）の整備（令和8年度末完成予定） [中津市]
- 東友枝川東上地区河道掘削工事中、黒川尻高地区河道掘削着手予定、有田川溪流保全工事着手、北谷川堰堤工事着手 [京築県土整備事務所]
- 相原地区築堤護岸工事、唐原地区河川防災ステーション整備 [国]
- 特定都市河川の指定に向けた検討(令和8年3月指定を目指す) [中津市、大分県、国]
- ・勉強会の開催（令和7年6月20日、8月1日、10月9日、12月予定、2月予定）
- ・地元説明会の開催（本耶馬溪町：8月19日、山国町：8月20日、耶馬溪町：8月21日）
- ・民間事業者（不動産、宅建、建設業、コンサルタント等）等への説明、周知（10月）

■ロゴマークなどを活用した広報強化

- 流域治水のぼり旗、ロゴマークの工事現場掲示 [京築県土整備事務所]
- 水田の貯留機能向上の推進（のぼり旗作成、掲示・缶バッジ作成・パンフ配布） [大分県北部振興局]
- 流域治水のぼり旗の設置(本庁・支所・出張所) [福岡県、中津土木事務所、上毛町、吉富町、中津市、国]
- ロゴマークのマグネットを作成し、公用車へ貼り付けのPR活動 [中津市、吉富町、上毛町]
- ロゴマークを移動式ポンプの発電機へ貼り付け啓発 [中津市、吉富町]
- 流域治水に関する記事を広報誌へ掲載 [中津市、吉富町]
- 「水辺で乾杯」での流域治水のぼり旗の掲示、缶バッジ、うちわ等の配布（R7.7.6） [国・吉富町]
- 流域治水パンフレット「みんなで考えよう流域治水」 [福岡県河川整備課]
- 名刺等への利用 [国・企業]

■関係機関の連携強化（現地視察、交流）

- 小学校への防災教室 [上毛町]
- 全町民防災避難訓練（国、町）（R7年11/16）予定 [吉富町]
- 町内河川水路一斉清掃活動の実施（R7年5/11：1,600人参加、11/9予定） [吉富町]
- 「田んぼダム」出前授業を実施（令和7年7月15日） [大分県北部振興局]
- 企業と連携した広報活動（R7年5/11、11/16予定） [中津市、国]
- 防災学習会及び各種訓練の実施 [中津市]
- 海岸清掃の実施（R7.9.28:800人参加）、流域治水アンケート実施、チラシ等配布 [吉富町、国]
- 山国川水防演習の実施（令和7年6月1日） [中津市、国]
- 県立工科短期大学園祭（昇華祭）にて広報活動の実施（R7.11.1～2） [中津市、中津土木、国]

■その他

- 市町村や民間事業者が実施する雨水貯留浸透施設の整備費の補助支援（予算は県単独費）
- <実例(R5～R7)：整備のための調査支援→2市町村、整備費補助→2市町村・1事業者>
- 民間事業者としては全国で初めて、三井化学（大牟田市）が国交省の交付金を活用して所有グラウンドに雨水貯留浸透施設を整備 [福岡県]

その他、情報提供や意見・感想

- ・県、ため池推進協議会の補助を受け堰板（1枚約600円）を300枚、三光ファームをはじめ提供予定。 [中津市]
- ・流域治水サークルの立ち上げに当たって、山国川河川事務所のHPに企業紹介のページを作成予定であり、各機関のHP等にこのページのリンクを貼れるか次回のコアメンバー会議までに確認してほしい。 [国]
- ・学校の統廃合によるグラウンドの活用についての話題を取り上げてほしい。
- ・流域治水のアピールの場としてフェス等を開催してはどうか。
- ・個人の取り組みとして雨水貯留タンクの普及啓発（自治体の補助や広報強化）について聞きたい。
- ・市民より直接、流域治水の取組やアイデアを聞いてみたい。
- ・流域治水に取り組んでいる市町村や課題について談義、視察を実施したい。
- ・山国川圏域流域治水サークルについて談義したい。
- ・ダイハツへの視察を行いたい。

久恒山林（株）の取り組み

- 先代が炭鉱業や観光業を経て1991年に林業を開始するも、経営が厳しくなる。
- 2000年、久恒雄一郎氏（現社長）は建設会社を退職後、帰郷し林業の立直しに着手。
- 収益性の低さから伐採跡地を放棄する山林所有者も増えており、公益的機能を果たす森づくりと持続可能な林業の両立が課題であった。
- 様々な取り組みを実施するも、リーマンショック後の木材価格暴落により旧会社が解散。
- 継続していた燃料供給事業や手応えのあったアロマ事業に林業の持続可能性の答えを感じ、森の成長を見守る楽しさも相まって、2014年に新会社（久恒山林株式会社）を設立。
- 大分県産業創造機構の支援を受け、アロマブランド「六月八日」を立ち上げた。
- 都会の30,40代女性をターゲットとしており、ワークショップや森の体験等も実施して森の恩恵やストーリーを伝えている。



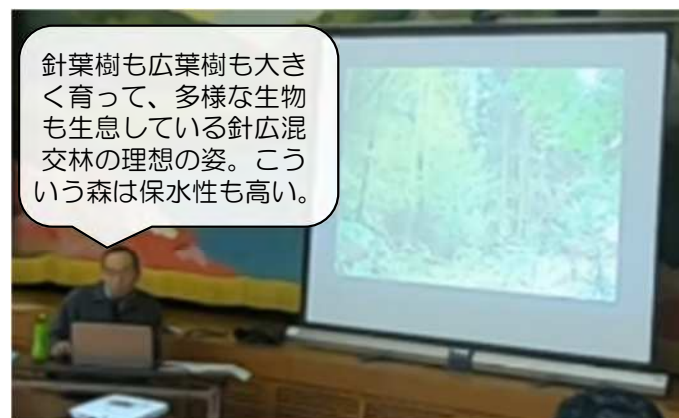
普段、お客様向けに山林を下りながら山の機能について説明している風に、各スポットの写真の写真を流しながら説明いただいた。



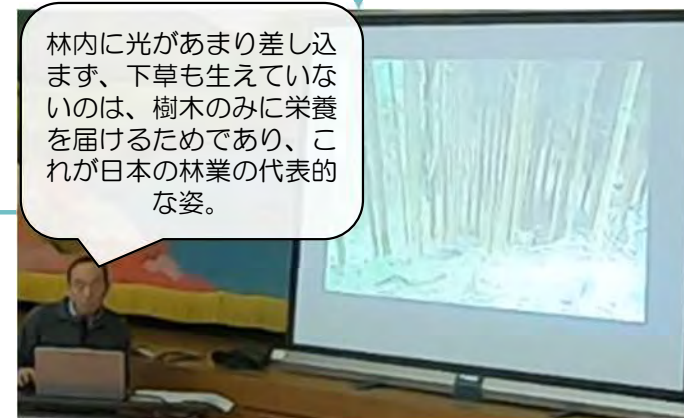
落ち葉などのリターが長い年月をかけて、表土を形成し、生物の多様性を育む。



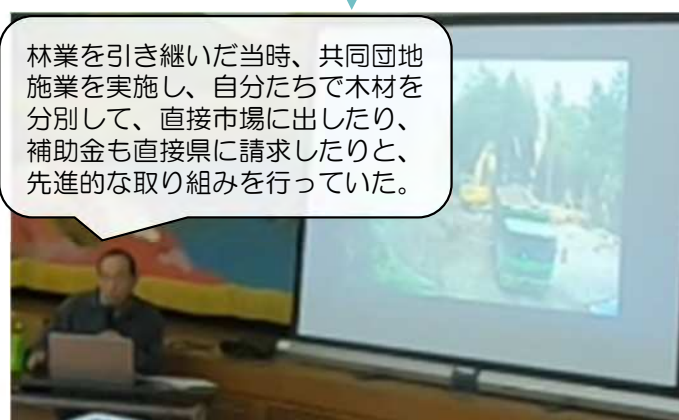
法面を切って急斜面になったことにより、植物が根付きにくくなっているが、根付いた箇所を中心に少しずつ植生が拡大。



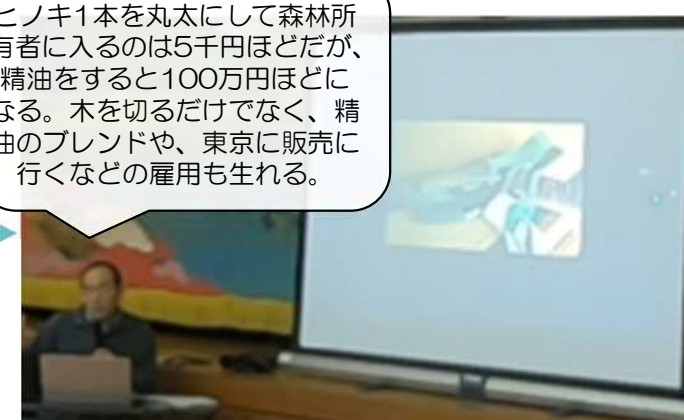
針葉樹も広葉樹も大きく育て、多様な生物も生息している針広混交林の理想の姿。こういう森は保水性も高い。



林内に光があまり差し込まず、下草も生えていないのは、樹木だけに栄養を届けるためであり、これが日本の林業の代表的な姿。



林業を引き継いだ当時、共同団地施業を実施し、自分たちで木材を分別して、直接市場に出したり、補助金も直接県に請求したりと、先進的な取り組みを行っていた。



ヒノキ1本を丸太にして森林所有者に入るのは5千円ほどだが、精油をすると100万円ほどになる。木を切るだけでなく、精油のブレンドや、東京に販売に行くなどの雇用も生れる。

諏訪橋架替工事現場の見学

■視察概要

- ・日時：令和7年10月22日(水) 16:30～17:00
- ・場所：諏訪橋
- ・講師：大分県中津土木事務所

■諏訪橋架替工事の概要

- ・耶馬溪ダムより上流区間が大分県の管理区間。
- ・平成24年の出水をきっかけに平成25年度から河積の拡大や橋梁の架け替えといった対策事業を恒久的に実施。
- ・全体事業費は約95億円。
- ・暫定では10年確率で整備を進め、平成24年降雨と同規模の降雨があった際に床上浸水を防ぐ。
- ・最終的には40年確率で整備を進め、平成24年降雨と同規模の降雨があった際に堤防満杯で流下させる計画。
- ・諏訪橋では、洪水の際に橋梁の桁がネックとなって平成24年以降で4回浸水している。
- ・山国町区間ではこのネックとなっている橋梁を先行して架け替えている。
- ・嵩上げて新設した橋梁に擦り付けるように堤防や道路も整備。
- ・橋梁の新設が完了次第、既存の橋梁を撤去予定。





開催概要

日時：令和8年2月12日(木) 14:00～15:30

場所：中津土木事務所 3階大会議室

会議の構成員

機関及び団体名、部署名	
中津市	上下水道部 排水対策課
	建設部 まちづくり推進課
	産業経済部 耕地課
	産業経済部 林業水産課
	総務部 防災危機管理課
吉富町	未来まちづくり課
	建設課
上毛町	総務課
	建設課
	産業振興課
福岡県	県土整備部 河川整備課
	京築県土整備事務所 河川砂防課
	行橋農林事務所 農村整備第一課
大分県	土木建築部 河川課
	北部振興局 農林基盤部規格検査班
	北部振興局 農林基盤部治山林道第一班
	中津土木事務所 企画調査課
国土交通省 九州地方整備局 山国川河川事務所	

議事内容

- ①前回コアメンバー会議の振り返り
- ②各機関の取り組み状況
- ③流域治水の取り組み検討について
 - ・ 田んぼダムの取り組み検証
 - ・ 森林整備の取り組み検証
- ④広報活動の促進について
 - ・ 認知度アンケート
- ⑤民間企業との連携について
 - ・ 流域治水サークル
- ⑥今後の取り組み
 - ・ 今後のスケジュール
 - ・ アンケート
 - ・ 来年度の取り組み目標

R8年度のスケジュール案

- 4月中～下旬予定 コアメンバー会議①
年度当初の顔合わせ及び幹事会・協議会に向けた打合せ
- 5月19日予定 幹事会
- 5月27日午後予定 協議会
- 秋季予定 コアメンバー会議【中間報告】
上半期の取り組み状況、連絡事項等の意見交換+現地視察
- 冬季予定 コアメンバー会議【とりまとめ】
下半期の取り組み状況、連絡事項、来年度に向けて等の意見交換+現地視察



R7年度の取組状況の紹介・意見交換

■各機関の取り組み状況 (R710月以降分)

- 特定都市河川の指定に向けた検討を実施。 [中津市、大分県、国]
- 工事現場への流域治水のぼり旗、ロゴマークの掲示。 [京築県土、国]
- 不要になった選挙用のマグネットシートをリメイクして、田んぼダムをPRするシートを作成し、公用車へ掲示。 [北部振興局]
- 「工事日より」にロゴマークを掲載し、周辺住民へ周知。 [国]
- 城北中学校への出前授業の実施。 [中津市、国]
- 「山国川の日」に河川の一斉清掃を実施。 [京築県土、中津土木、中津市、吉富町、上毛町、国]
- 県立工科短期大学園祭にて広報活動の実施。 [中津市、中津土木、国]
- 全町民防災避難訓練を約400人参加のもと実施。 [吉富町、国]
- 外国人向けに、耶馬溪ダムや耶馬溪橋等を見学する防災バスツアーを実施。 [中津市、国]
- 土砂災害避難促進アクションプログラムを開催し、ハザードマップの再点検や地区タイムラインの作成を実施。 [大分県、中津市]
- 流域治水協働推進事業（補助金）をR8.4月以降も継続予定。 [福岡県]



不要なマグネットシートを活用した、田んぼダムPRシート

■流域治水の取り組み検討について

田んぼダム

- 田んぼダムの効果検証により、三角堰タイプよりも門型タイプの方がピークカット効果が高いことを確認した。 [国]
- 今後は、モデル地区を設定し水位低減効果を示すなど地域住民がわかりやすい効果の見せ方を検討する。
- 初めは安価な三角堰を県も推進していたが、ごみが詰まりやすいといった地元の声を受け、現在では門型を推進している。今回門型の有効性が確認できて良かった。 [北部振興局]

森林整備のデジタルデータ活用

- 森林組合が作業する際、取組箇所の選定よりもまずは所有者不明が課題である。所有者の情報もあると良いと感じた。 [北部振興局]
- 災害に強い森づくり事業が県から市町村に今後移管予定。山国川森林組合が事業を積極的に活用していたことも踏まえ、令和8年度から事業を予算化する方針。デジタルデータを市町村で促進して使えるようになったらいいと感じた。 [中津市]
- 町内に森林はないが、増水した際に大量の流木が流れてきて漁港に溜まったりするので、今回のような情報共有の場があると考えるきっかけとなる。 [吉富町]

■広報活動の促進について

- PR用のマグネットシールは冷蔵庫に貼れるサイズにするといいのではないか [北部振興局]
- R7.5にHKT48出演のYouTube動画で流域治水をPRした。また、最近缶バッジを作成したので活用方法を検討していきたい。 [福岡県]
- HPの連携について、既にリンクを掲載している機関もあるが、未対応の機関についても国が配布するバナーを掲示可能か検討することを確認した。 [全機関]

■民間企業との連携について

- 企業に出前講座を行っているので、そのような機会に周知できればと考えている。 [中津市]
- これまで企業向けにアプローチを行ってなかったので、今回の会議を受けて今後はアプローチするよう検討したい。 [吉富町]

■今後の取り組み

- 令和7年度の取り組みを踏まえ、流域治水プロジェクトの着実な実装、ロゴマーク等を活用した広報強化・拡大、関係機関との連携強化・拡大に取り組む。
- 現地視察は5月下旬完成予定の防災ステーションを考えており、他にも新メンバーの意見も踏まえて決定していく。



令和8年度 山国川圏域治水協議会

(2) 各機関の取り組み状況

令和8年5月27日



令和8年度 山国川圏域流域治水プロジェクト

【山国川流域治水プロジェクト2.0】

令和8年5月27日

流域治水の推進

～これからは流域のみんなで～



「流域治水」とは、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、河川整備、ダムの建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、**集水域から氾濫域を一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**を流域に関わるあらゆる関係者が協働して、ハード・ソフト一体で多層的に水害対策を行う考え方です。

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水貯留機能の拡大

[国・市・企業・住民]

雨水貯留浸透施設の整備、
ため池等の治水利用

集水域

流水の貯留

[国・県・市・利水者]

治水ダムの建設・再生、
利水ダム等において貯留水を
事前に放流し洪水調節に活用

[国・県・市]

土地利用と一体となった遊水
機能の向上

河川区域

持続可能な河道の流下能力の 維持・向上

[国・県・市]

河床掘削、引堤、砂防堰堤、
雨水排水施設等の整備

氾濫水を減らす

[国・県]

「粘り強い堤防」を目指した
堤防強化等

② 被害対象を減少させるための対策

リスクの低いエリアへ誘導/
住まい方の工夫

[国・市・企業・住民]

土地利用規制、誘導、移転促進、
不動産取引時の水害リスク情報提供、
金融による誘導の検討

氾濫域

浸水範囲を減らす

[国・県・市]

二線堤の整備、
自然堤防の保全



③ 被害の軽減、早期復旧・復興 のための対策

土地のリスク情報の充実

[国・県]

水害リスク情報の空白地帯解消、
多段型水害リスク情報を発信

避難体制を強化する

[国・県・市]

長期予測の技術開発、
リアルタイム浸水・決壊把握

経済被害の最小化

[企業・住民]

工場や建築物の浸水対策、
BCPの策定

住まい方の工夫

[企業・住民]

不動産取引時の水害リスク情報
提供、金融商品を通じた浸水対
策の促進

被災自治体の支援体制充実

[国・企業]

官民連携によるTEC-FORCEの
体制強化

氾濫水を早く排除する

[国・県・市等]

排水門等の整備、排水強化

流域治水プロジェクト2.0

～流域治水の加速化・深化～



- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

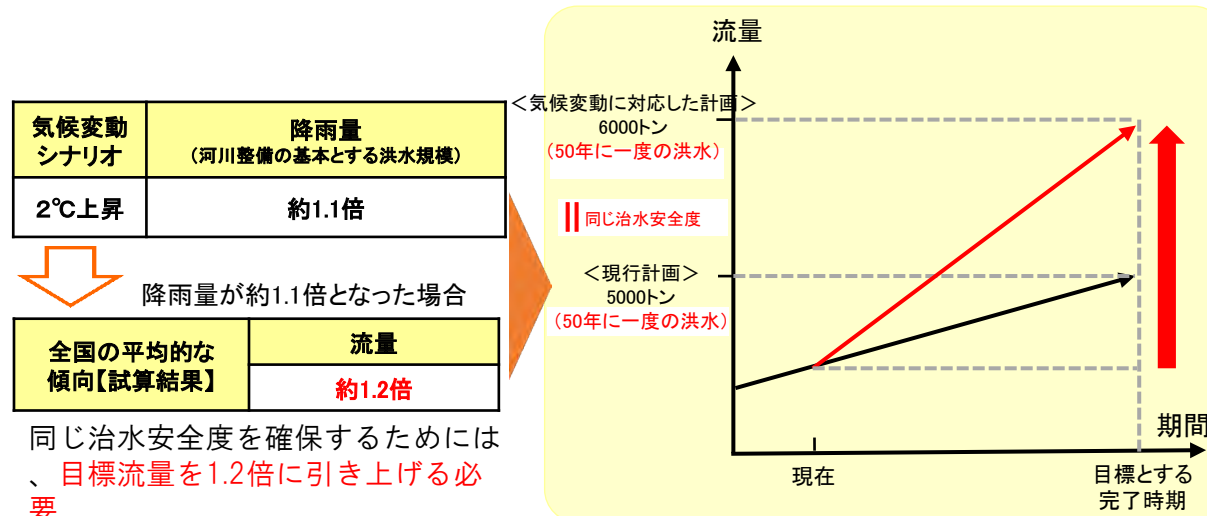
現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

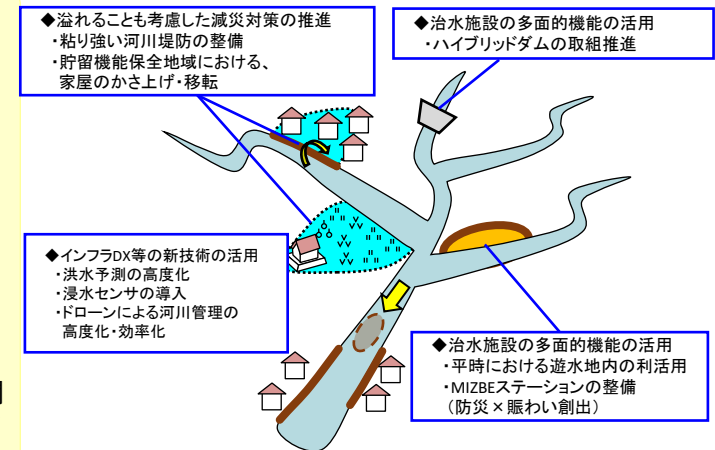
必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

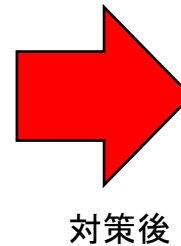
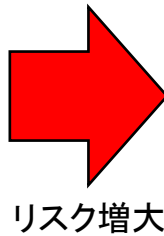
気候変動に伴う水害リスクの増大



○戦後最大洪水であるH24.7洪水に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、山国川流域では浸水世帯数が約7,500世帯（現況の約1.2倍）になると想定され、事業の実施により、浸水被害が解消される。

■気候変動に伴う水害リスクの増大

※国管理区間における外水氾濫によるリスク



【目標】
KPI: 浸水世帯数
約7,500世帯⇒約0世帯

<現状>

- 上図は、山国川、中津川の洪水予報区間について、河川整備計画規模及び気候変動考慮後の外力により浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 上図は、山国川、中津川における現況の河道・洪水調節施設の整備状況及び流域治水プロジェクト2.0に位置付けている国が実施する氾濫を防ぐ・減らす対策を実施後の状況を勘案したうえで、氾濫した場合の浸水の状況を、シミュレーションにより予測したものです。
- なお、このシミュレーションの実施にあたって、国管理区間以外の支川においては、決壊による氾濫は考慮しておらず、溢水・越水のみを考慮しています。また、高潮及び内水によるはん濫等を考慮していません。

<気候変動考慮(1.1倍)>

<対策後>

■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標】気候変動による降雨量増加後のH24.7洪水規模に対する安全の確保

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	約7,500世帯の浸水被害を解消	河道掘削 流木捕捉施設検討	概ね30年
	大分県 中津市 吉富町 上毛町	雨水貯留機能の拡大	用排水路の整備・有効活用 水田の貯留機能向上の推進 雨水貯留浸透施設の整備・検討・推進	-
	中津市	内水氾濫対策	下水道等の排水施設の機能強化、 電気設備耐水化	-
	中津市 吉富町 上毛町	流水の貯留機能の向上	雨水ポンプ整備対策推進 用排水路の事前水位低下による 効果的な集排水	-

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
被害対象を減らす	大分県	防災まちづくり	土砂災害警戒区域等の指定による 土砂災害リスク情報の充実	-
	中津市	リスクの低いエリアへの誘導 住まい方の工夫	「居住誘導地域」や「土地機能誘導地域」設定 土地利用や住まい方の工夫 まちづくりとの連携や移転・嵩上げなどの検討	-
被害の軽減・早期復旧・復興	国	避難体制の強化	水災害リスク情報の拡充 防災教育や避難訓練等の拡充 DTB仮想空間構築/見える化 流域全体を俯瞰視、水害リスク、対策効果の見える化 圏域カメラ情報一元化「ライブリバー」制作公表 流域治水マップの作成 流域治水のロゴマークの公募	-
	中津市	避難体制の強化	内水ハザードマップの拡充	-
	大分県	避難体制の強化	ため池の管理・監視体制の強化	-

山国川流域治水プロジェクト 2. 0 【ロードマップ】

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



- 山国川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】 資産の大きい下流部の洪水被害軽減として、本川下流部の堤防整備、河道掘削等を主に実施する。県管理区間においても、河道掘削や橋梁架替を実施するとともに、河川防災ステーションの整備や砂防関係施設の整備等、流域内の被害軽減を図る。
 - 【中期】 本川中流部の流下能力不足解消のため、河道掘削、橋梁架替え等を実施する。
県管理区間においても、引き続き河道掘削や堰改築等を実施するとともに、森林整備・治山対策、流出抑制対策等により被害の最小化を目指す。
 - 【中長期】 本川中上流部の浸水被害を防ぐため、河道掘削等を実施し、流域全体の安全度向上を図る。

■河川対策 (約178億円)
 ■砂防対策 (約75億円)
 ■下水道対策 (約40億円)

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削、堤防整備、樹木伐採、橋梁架替等	国土交通省 大分県、福岡県	山国川下流部、津民川	山国川中上流部、金吉川整備	
			橋梁架け替え、堰改築等		
	内水氾濫対策	中津市、吉富町	下水道等の排水施設の整備、排水機による強制排水		
	土砂災害対策	大分県、福岡県	砂防関係施設の整備		
		大分西部森林管理署 福岡森林管理署 福岡県、大分県 森林整備センター	森林整備、治山対策		
	流域の雨水貯留機能の向上	大分県、福岡県 中津市、吉富町、上毛町	水田の貯留機能向上、ため池や農業用排水路の治水活用等		
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	中津市、(大分県)	立地適正化計画の策定		
		吉富町	公共施設電気等設備のかさ上げ		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	大分県、福岡県	危機管理水位計の設置等		
	避難体制等の強化	大分県、福岡県 中津市、吉富町、上毛町	防災マップ等の作成、避難訓練等		
	関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化	国土交通省 上毛町	河川防災ステーションの整備		
グリーンインフラの取組	治水対策における多自然川づくり	国土交通省	歴史・文化・景観資源の保全、水際環境の創出、重要種等の移植・保全		
	魅力ある水辺空間・賑わい創出	国土交通省、 中津市、吉富町、上毛町	山国川下流地区かわまちづくり		
	自然環境が有する多様な機能活用の取組み	国土交通省、大分県、 福岡県、中津市、 吉富町、上毛町	河川協力団体との連携による河川環境保全・啓発活動、民間協働による水源保全活動、小中学校などにおける河川環境学習		

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

山国川流域治水プロジェクト2.0【位置図】

～流域のまちの魅力を未来へつなぐ みんなで守る「流域治水」～



- 山国川水系は、流域の約9割を山地がしめる九州屈指の急流河川で洪水は短時間で流下し、下流部は扇状地が広がるという流域の特性がある。また、山国川圏域は「中津干潟」「名勝耶馬溪」「メイプル耶馬サイクリングロード」等、自然、歴史、文化、観光と魅力豊かな地である。
- 戦後最大洪水である平成24年7月洪水に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合においても、現行の治水安全度を確保し、洪水を安全に流下させることを目指す。
- 山国川流域では、その特徴・課題に対し、圏域が一体となった総合的な治水対策の取り組み等を進めているが、気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来に渡って安全な流域を実現するため、圏域の皆で、更なる治水対策を推進する。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備基本方針及び河川整備計画の過程でより具体的な対策内容を検討する。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 持続可能な河川の流下能力の維持・向上(国、大分県、福岡県)
 - ・河道掘削・堤防整備(継続)、橋梁架替・堰改築、**流木捕捉施設検討、洪水調節施設の検討等**
 - ・砂防関係施設の整備
- 雨水貯留機能の拡大(中津市、吉富町、上毛町、大分県、福岡県)
 - ・**用排水路、農業水利施設の整備・有効活用**
 - ・ため池の補強・有効活用、**水田の貯留機能向上の推進**
 - ・**雨水貯留浸透施設の整備、検討・推進**・森林整備・治山対策
- 内水氾濫対策(中津市)
 - ・下水道等の排水施設の整備、**機能強化、電気設備耐水化、可搬式排水ポンプ導入**
 - ・**雨水管理総合計画に基づくハード対策推進**
- 流水の貯留機能の向上(国、中津市、吉富町、上毛町)
 - ・耶馬溪ダムにおける事前放流等の実施、体制構築、**流木・塵芥の捕捉**
 - ・**洪水調節施設の検討**
 - ・**「立地適正化計画」に基づく、雨水ポンプ整備等対策推進**
 - ・**用排水路の事前水位低下による効果的な集排水**

■被害対象を減少させるための対策

- リスクの低いエリアへの誘導/住まい方の工夫(中津市)
 - ・**「立地適正化計画(防災指針)」に基づく、「居住誘導区域」や「都市機能誘導区域」**
 - ・**設定による、災害リスク回避、低減の推進**
 - ・水災害ハザードエリアにおける土地利用や住まい方の工夫(リスクが高い地域における開発抑制など)・まちづくりとの連携や移転・嵩上げなどの検討

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 中津市
 - ・まちづくりでの活用を視野にした水災害リスク情報の拡充(多段階な浸水リスク情報、内水ハザードマップの公表等)
 - ・**内水ハザードマップの拡充**・防災マップWeb版の更新
- 上毛町
 - ・防災マップの作成・河川防災ステーションの整備(「かわまちづくりとの連携」)
- 吉富町、上毛町
 - ・ため池ハザードマップの作成
- 大分県
 - ・**マイ・タイムラインの普及**
 - ・**ため池の管理・監視体制の強化(水位計・監視カメラの設置)**
- 国
 - ・プッシュ型情報配信、防災無線等を活用した情報発信の強化
 - ・**危機管理型水位計等の周知**
 - ・**河川協力団体などと連携した、防災教育や避難訓練等の拡充**
 - ・**DTB(デジタルテストベッド)仮想空間構築/見える化**
 - ・**流域全体を俯瞰視、水害リスク、対策効果の見える化**
 - ・**圏域カメラ情報一元化「ライブリバー」制作公表**
 - ・**流域治水マップの作成**・各種情報や取り組みをレイヤー管理表示
 - ・**流域治水のロゴマークの公募**

氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2℃上昇下でも目標安全度維持) ＜具体の取組＞ ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくハード対策(河道掘削・堤防整備(継続)、橋梁架替・堰改築、流木捕捉施設検討、洪水調節施設の検討等) ・雨水管理総合計画に基づくハード対策・推進(中津市) ○流域対策の目標設定 ＜流域で定めた3本柱＞ ・河川改修、流木対策(流出抑制・流木捕捉) ・小規模河川の氾濫抑制対策 ○役割分担に基づく流域対策の推進(市町) ＜具体の取組＞ ・用排水路、農業水利施設の整備・有効活用 ・水田の貯留機能向上の推進 ・雨水貯留浸透施設の整備、検討・推進 ・可搬式排水ポンプの導入 ・「立地適正化計画」に基づく、雨水ポンプ整備等対策推進 ・用排水路の事前水位低下による効果的な集排水	○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞ ・河川防災ステーションの整備(かわまちづくりとの連携)	○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2℃上昇下でも目標安全度維持) ＜具体の取組＞ ・まちづくりでの活用を視野にした水災害リスク情報の拡充(多段階な浸水リスク情報、内水ハザードマップの公表等) ・内水ハザードマップの拡充 ・河川協力団体などと連携した、防災教育や避難訓練等の拡充 ・マイ・タイムラインの普及 ・ため池の管理・監視体制の強化(水位計・監視カメラの設置)(大分県)
○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞ ・下水道等の排水施設の整備、機能強化、電気設備耐水化、可搬式排水ポンプ導入(中津市)	○溢れることも考慮した減災対策の推進 ＜具体の取組＞ ・「立地適正化計画(防災指針)」に基づく、「居住誘導区域」や「都市機能誘導区域」設定による、災害リスク回避、低減の推進 ・まちづくりとの連携や移転・嵩上げなどの検討(中津市)	○多面的機能を活用した治水対策の推進 ＜具体の取組＞ ・河川防災ステーションとかわまちづくりの連携(防災×賑わい創出)(上毛町)
○既存ストックの徹底活用 ＜具体の取組＞ ・流木・塵芥の捕捉 ・ダムや既設水路などの、既存ストックを活用した貯留機能の確保	○土砂災害防止法に基づく警戒避難体制づくりの推進 ＜具体の取組＞ ・土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実	○インフラDX等の新技術の活用 ＜具体の取組＞ ・DTB(デジタルテストベッド)仮想空間構築/見える化流域全体を俯瞰視、水害リスク、対策効果の見える化(国総研・山国川) ・圏域カメラ情報一元化「ライブリバー」制作公表 ・流域治水マップの作成 ・各種情報や取り組みをレイヤー管理表示 ・流域治水のロゴマークの公募

※上記のほか、特定都市河川の検討を実施。

山国川流域治水プロジェクト2.0【グリーンインフラ】

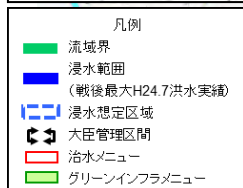
～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



■グリーンインフラの取り組み 『サイクリングロードを活用した観光振興・地域活性化の推進』

- 山国川流域は英彦山をはじめ犬ヶ岳、黒岳等の山地に囲まれ、耶馬日田英彦山国定公園及び名勝耶馬溪の指定や日本遺産の認定を受け、その景勝地等を生かした観光産業が重要な位置を占めている。また、兎跳び岩、蕨野の滝等の奇岩等が点在し、美しい河川景観を呈しており、河川周辺に、中津城、青の洞門、競秀峰等の風光明媚な景勝地や豊かな自然環境に恵まれている。
- 九州周防灘地域定住自立圏共生ビジョンでは圏域の入込客数を現状値(2018年)の1160万人から2024年までに1300万人に増加(112%)することを目標としており、その目標に寄与できるよう今後概ね10年間で、多くの観光客が集まる市街地と「水辺拠点」をサイクリングルートで結ぶ山国川下流地区のかわまちづくりを進めるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。

位置図



メイプル耶馬サイクリングロード

- (大分県、福岡県)
- ・砂防堰堤等の整備(16箇所) ▼
- ・急傾斜地崩壊対策施設の整備(14箇所) ~
- ・治山施設(13箇所) ●

- (大分県、福岡県)
- 森林整備・治山対策
- (大分県、福岡県)
- 農地・農業水利施設を利用した流域の防災・減災の推進
- ※水田の貯留機能向上の推進、ため池の洪水調節機能強化



●治水対策における多自然川づくり

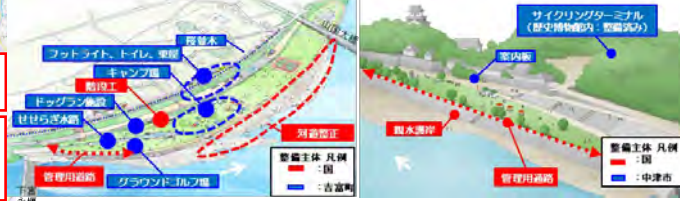
- ・歴史・文化・景観資源の保全
- ・水際環境の創出
- ・重要種等の移植・保全

●魅力ある水辺空間・賑わい創出

- ・山国川下流地区かわまちづくり

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・河川協力団体との連携による河川環境保全・啓発活動
- ・民間協働による水源保全活動
- ・小中学校などにおける河川環境学習
- ・多自然川づくりについての課題等の情報共有
- ・産学官による水に関する取組みの情報共有
- ・河川協力団体への活動支援



小中学校などにおける河川環境学習 民間協働による水源保全活動
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

【全域に係る取組】

- ・名勝(景観)の保全
- ・多様な生態系の保全
- ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携支援

山国川流域治水プロジェクト2.0【流域治水の具体的な取組】R8.4更新

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



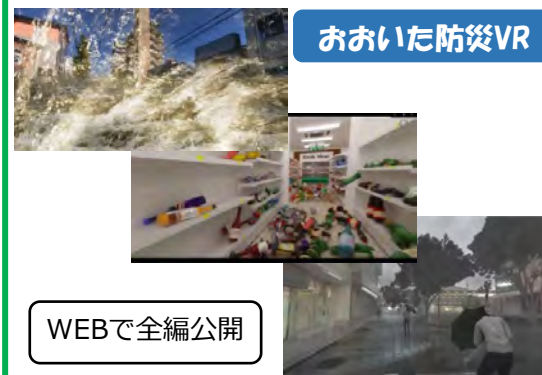
山国川下流部は広大な扇状地が広がっており、堤防決壊時には広範囲に洪水が氾濫し、中津市街部等で甚大な被害が発生することとなる。堤防整備について、唐原地区の整備を終え、引き続き相原地区の整備を実施し、山国川下流部の治水安全度向上を進めている。

被害対象を減少させるための対策



中津市では、令和5年3月に立地適正化計画を策定。都市機能誘導区域や居住誘導区域などの設定や危険区域の検討などを行う予定であり、被害軽減に向けた治水対策の検討を進めている。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



防災意識の醸成や早期避難の促進を目的に、大分県では、令和2年度から災害を疑似体験できる「おおいた防災VR」の運用を開始した。県振興局等で視聴用ゴーグルを貸し出しており、学校や地域の防災訓練等で活用。また「YouTube」で全編を公開している。



山国川における対策内容

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策内容

山国川流域治水プロジェクト 2. 0

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～

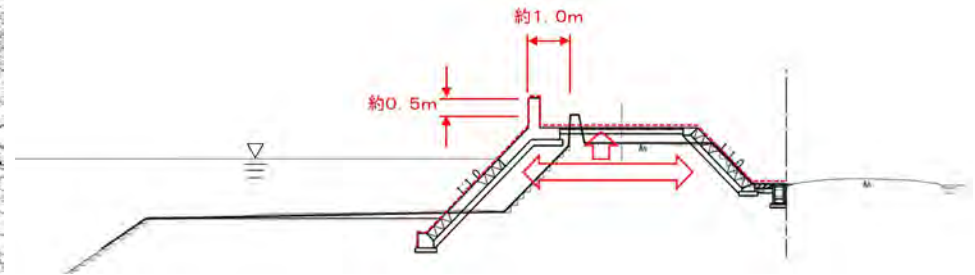


■ 山国川下流堤防整備（国土交通省の事例）

- 山国川下流部は広大な扇状地が広がっており、堤防決壊時には広範囲に洪水が氾濫し、中津市街部等で甚大な被害が発生することとなる。
- 令和3年度に唐原地区の堤防整備を完了し、現在、相原地区で堤防整備を進めており、山国川下流部の治水安全度向上を図る。



○相原地区については、約0.5mの嵩上、約1.0mを拡幅する堤防整備及びその付帯施設の整備を実施中。



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	堤防整備	国土交通省			

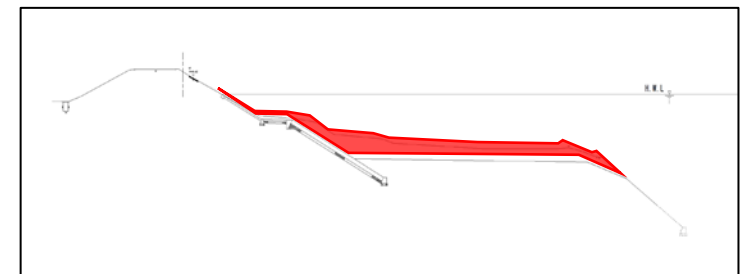
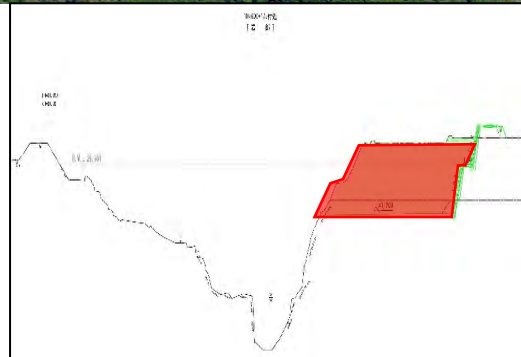
山国川流域治水プロジェクト 2. 0

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



■ 山国川下流河道掘削（国土交通省の事例）

- 近年の激甚化・頻発化する水災害から住民の生命と財産を守るため、山国川水系における流域治水の一環として、百留地区及び三光佐知地区において河道掘削等を実施し、山国川下流部の治水安全度の向上を図る。
百留地区は令和5年度に工事着手、三光土田地区は令和8年度より事業着手



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	河道掘削	国土交通省			

山国川流域治水プロジェクト 2. 0

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



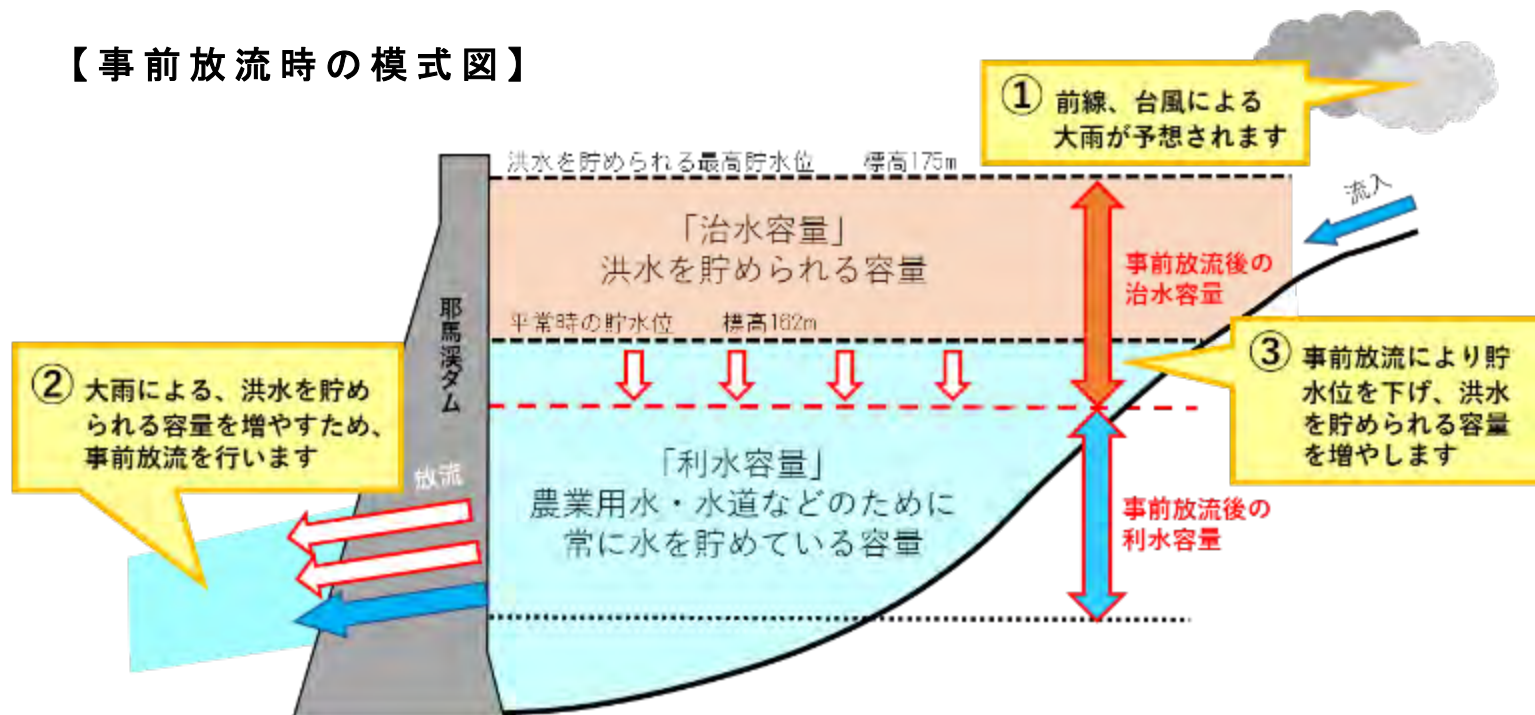
■ 山国川水系事前放流（国土交通省の事例）

「事前放流」とは？

前線や台風などによる大雨によって耶馬溪ダムの施設能力を超える洪水が予想される場合、洪水が発生する前にダムから放流を行い、あらかじめ貯水位を下げて洪水を貯められる容量を増やす操作のことです。

これにより、耶馬溪ダムより下流河川の洪水被害防止・軽減を図ります。（治水協定を令和2年5月29日締結）

【事前放流時の模式図】



○水害対策に使える容量(ダム) 協定前:1,120万 m^3 ⇒協定後:1,923.5万 m^3 **803.5万 m^3 の増**

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	事前放流	国土交通省			

山国川流域治水プロジェクト 2. 0



～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～

■ 流木塵芥の捕捉（国土交通省の事例）

出水による山林の風倒木及びその他貯水池へ流入した塵芥を捕捉・除去することにより、ダム管理への支障を無くすため、ダム下流河川への被害防止・軽減を図ります。

耶馬溪ダムにおける
過去 10 年間の流木処理量 (m3)

	流木処理量
H27	220
H28	857
H29	712
H30	1058
R1	585
R2	1341
R3	460
R4	1263
R5	145
R6	352
平均	700



貯水池に流入した塵芥（写真上）と撤去作業状況（写真下）

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	流木塵芥の捕捉	国土交通省			

山国川流域治水プロジェクト 2. 0



～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～

■ 山国川流域水害対策計画の策定（国土交通省・大分県・中津市の事例）

○ 山国川中上流域が特定都市河川の指定を受けて、流域水害対策協議会を設置し、流域水害対策計画を策定します。



○：流域水害対策計画策定主体 ※計画策定主体が必要と認める場合(任意)

協議会設置

- 国土交通大臣指定河川：設置必須
- 都道府県知事指定河川：設置任意

構成員

- 流域水害対策計画策定主体
- 接続河川の河川管理者
- 学識経験者その他の計画策定主体が必要と認める者

協議事項の例

- 流域水害対策計画の作成に関する協議
- 計画の実施に係る連絡調整

⇒ 構成員は協議結果を尊重

特定都市河川の指定

全国の河川へ指定拡大



流域水害対策協議会の設置

計画策定・対策等の検討



流域水害対策計画 策定

洪水・雨水出水により想定される
浸水被害に対し、概ね20～30年の間に
実施する取組を定める

関係者の協働により、計画に基づき
「流域治水」を本格的に実践

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	流域水害対策計画の策定	国土交通省 大分県・中津市			

山国川流域治水プロジェクト2. 0【福岡県】



～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～

■ 山国川水系における河川整備

- 福岡県管理区間において、平成24年7月洪水により東友枝川、黒川などで多数の家屋浸水を含む甚大な被害が発生した。
- 東友枝川、黒川等で河道掘削等の河川改修を進めており、治水安全度向上を図る。

①河道掘削

整備前(現在施工中)



②河道掘削

整備前



整備後



①河道掘削

②河道掘削

福岡県

③護岸整備(災害復旧)

③護岸整備(災害復旧)



護岸背面

整備前

④護岸整備

整備前



施工中(R8.1現在)



⑤護岸整備(災害復旧)

整備前



整備後



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	河道掘削、護岸整備、溪流保全、堰堤工	福岡県			

山国川流域治水プロジェクト2. 0【大分県】



～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～

■山国川上流における河川整備

- 山国川上流部（県管理区間）は、平成24年7月洪水により山国川、津民川などで多数の家屋浸水を含む甚大な被害が発生した。
- 山国川、津民川等で河道掘削や橋梁架替等の河川改修を進めており、治水安全度向上を図る。

①国道付替・引堤

施工前の状況
(国道付替済)



施工中の状況
(引堤及び替岸設置)



②河道掘削・築堤（神谷工区）



③橋梁架替（諏訪橋）



R7年12月末状況

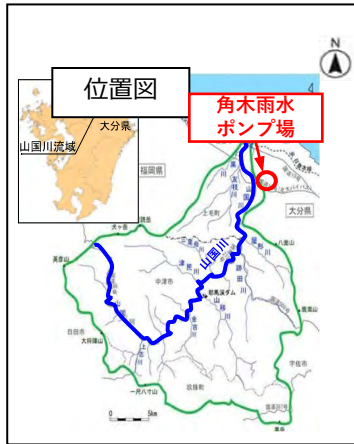
河道を確保するため橋梁架替を実施



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ 防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	河道掘削、護岸整備、 橋梁架替、堰改築	大分県			

■角木雨水ポンプ場整備（中津市の事例）

○近年、都市化の進展や局地的な集中豪雨に伴い、中津市の市街地にて宅地の浸水被害が発生している。そのため、浸水実績・浸水シミュレーションにより区域内でも被害規模が大きく緊急度の高い北部第3排水区の角木雨水ポンプ場及び雨水路の整備を行い被害軽減を図る。



令和7年度～令和9年度

- ①土木工事
- ②ポンプ棟建設工事
- ③機械設備工事
- ④電気設備工事

土木工事
ポンプ場建設工事
機械設備工事
電気設備工事



角木雨水排水ポンプ場

事業期間	令和3年～9年
計画排水量	1,208 m ³ /s
集水面積	179.7ha
保全家屋数	665戸

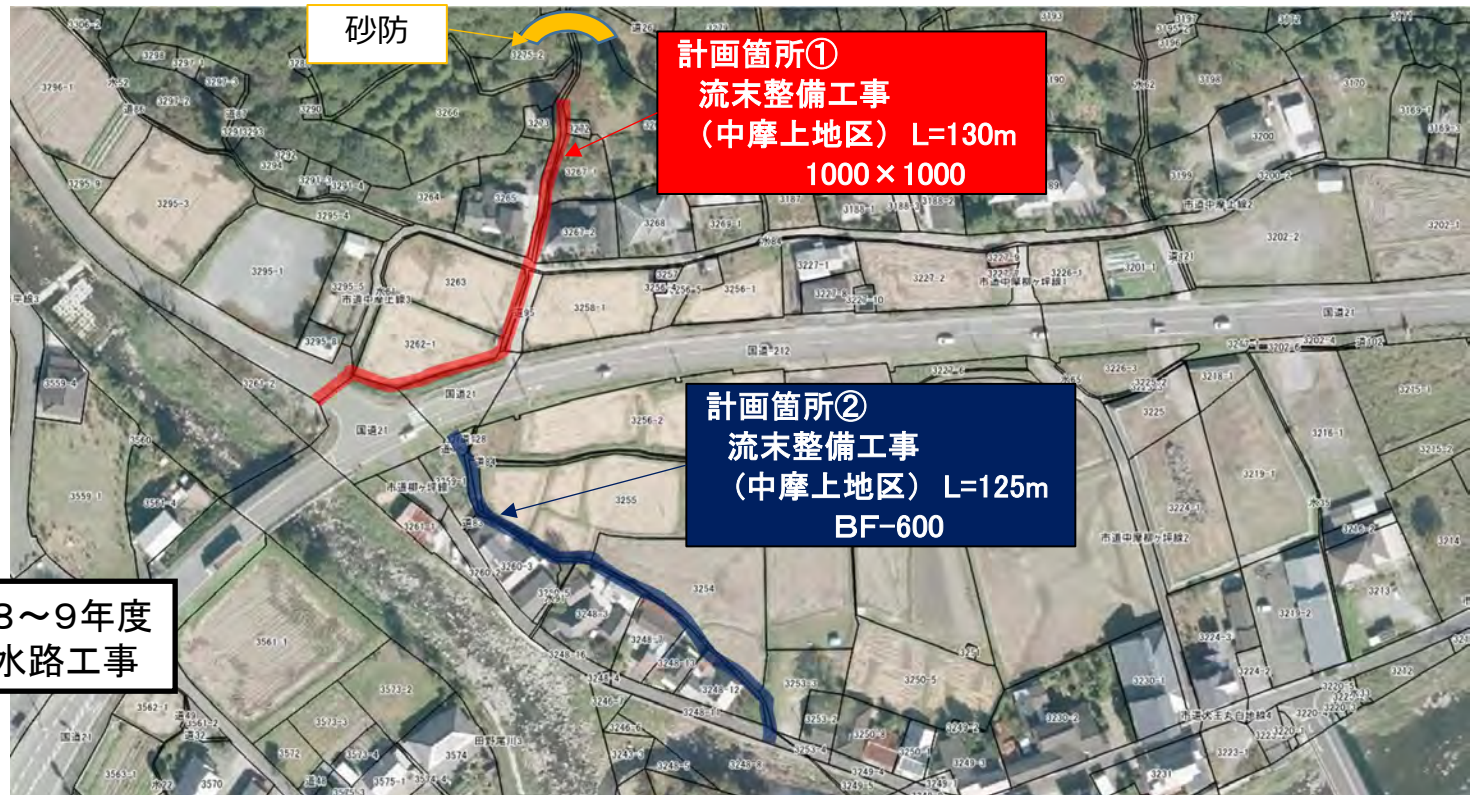
区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	内水氾濫対策	下水道等の排水施設の整備（雨水路整備、雨水ポンプ場整備）	中津市			

山国川水系流域治水プロジェクト2.0

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～

■中摩上川 排水路整備（中津市の事例）

○近年の局地的な集中豪雨により中摩上川下流域の宅地が度々浸水被害を受けている。大分県がR6年度～R8にかけて上流側に砂防工事を行う予定であるが、県からは現在の中摩上川の排水路では能力不足の調査結果の報告を受けている。中津市の管理河川である中摩上川の排水路整備を行い被害軽減を図る。



令和7年度
①土地鑑定
②測量及び設計
③用地購入

令和8～9年度
①排水路工事

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	長期
氾濫をできるだけ減らすための対策	洪水氾濫対策	排水路整備	中津市			

山国川流域治水プロジェクト

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



■ 雨水の強制排水、水路はん濫防止対策（吉富町の事例）

- 町内に50か所ある水路ゲートを事前水位操作することで水路のはん濫を防止している。
- 水路の事前水位操作で初期の時間稼ぎをしながら、吉富排水機場等の排水ポンプによる強制排水により内水を防いでいる。

職員による水路ゲート操作状況



自動転倒式ゲート



手動式水門



農業用水路兼雨水排水路の排水機による強制排水(吉富排水機場)

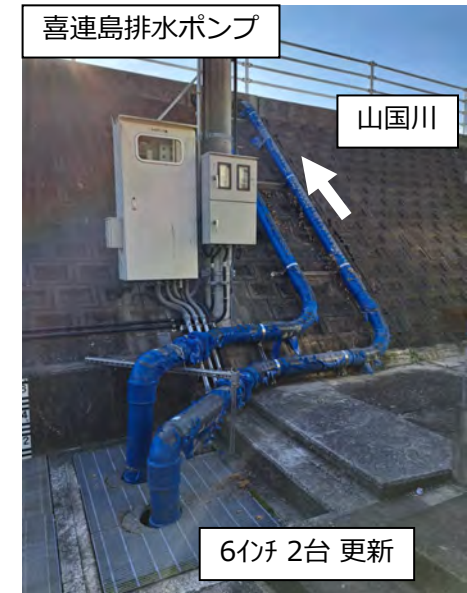


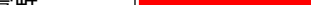
区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水排水の向上	雨水の強制排水、水路はん濫防止対策	吉富町 等			

■移動式排水ポンプ・排水ポンプ（吉富町の事例）

○豪雨時の内水氾濫対策として、町内4箇所に排水ポンプを設置している。令和8年度に、2箇所（喜連島、直江）の排水ポンプを更新及び排水能力の向上を図る。

・喜連島排水ポンプ（ポンプ更新）
6インチ .7. 5 k w 2 台 ⇒ 6インチ .7. 5 k w 2 台



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水排水の向上	排水ポンプ車・排水ポンプの活用	吉富町		      	  

■水路ゲート開閉の電動化（吉富町の事例）

【問題点】

- ・水路ゲートの構造及び経年劣化によりゲートの開閉作業に時間がかかる。
- ・水路増水時、ゲートに水圧がかかり、開閉作業に力が必要。
- ・水路増水時、ゲート開閉作業に危険が伴う。

【对策】

- ・ゲート開閉操作部を電動化することで、作業の省力化、時間短縮を図る。
- ・ゲート開閉操作部を電動化し、開閉作業を水路上から水路脇で操作できるようにすることで危険度を低くする。

幸子古地区水門ゲート（鳳寿園裏）



開閉操作器電動化



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ 防ぐ・減らすための対策 防ぎ減らすための対策	流域の雨水排水の向上	排水ポンプ車・排水ポンプの活用	吉富町		      	 

山国川流域治水プロジェクト 2. 0

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



■ため池や農業用水路の治水活用(上毛町の事例)

○令和3年度から令和7年度まで49箇所の防災重点農業用ため池で緊急性が高いものから順に「ため池劣化状況評価」を実施しました。今後は劣化状況評価及び地震・豪雨耐性評価の結果に基づき、必要な補修・対策工事を実施し、ため池の適正な維持管理に努めます。

また、対策工事を実施するまでのソフト対策として、ため池ハザードマップを作成しました。(49箇所作成済 R7年度終了)

○令和4年度には老朽化した水路を改修済。(U字溝、底張コンクリート、法面コンクリート等) 工事延長 688m)

■ため池劣化状況評価

①劣化状況評価作業風景(漏水量調査)



■農業用水路の改修

○工事前

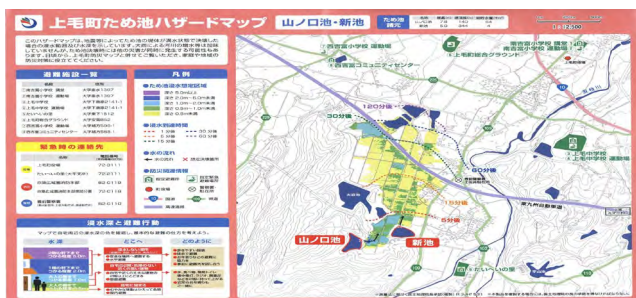
老朽化により、水路の石積や、法面が崩落している。



○工事後

本来の水量を保持するため、崩落した石積をコンクリート等で改修し、U字溝を設置。

■ため池ハザードマップ作成



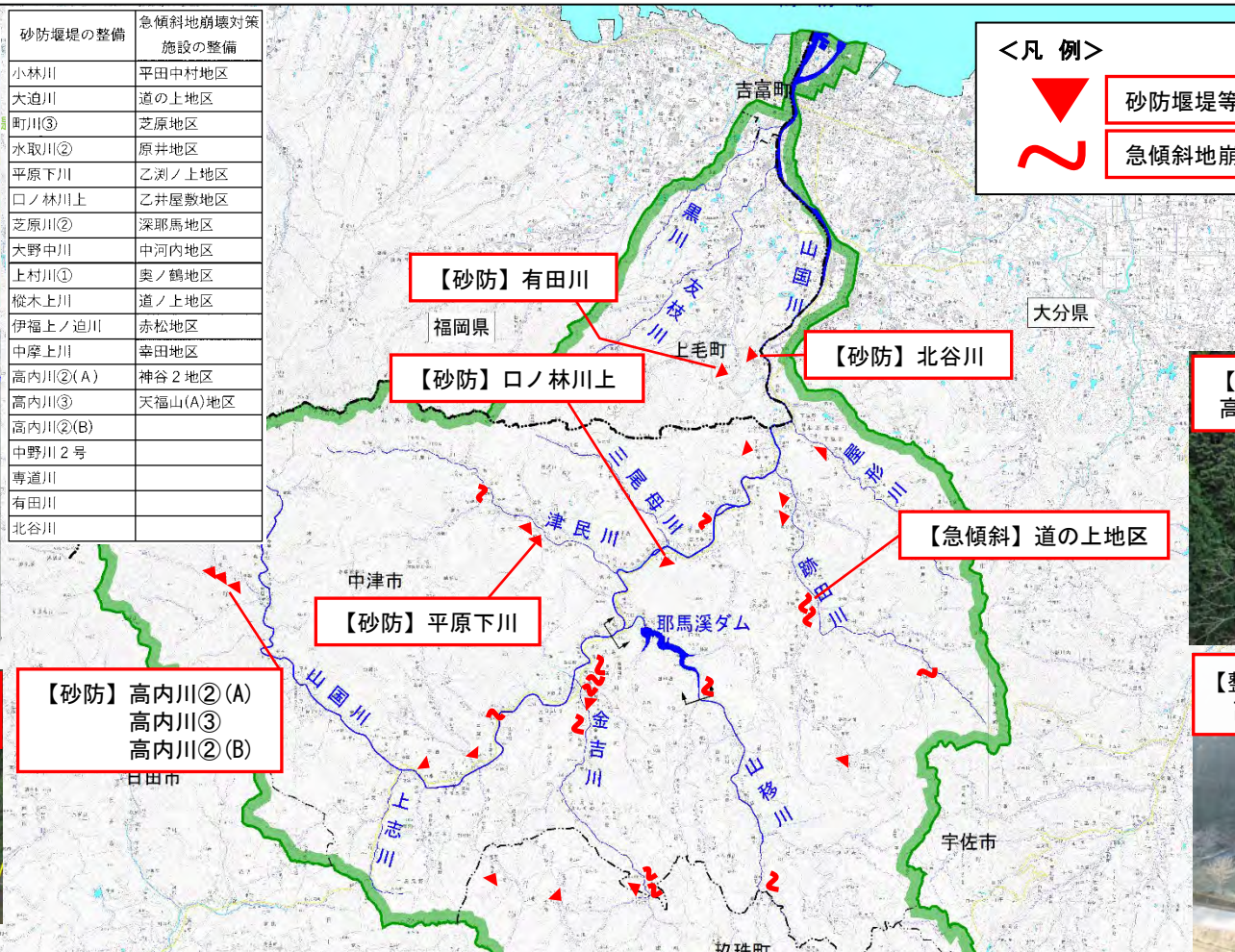
区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能の向上	ため池や農業用排水路の治水活用	上毛町 等			

■砂防関係施設の整備

【砂防】
口ノ林川上

[illegible]

砂防堰堤の整備	急傾斜地崩壊対策施設の整備
小林川	平田中村地区
大迫川	道の土地地区
野川③	芝原地区
水取川②	原井地区
平原下川	乙沢ノ土地地区
口ノ林川上	乙井屋敷地区
芝原川②	深耶馬地区
大野中川	中河内地区
上村川①	奥ノ鶴地区
樺木上川	道ノ土地地区
伊福上ノ迫川	赤松地区
中摩上川	幸田地区
高内川②(A)	神谷2地区
高内川③	天福山(A)地区
高内川②(B)	
中野川2号	
導道川	
有田川	
北谷川	

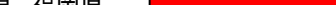


2

急傾斜地崩壊対策施設の整備 14箇所

【整備状況】
高内川②(A)

【整備状況】
高内川③

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	土砂災害対策	砂防関係施設の整備	大分県、福岡県			

山国川流域治水プロジェクト2. 0

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



(氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策)

■農地・農業水利施設を活用した流域の防災・減災の推進

【防災重点農業用ため池の耐震化・洪水調節機能の強化】

- ・R7は県内55箇所について、堤体の耐震化を行い、農業用ため池が有する洪水調節機能の強化を行った
- ・R8は県内56箇所の予定



整備前

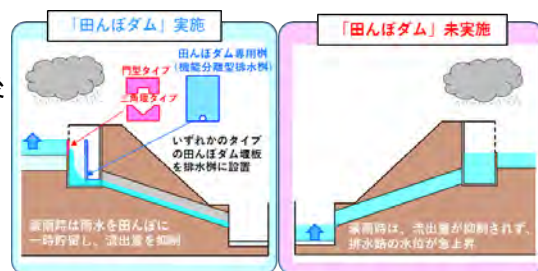


整備後

【水田の貯留機能向上に向けた普及・啓発】

R6取組状況

- ・県内13市町28地区で実施
- ・田んぼダム推進部会において今後10年間の県全体の推進方針及び取組目標面積を決定(A=3,000ha)
- ・振興局単位で設置したワーキンググループにおいて地域へ意向確認を行い、市町毎に推進計画を作成



R7以降の取組内容

- ・振興局単位で現地研修会を開催するなど、引き続き取組面積の拡大を図る。

■流水の貯留機能の拡大

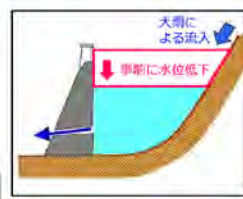
【農業用ダム・ため池の事前放流】

- ・農業用ダムの事前放流による治水活用
⇒ 県内25ダム
- ・ため池の事前放流による治水活用
⇒ 県内1,012箇所(山国川水系流域37箇所)のため池管理者に対し、事前放流の取り組みを推進

農業用ダムの活用

- 大雨が予想される際にあらかじめ水位を下げることで等によって洪水調節機能を発揮。
- 降雨をダムに貯留し、下流域の氾濫被害リスクを低減。

〔各地区の状況に応じて、放流水を地区内の調整池等に貯留〕



ため池の活用

- 大雨が予想される際にあらかじめ水位を下げることで等によって洪水調節機能を発揮。



- 農業用水の貯留に影響のない範囲で、洪水吐にスリット(切り欠き)を設けて貯水位を低下させ、洪水調節容量を確保。



(被害の軽減、早期復旧・復興のための対策)

■水害リスク情報の提供・充実

【ため池ハザードマップ作成支援】

- ・大分県がR2までに作成した浸水想定区域図をもとに、各市町村において、ため池ハザードマップを作成
- ・浸水想定区域内に人家がある等ハザードマップ作成が必要な1,001箇所のすべてを作成済

【ため池への水位計・監視カメラの設置】

- ・ため池に水位計・監視カメラを設置し、豪雨時の適切な避難行動に備える
- ・R6までに県内77箇所、R7は県内23箇所設置予定、R8は県内約20箇所設置予定

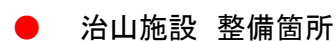


監視カメラ等設置

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	農地・農業水利施設を活用した流域の防災・減災の推進	大分県	防災重点ため池の耐震化・洪水調節機能の強化、水田の貯留機能向上に向けた普及・啓発		
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流水の貯留機能の拡大	大分県	農業用ダム・ため池の事前放流		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報の提供・充実	大分県	水位計・監視カメラの設置		

■森林整備・治山対策（大分県及び福岡県の事例）

- 治山ダムが山腹崩壊と土砂流出を軽減した事例【太分県日田市】



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	土砂災害対策	森林整備、治山対策	大分県 福岡県			

山国川流域治水プロジェクト 2. 0

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



■ 国有林野事業における森林整備・治山対策（大分西部森林管理署の事例）

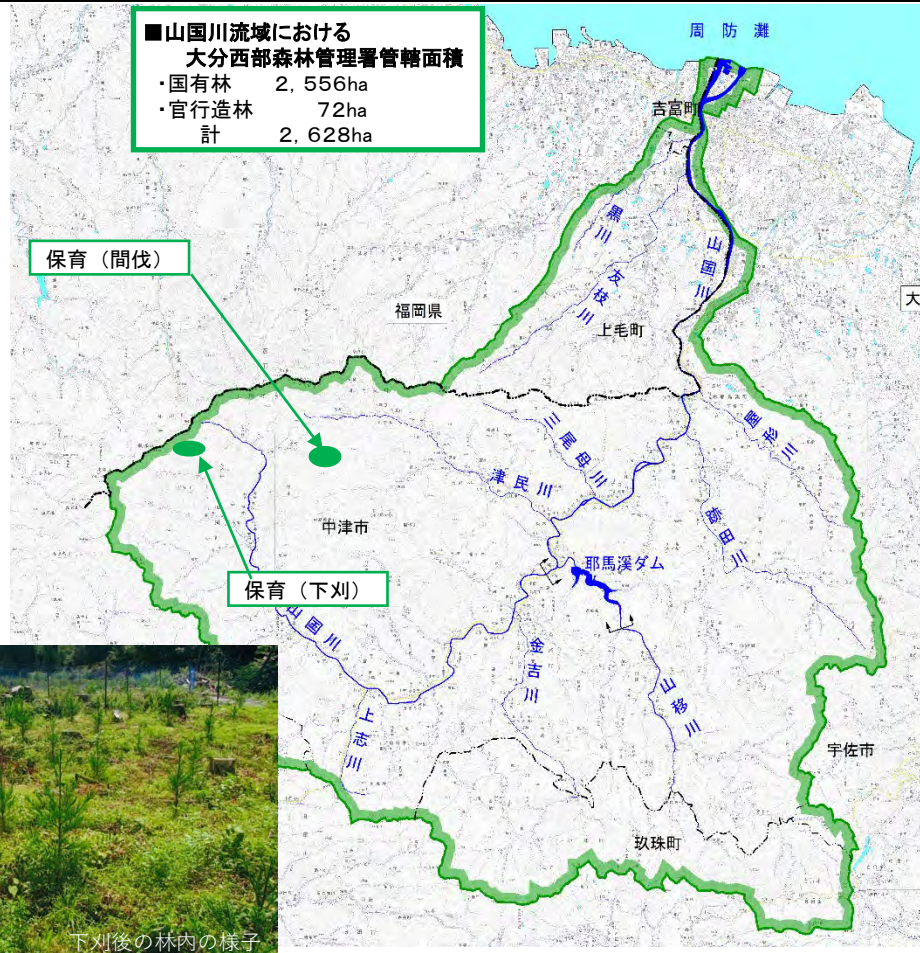
○森林の有する多面的機能を持続的に発揮していくため、間伐、伐採跡の再造林等の森林整備を推進するとともに、保安林の計画的な配備、治山対策等により森林の適切な管理及び保全を推進していく。

■ 流域における対策（令和7年度）

- ・森林整備
 - 保育（下刈） 15.42ha
 - 保育（間伐） 12.49ha

■ 山国川流域における
大分西部森林管理署管轄面積

- ・国有林 2,556ha
- ・官行造林 72ha
- 計 2,628ha



治山山腹工



土砂を捕捉した治山ダム



間伐後の林内の様子



植栽後の林内の様子



下刈後の林内の様子

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	土砂災害対策	森林整備、治山対策	大分西部森林管理署 福岡森林管理署	→		

山国川流域治水プロジェクト 2. 0

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



■ 水源林造成事業による森林の整備・保全（森林整備センター九州整備局における事例）

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業である。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進していく。
- 山国川流域における水源林造成事業地は、104箇所（森林面積 約1.4千ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していく。

山国川流域における水源林造成事業地

流域における森林整備（令和7年度）

- ・ 保育(下刈) 5件(25.41ha)
- ・ 保育(枝払) 2件(9.27ha)
- ・ 保育(除伐) 2件(5.23ha)
- ・ 間伐 4件(21.83ha)

山国川

— 山国川流域

■ 水源林造成事業地

水源林の整備



針広混交林



育成複層林

森林整備実施イメージ



間伐実施前



間伐実施後

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	土砂災害対策	水源林造成事業等による森林の整備・保全	森林整備センター九州整備局			

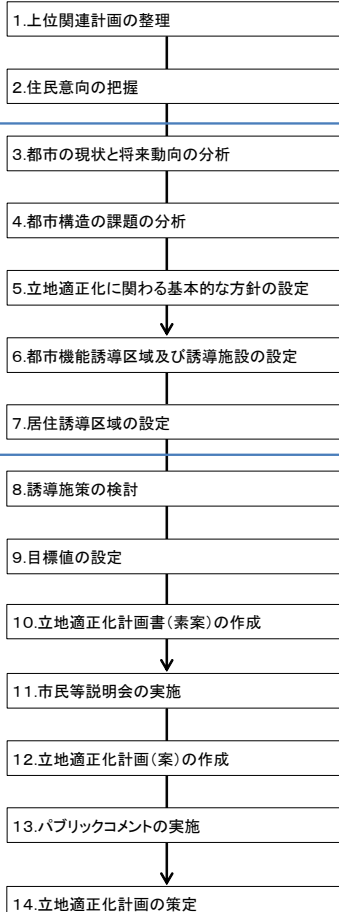


山国川における対策内容

被害対象を減少させるための対策内容

■立地適正化計画の策定（中津市の事例）

【参考】中津市立地適正化計画作成までの流れ



○令和5年3月31日公表

○概ね5年ごとに施策の進捗状況や目標の評価等を行う

○立地適正化計画区域内における一定の開発・建築行為等を行う場合の事前届出制度の実施



～はじめに～ ①立地適正化計画について

(1)立地適正化計画制度の創設

○市町村マスタープランにコンパクトシティを位置づけている都市が増えています。一方で、多くの都市ではコンパクトシティの具体的な目標が示されていることとまではいかないのが一般的で、多くは取組の範囲や土地・建物の施策まで作成している都市は少ないのが現状です。

○また、コンパクトシティ形成に向けた取組は、都市機能の集約・再編、公共施設の再編、公共施設の連携、都市有財産の活用・再開発、農・林・漁・山・川・水・緑・地・産・業・の活用、空室対策の推進などのまちづくりに関わる様々な関係機関と連携を図り、それらの関係機関との整合性をとり効果等を考慮しつつ、総合的に検討することが必要です。

○そこで、より具体的な施策を推進するため、平成26年8月に「立地適正化計画」が制度化作されました。これは、都市計画法を中心とした従来の土地利用の計画に加えて、居住機能や都市機能の適正化よりコンパクトシティ形成に向けた取組を推進しようとしていることです。



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	立地適正化計画の策定	中津市、(大分県)		      	    



山国川における対策内容

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策内容

「流域治水ucci何するん？」防災展:大分県立工科短期大学校(学園祭)にて、山国川の水害や地形特性を紹介するとともに、流域治水の取り組みや防災VRの体験等を設けたイベントを開催

<実施した主な取り組み>

○大分県立工科短期大学校(学園祭)にてイベント展を開催

・開催日 令和7年11月1日(土)～2日(日)

2日間で推定300名来場

・開催内容

- ①山国川の概要(山国川の模型・立体地図)
- ②近年の水害の発生状況等(パネル展示)
- ③流域治水の取り組み(模型で解説)
- ④水害に対する心構え、避難に役立つ防災情報、自然災害を体験できるVR等を設置
- ⑤こどもTEC服の試着体験(記念撮影)
- ⑥災害対策車両の缶バッジ、カードの配布

・参画機関

山国川河川事務所
中津土木事務所

レスキューサポート九州
中津市



流域治水・山国川模型の展示



自然災害映像VR体験



パネル展示



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	流域治水と防災の広報活動	国土交通省、中津市中津土木事務所等	■	■	■

山国川流域治水プロジェクト 2. 0【防災体制強化の訓練】

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



●今後の出水期に向けて、国・市町(中津市・吉富町・上毛町)による防災体制の強化を目的にWeb会議ツールを用いた情報共有訓練を実施。



■ 主な内容

ホットライン

- ・「避難判断水位」を超過する見込みとなった場合
- ・「氾濫危険水位」を超過する見込みとなった場合
- ・「**水害リスクライン**」の3時間先予測水位が『**氾濫発生水位**」を超過する』と予測された時点で、予鈴として実施。
- ・氾濫発生水位に達した場合や氾濫発生を確認した場合に実施。
- ・漏水や浸水の切迫等、危機管理上必要と思われる事象が生じた場合
- ・耶馬溪ダム(ただし書き操作)の放流開始の3時間前、1時間前、放流開始
- ・大規模地震(震度5強以上)の発生など、大規模自然災害発生時

水防団による巡視や水閘操作員の安全確保

- ・巡視や水閘門操作の引き続きの協力依頼

※急な水位上昇(R4年の出水では、20分に4m上昇)に留意し、身の安全の確保を第一に、水防団の活動や水閘門操作をお願いしたい。

分かりやすい河川情報・危機管理情報の共有

- ・雨量や水位のリアルタイム情報は「川の防災情報」で把握
- ・**氾濫危険箇所調書**
(EX.柿坂が0mになれば△地区が浸水開始)の共有・活用
- ・「**水害リスクライン**」の水位予測システムの活用
- ・**危機管理型水位計やCCTV監視カメラの活用**

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	水災害リスク情報の充実	国土交通省、中津市 吉富町、上毛町	■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

・山国川圏域に国・県・市が設置・公開している河川カメラの情報を地図上に配置したもの。国・県・市の情報一元的に集約することで、洪水時の備えや迅速な避難等への支援ツールとする。



- ・山国川圏域全体の環境特性、災害リスク、流域治水の取組状況などをGISにより3Dマップに集約することにより、圏域の状況の見える化(俯瞰的に把握)を図っていく。
- ・今後、各関係機関の情報を重ね合わせて分析することにより、流域治水の取組が必要な場所の選定や取組の効果検証、関係機関との連携等に活用することが可能となる。



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	流域一体となって防災対応の振り返り会議を実施し、情報共有を強化	国、福岡県、大分県、中津市、吉富町、上毛町		     	    

山国川流域治水プロジェクト 2. 0

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



- ・山国川圏域流域治水の取組推進における各主体の意識を統一することを目指す。山国川圏域流域治水のロゴマークを**圏域内から一般公募**し、作成した。今後、あらゆる関係者が“協働し流域治水を自分事として取り組む”ための意識醸成に向け、ロゴマークを広報活動に活用していく。

- 山国川圏域において、あらゆる関係者が“協働し、流域治水を自分事として取り組む”ための意識醸成に向け、広報ツールとして分野ごとのパンフレット(チラシ)を作成した。パンフレットは今後、情報の充実・更新を図りながら、**ロゴマークと併せてプロモーションに活用していく。**

パンフレット(チラシ)の作成状況(分野・配布先に応じて6種類作成)



ロゴマークの公募チラシ・ポスター



山国川圏域流域治水ロゴマーク



①流域治水概要編



②河川の治水対策編



③森林での対策編



④農地・市街地での対策編



⑤家庭でできる対策編



⑥企業等でできる対策編

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	流域一体となって防災対応の振り返り会議を実施し、情報共有を強化	国、福岡県、大分県、中津市、吉富町、上毛町	■	■	■

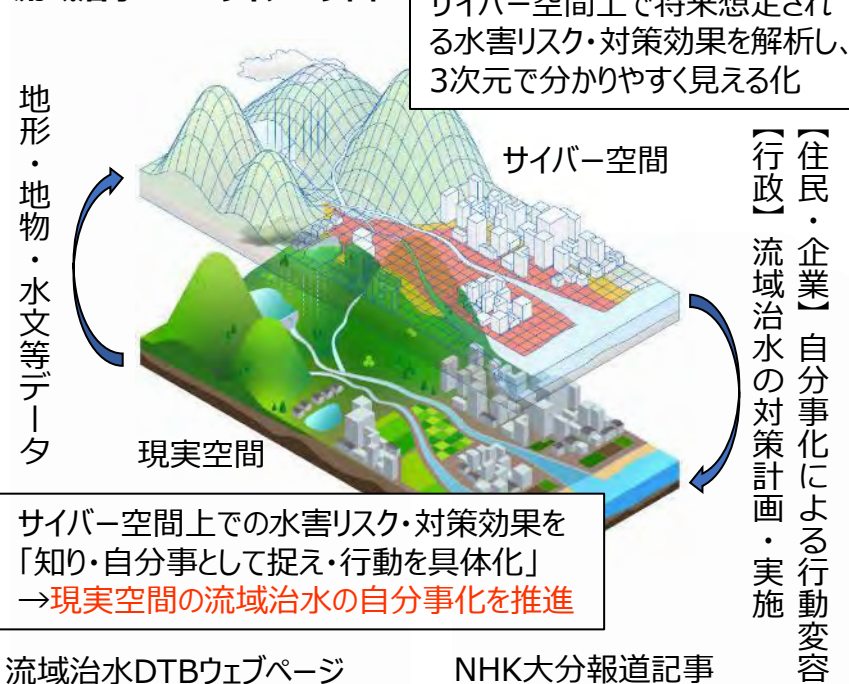
山国川流域治水プロジェクト2.0【デジタルテストベッド】

～DTB(デジタルテストベッド)仮想空間構築/水害リスク、対策効果の見える化～

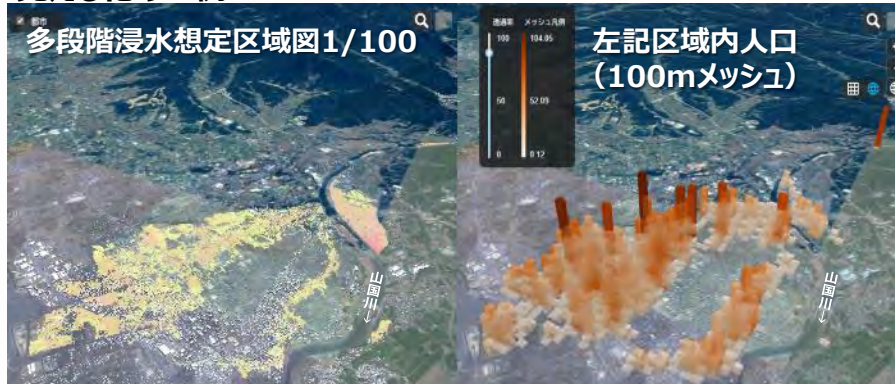


- DTB（デジタルテストベッド）は、気候変動による水災害の頻発・激甚化への備えとして、国として必要な**流域治水立案技術**及び**洪水予測技術**の開発を加速するため、**サイバー空間に流域を再現（デジタルツイン）**した**実証実験基盤**として**整備・運用**する。
- 山国川においては、**令和7（2025）年度のDTBの運用開始**に向けた整備を進めることで、流域の皆様へ水害リスク・対策効果を「知り・自分事として捉え・行動を具体化」していただき、一層の安全安心に貢献することを目指す。

流域治水DTBのイメージ図



見える化の一例



3) 中津市本耶馬溪町の場合～跡田川を事例として



・特定都市河川指定に向けた地元説明会で活用（R7.8.19:中津市本耶馬溪町）・雨水の集水域をわかりやすく表現している

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	DTB仮想空間構築/水害リスク、対策効果の見える化	国土交通省			

■防災マップの作成（中津市の事例）

- 中津市では土砂災害・洪水・津波・ため池の被害想定を記載した総合的な防災マップを配布。今後は、各地域の各種集会等、様々な機会を通じて、防災マップの内容周知に努めるとともに、この防災マップを活用した避難訓練の実施支援を行う。
- また、WEB版の防災マップでは、洪水や津波等の災害リスク別に被害想定を確認できるとともに、任意の範囲のマップを作成（印刷）できることから、マイハザードマップの作成支援も行う。

日本語版



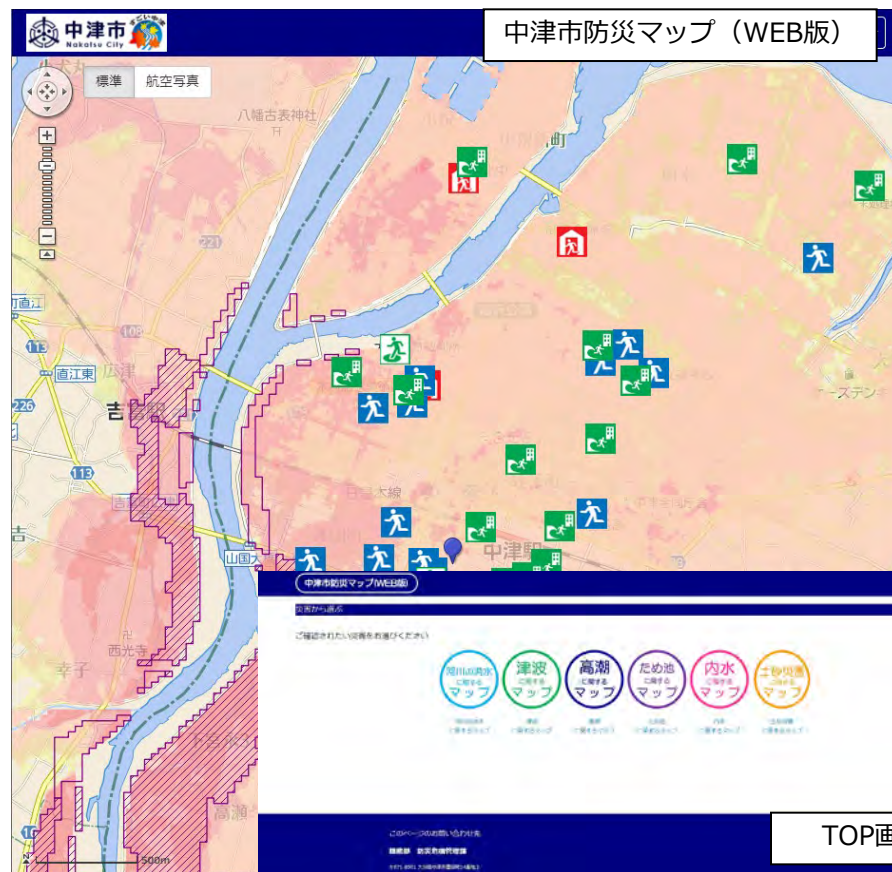
多言語版



前面 (想定浸水深)



中津市防災マップ（WEB版）



TOP画面

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	防災マップの作成、周知 避難訓練の実施支援	中津市 等			

山国川流域治水プロジェクト 2. 0

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



■避難所看板の明確化（中津市の事例）

- 中津市では、主要な避難所に設置している看板について、どの災害に対応した避難所なのか明確にした。
- 近年増加傾向にある外国人の方に対しても、避難所看板の掲載内容が理解できるように、多言語化を図った（6言語）。
- 看板に中津市防災ポータルサイト、及び中津市防災マップWEB版のサイトへアクセスできる二次元コードを掲載し、手軽に中津市の災害情報や、現在地の災害リスクが把握できるようにした。



変更前



変更後

洪水 Flood
洪水 홍수 Banjir Lụt

津波 Tsunami
海啸 쓰나미 Tsunami Sóng thần

高潮 Storm surge
风暴潮 폭풍해일 Gelombang badai Bão áp đến

×

○

×

指定緊急避難場所
Designated emergency evacuation site

指定緊急避難所 지정 긴급 피난 장소
Lokasi evakuasi darurat yang ditunjuk Địa điểm sơ tán khẩn cấp được chỉ định

北部公民館
Hokubu Public Hall 北部社区中心 북부 공회당
Balai Umum Hokubu Hội trường cộng đồng Hokubu

中津市防災ポータルサイト
Disaster prevention portal site
防災门户网站 방재 포털 사이트
Situs portal pencegahan bencana
Cổng thông tin phòng chống thiên tai

中津市防災マップWEB版
Disaster prevention map
防災地图 방재 지도
Peta pencegahan bencana
Bản đồ phòng chống thiên tai

中津市
Nakatsu city 中津市 나카쓰시
Kota Nakatsu Thành phố Nakatsu

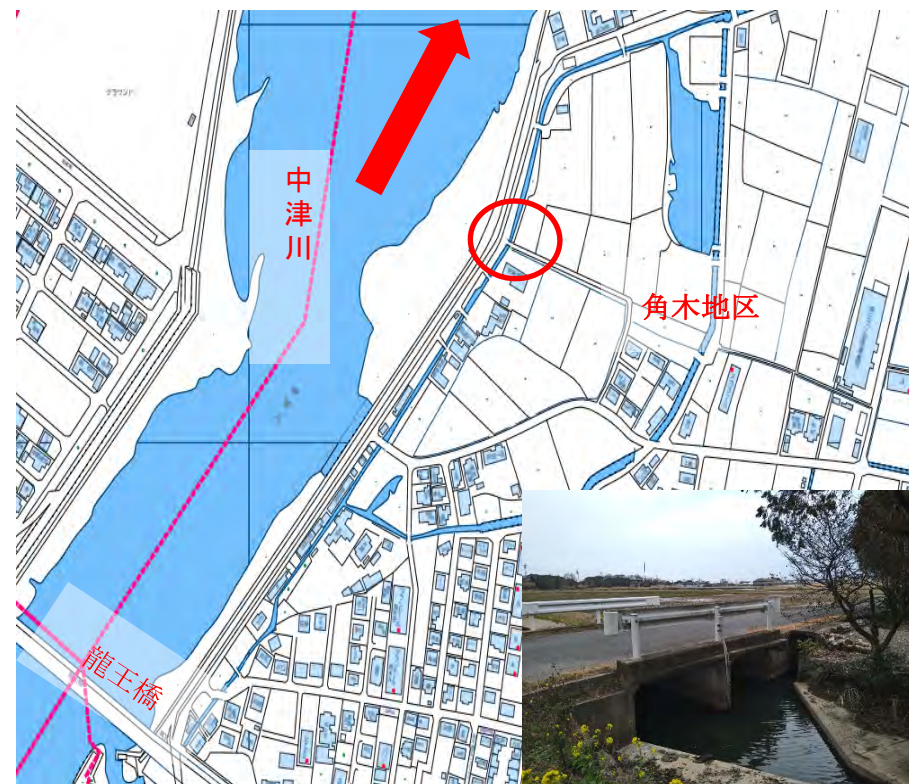
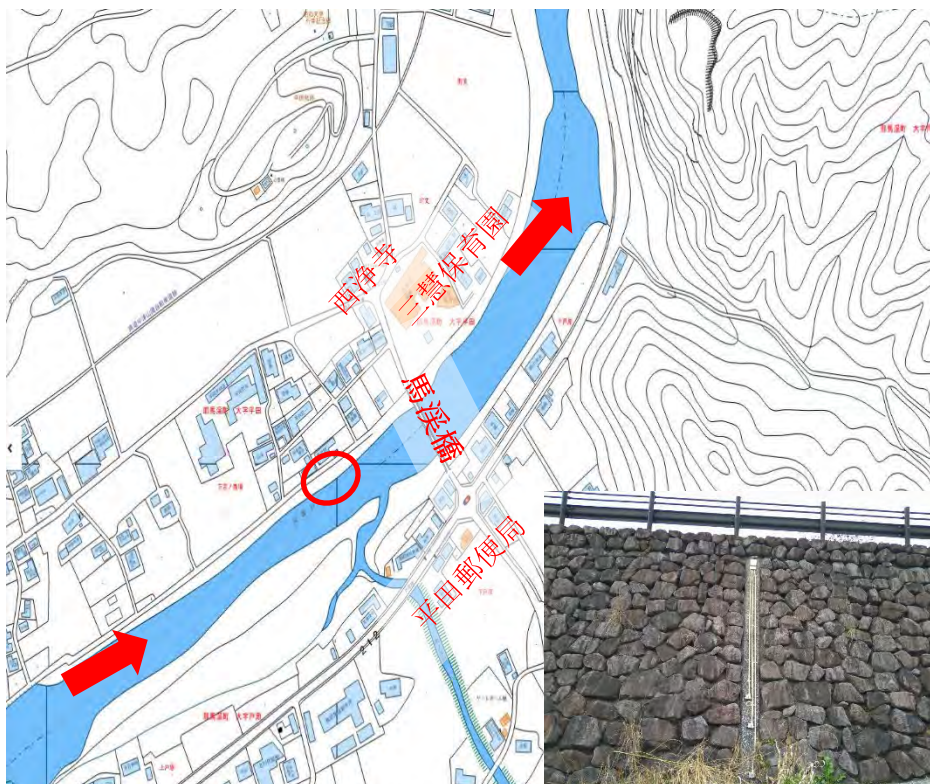
変更後の看板の掲載内容

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	防災マップの作成、周知 避難訓練の実施支援	中津市 等			

■ワンコイン浸水センサの設置（中津市の事例）

○中津市では、国土交通省のワンコイン浸水センサ実証実験に参加し、浸水センサを活用することで、浸水範囲や浸水深等を早期に把握することが可能なため、避難情報発令及び通行規制の判断等に活用したい。

設置検討箇所（角木地区）



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	地域の被害把握強化	ワンコイン浸水センサの設置	中津市		      	    

～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



○ ソフト対策としてマイ・タイムラインの活用、住民主体の訓練への支援により被害の軽減を図る。

【避難させ隊の事業概要】

- ・ 地元の団体(NPO、防災士会)、住民主体の訓練への支援
 - 地元NPOや防災士会、住民による「地域特性に即した防災訓練」
 - 地域コミュニティ主体の継続性のある「地域に根ざした防災活動」

- ・ **メンバー** 地元団体、NPO、市町村、県

(ステップ①)地域課題等の意見交換

地域の課題や解決のための対策について
意見交換を行う



(ステップ 4)避難訓練実施

- ・地域特性に応じた避難訓練
- ・地域課題を踏まえた防災訓練（避難所運営訓練など）
- ・次回訓練に向けた講評、反省会など



(ステップ②)防災学習会、訓練計画作成

- ・防災知識を深めるため、学習会を行う
- ・地域課題を踏まえた訓練計画の作成



(ステップ③)DIG(災害図上訓練)等

- ・図上訓練によるイメージの共有
- ・役割分担等の整理
- ・訓練に向けた最終打ち合わせ



おおいたマイ・タイムラインシート



④ おおいたマイ・タイムライン ～わが家の避難計画～

Ver.3(R3.5.20改訂)

警戒レベルと警戒レベル相当情報(防災気象情報)

警戒レベル1 早期注意情報 (気象庁が発表) 今後、気象状況悪化の恐れあり	警戒レベル2 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発表) 気象状況が悪化	警戒レベル3 高齢者等避難 (市町村が発令) 災害の恐れあり	警戒レベル4 避難指示 (市町村が発令) 災害の恐れが高まっている	警戒レベル5 緊急安全確保 (市町村が発令) 災害発生または切迫
一	氾濫注意情報	警戒レベル3 相当情報 大雨・洪水警報 氾濫警戒情報	警戒レベル4 相当情報 土砂災害警戒情報 氾濫危険情報	警戒レベル5 相当情報 大雨特別警報 氾濫発生情報 高潮氾濫発生情報

警戒レベルに応じた家族の行動

災害への心構えを高める	自分や家族の避難行動を確認	もうすぐ避難開始！	高齢者等は危険な場所から避難	危険な場所から全員避難	全員避難完了！	命の危険、直ちに安全確保
○避難先や避難経路を再確認する ○非常持出袋の中身を再確認する ○家族の予定を確認する ○持病薬や体調に応じた薬を準備する ○服で覆はれやすい物を屋内に片付ける	○ハザードマップの確認 ○携帯電話の充電を完了しておく ○家族の予定を確認する ○窓の施錠、戸戸を閉める ○叔母さんに、避難する可能性があることを連絡する ○窓ガラスにガムテープを貼っておく	わが家の避難スイッチ！ 警戒レベル3発令後に必ず避難する！！ ○避難経路の状況を確認 ○火の元、戸締まりを確認 ○近所に住んでいる一人暮らしのおばあちゃんに声かけしながら、非常持出袋を持って、おばさんの家に避難開始！		○おばさんの家に家族全員が避難完了！ ○気象情報を確認する ○おばさんの家が危険な状況になりそうな場合は、大分公民館へ避難する ※避難した方が危険な場合は、そのままだよさんの家で避難を続ける ○テレビやラジオで気象情報をチェックする	自宅内の安全な場所へ避難 2階以上に避難	

日頃から調べておくこと、備えておくこと

わが家の災害リスク・避難先	非常持出品	情報収集ツール
☐ 浸水する深さ 想定 (1)m ☐ 近隣河川までの距離、 ☐ 土砂災害警戒区域に入って (いる) (いない)	☒ 懐中電灯 ☒ モビ ☒ 携帯電話の充電器 ☐ 電池 ☒ マスク ☐ アルコール消毒液 ☒ 体温計 ☐ ハザードマップ	☐ 防災アプリ ☒ 県民安全・安心メール ☐ 市町村防災メール
☐ 避難先① (母さんの家) まで、徒歩 (車) まで (10) 分 避難先② (大分公民館) まで、徒歩 (車) まで (7) 分 ※自宅が危険な地域ではない場合や、マンションなど頑かな建物の場合は、屋内待機や垂直避難(建物内の2階以上) ☐ 避難先までの危険な場所・特徴 (避難先①道路が狭い 避難先②長い階段がある、街灯が少ない)	☒ 忘れちゃったか? ☒ 常備薬 ☒ お薬手帳 ↓その他に準備する物も書いておこう!	☒ テレビ ☒ 防災ラジオ ☒ 大分県気象台HP ☒ おおいた防災ポータル ☐

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	マイ・タイムライン作成支援 地域の訓練支援	大分県 等		      	     

- おおいた防災VRや防災啓発動画などの活用により住民の防災意識の醸成を図る。

おいしい防災VR

【事業目的】

防災意識の醸成、早期避難の促進

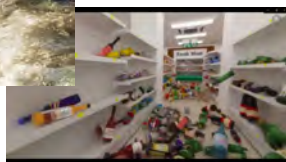
【制作コンテンツ】

地震編、津波編、土砂災害編(R1)

洪水・浸水害編、台風編(R2)

【運用方法】

学校や地域の防災訓練等で活用
県振興局等で視聴用ゴーグルを貸出
「YouTube」で全編公開



防災啓発動画

【事業目的】

個人や世帯単位の啓発、防災の日常化

【制作コンテンツ】

おおいた防災アプリ(カップル編、ギャル編)(R5)

啓発動画 キニナル犬シリーズ(R6)

【運用方法】

「YouTube」で全編公開
テレビCM及びSNS広告



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	おおいた防災VR等を活用した住民の防災意識の醸成	大分県		     	  

◆防災士養成研修の講師派遣(主催:大分県防災局)

県内10箇所において、地域の防災力向上のため、自主防災組織活動の要となる防災士の養成研修へ河川課と砂防課から講師を派遣し「水害対策について」等について講演を行いました。

令和7年度 大分県防災士養成研修

	開催会場	日程	対象市町村	場所	受講者数
1	県庁	8月20日(水)、25日(月)	県職員等	県庁本館2階正庁ホール	58
2	中津市	9月20日(土)、21日(日)	中津市、宇佐市 豊後高田市	中津市本庁大会議室	77
3	佐伯市	9月27日(土)、28日(日)	佐伯市、津久見市 臼杵市	佐伯市消防本部	58
	県社協	10月1日(水)、10月22日(水)、 11月11日(火)	県内福祉施設職員	大分県総合社会福祉会館 4階大ホール	46
	県教委	10月6日(月)、7日(火)	県立学校教職員	大分県教育センター	59
4	豊後大野市	10月25日(土)、26日(日)	竹田市、豊後大野市	豊後大野市立大野公民館	42
5	別府市	11月8日(土)、9日(日)	別府市、由布市	別府市役所1階 レセプションホール	50
6	大分市	11月29日(土)、30日(日)	大分市	大分市役所 別館6F 多目的大会議室	116
7	日田市	12月6日(土)、7日(日)	日田市、玖珠町 九重町	日田市役所7階大会議室	51
8	日出町	12月13日(土)、14日(日)	杵築市、国東市 日出町、姫島村	日出町保健福祉センター	53
	合計				610



令和8年度も継続

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	大分県	水防災意識を高める防災教育・防災訓練等の実施		

◆消防学校へ講師派遣

令和8年度も継続

・令和7年7月2日(木) 大分県消防学校

→新たに採用された消防職員に対し河川課と砂防課から講師を派遣し防災について講演を行いました。



◆その他 研修等講師派遣

＜土木未来教室＞(中津土木事務所より)

令和8年度も継続

・令和8年1月23日(金) 大分県立中津東高校

→土木科1年生を対象とした現地学習のため中津土木事務所から講師を派遣し、急傾斜地崩壊対策事業による人家の保全効果等を勉強しました。



区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	大分県	水防災意識を高める防災教育・防災訓練等の実施		

○災害の危険性の見える化により、洪水等からの逃げ遅れが無いよう、適切な避難行動を促進

①中小河川等洪水時ハザードマップ作成支援

- ☑頻発する豪雨災害に対応するため、洪水浸水想定区域図の作成対象を中小河川（県管理河川）まで拡充し令和7年度までに作成

県管理
河川
585

作成対象
河川
547※

※背後に家屋等がある河川が対象
河川数は市村との協議により変更の可能性あり

- 洪水浸水想定区域図を基に市町がハザードマップを作成（R8まで）
中小河川等洪水時避難行動支援事業を創設し作成費用を補助

【浸水想定区域図作成スケジュール】

R5年度	R6年度	R7年度
- 豊後高田市 - 国東市 - 別府市 - 日出町 - 由布市 - 玖珠町 - 竹田市	- 杵築市 - 臼杵市 - 津久見市 - 九重町 - 日田市 - 中津市 - 宇佐市	- 佐伯市 - 豊後大野市 - 大分市

<効果>

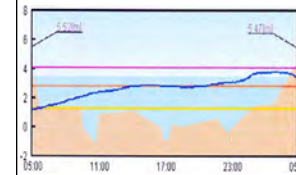
中小河川等での住民の避難体制を構築

②中小河川等への水位計・河川カメラ増設

- ☑住民の避難行動を促すための視覚情報を充実するため、従前の大規模河川等に加え、中小河川等へも水位計・カメラを増設

- 考え方 ☑過去に浸水実績のある河川
⇒浸水実績のある河川については、ハザードマップに加え、視覚情報を用いて、より緊迫感を持って避難行動を促す

◆水位計：既設127基 + 増設24基 = 計各151基設置（R3済）
◆カメラ：既設82基 + 増設69基



（県HPや防災アプリ等で視覚情報を発信）

<効果>

視覚情報等の提供により、適切な避難行動を促進

③河川砂防情報システムの機能強化

- 課題
- ・豪雨時のアクセス集中時に処理能力以上のアクセスがあることによってサーバーダウンや、画面表示が遅くなることが発生
 - ・県庁のシステムが故障した場合に、雨量や河川水位の情報発信ができなくなることが発生

- 外部への情報提供機能をクラウド化することによって、アクセス集中時と、県庁のシステム故障時でも雨量や河川水位の情報発信を継続

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水害リスク情報の提供・充実	大分県	水害監視カメラ・量水標の設置		

洪水時危機管理体制強化事業（量水標の設置）

【現状と課題】

- ◆気候変動の影響に伴い頻発・激甚化する豪雨災害
- ◆R5災害では18河川で氾濫が発生、5基の水位計が欠測となった
- ◆紙媒体の河川管理資料の確認には手間と時間がかかる



- 避難情報を確実に伝達する洪水危険度の更なる見える化が必要
- 県民一人一人の自主的な避難行動に繋げるための啓発も重要
- 新しい技術を活用し、河川管理体制の強化を図る

危機管理体制の
強化が急務

■量水標の設置による危険度の可視化

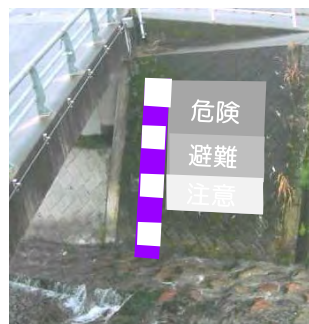
- ☑ 浸水被害により重大な被害を生じるおそれがある河川において、量水標を設置
- ☑ 河川監視カメラで水位の危険度を確認でき、避難行動の判断基準となる

〔対象箇所〕 河川監視カメラを設置している79か所を3年間(R6～R8)で整備

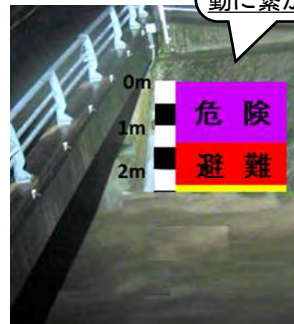
危険度が視覚的にわかることで、迅速な避難行動に繋がる



〔現状〕



〔設置後(通常時)〕



〔設置後(増水時)〕

(効果)

- ・河川監視カメラや目視で水位の確認が可能
- ・平常時における周辺住民の危機意識の醸成



水位計故障時
水位の確認不可
量水標があれば...



設置イメージ

取組方針

わかりやすい河川情報の提供により、県民の危機管理意識を醸成、水災害からの回避を図る

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報の提供・充実	大分県	量水標の設置		

山国川流域治水プロジェクト 2. 0



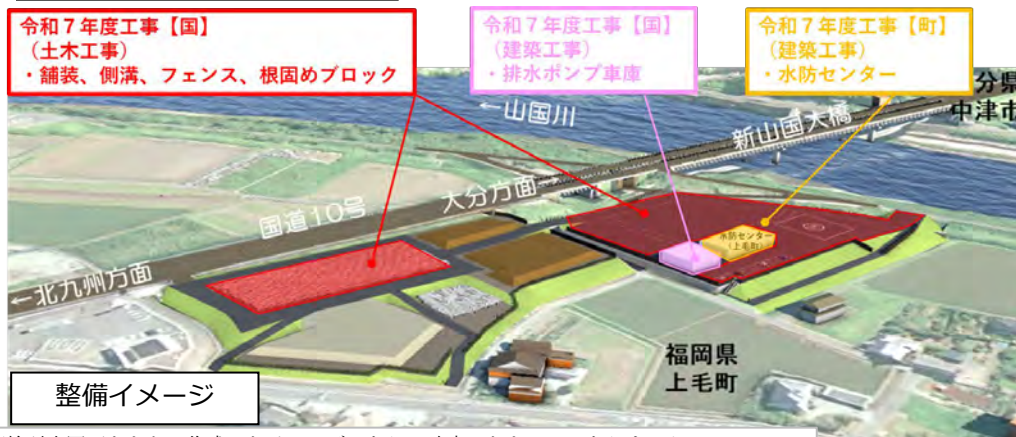
～九州屈指の急流河川の山国川における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～

■河川防災ステーションの整備（国土交通省、上毛町の事例）

- 山国川では、平成24年7月洪水で家屋等の浸水被害が発生している。唐原地区河川防災ステーションは、山国川水系の洪水被害を最小限とするため、災害時の緊急復旧活動を行う上で必要なコンクリートブロックなどの緊急用資材の備蓄、ヘリポート等の整備を行うとともに、上毛町が水防センターを設置するなど、災害時の活動拠点となる施設として、令和2年3月に登録。令和4年度より工事に着手、令和8年度完成予定。



H24.7 洪水による被災状況



※検討中図面をもとに作成したイメージであり、確定したものではありません。



区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化	河川防災ステーションの整備	国土交通省 上毛町	■		



令和8年度 山国川圏域流域治水プロジェクト

【2級水系版流域治水プロジェクト】

令和8年5月27日

山国川圏域（2級水系版）流域治水プロジェクト【位置図】

～大分県北部における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



○令和元年東日本台風をはじめ、平成30年7月豪雨など全国的に近年激甚な水害が頻発している。大分県北部地域（中津市）においても昭和57年、平成9年、平成24年と度重なる豪雨災害・台風被害を受けていることから、事前防災対策を進める必要がある。このことから、あらゆる関係者（国、都道府県、市町村、住民等）の取り組みを連動させ、過去の出水と同規模の洪水を安全に流下させるなど、浸水被害の軽減を図る。

- 凡例**
- 直轄管理区間
 - 法河川
 - 本川・主要河川
 - 市町村界
 - 流域界（単独）大分県内
 - 山国川以外の中津市
 - 流域界

【中津市排水対策課】
下水道等の排水施設の整備
河道掘削・護岸整備
農業水利施設の整備・有効活用

【中津土木事務所】犬丸川
堤防整備、護岸整備、橋梁架替、河道掘削等

【森林保全課・森林整備室】
森林整備・治山対策
※流域全体

- ：氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- ：被害対象を減少させるための対策
- ：被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防整備、護岸整備、橋梁架替、河道掘削等（大分県中津土木事務所）
- ・河道掘削・護岸整備（中津市排水対策課）
- ・下水道等の排水施設の整備（中津市排水対策課（大分県公園・生活排水課））
- ・砂防関係施設の整備（大分県砂防課）
- ・ため池の補強・有効活用、水田の貯留機能向上（大分県農地・農村整備課）
- ・森林整備・治山対策（大分県森林保全課・森林整備室）
- ・農業水利施設の整備・有効活用（中津市排水対策課）

■被害対象を減少させるための対策

- ・立地適正化計画の策定等（中津市防災危機管理課）

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

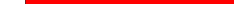
- ・防災教育や避難訓練等の実施（大分県防災対策企画課、大分県河川課）
- ・小規模河川の氾濫推定図、ハザードマップの作成（大分県河川課）
- ・防災情報伝達の多重化の検討（大分県河川課）
- ・防災マップの作成、防災マップWeb版の更新（中津市防災危機管理課）
- ・ため池ハザードマップの作成（大分県農地・農村整備課、中津市防災危機管理課）

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

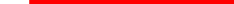
山国川圏域（2級水系版） 流域における対策内容

※1級水系と共通する対策およびロードマップは1級水系の資料参照

中津市 排水対策課 (中津市 耕地課)

区分	対策内容	小項目	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	内水氾濫対策	下水道雨水幹線整備	中津市			

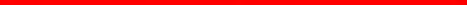
■個別計画に基づく河川整備（中津市）

区分	対策内容	小項目	実施主体	工程															
				短期	中期					中長期									
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	河床掘削	中津市																

■農業水利施設を活用した災害を未然に防止する多面的な対策(中津市)

また、排水路を改修することで、住宅等への雨水の溢水を軽減する。今後も個人の生命、身体及び財産への被害を未然に防止するため、ハード・ソフト両面からの治水・防災を推進する。



区分	対策内容	小項目	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	流域の雨水貯留機能の向上	ため池や農業用排水路の治水活用、防災啓発	中津市			

大分県 砂防課

■砂防関係施設の整備

【砂防】
中居上川
・下川

中居上川・下川

坪池下川

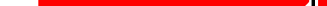
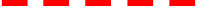
中居上川・下川

砂防堰堤等の整備 2箇所

砂防堰堤の整備	急傾斜地崩壊対策施設の整備
中居上川・下川	
坪池下川	

【砂防】
坪池下川

令和6年度の取組 砂防関係施設の整備

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ 防ぐ・減らすための対策	土砂災害対策	砂防関係施設の整備	大分県			

大分県 森林保全課 森林整備室

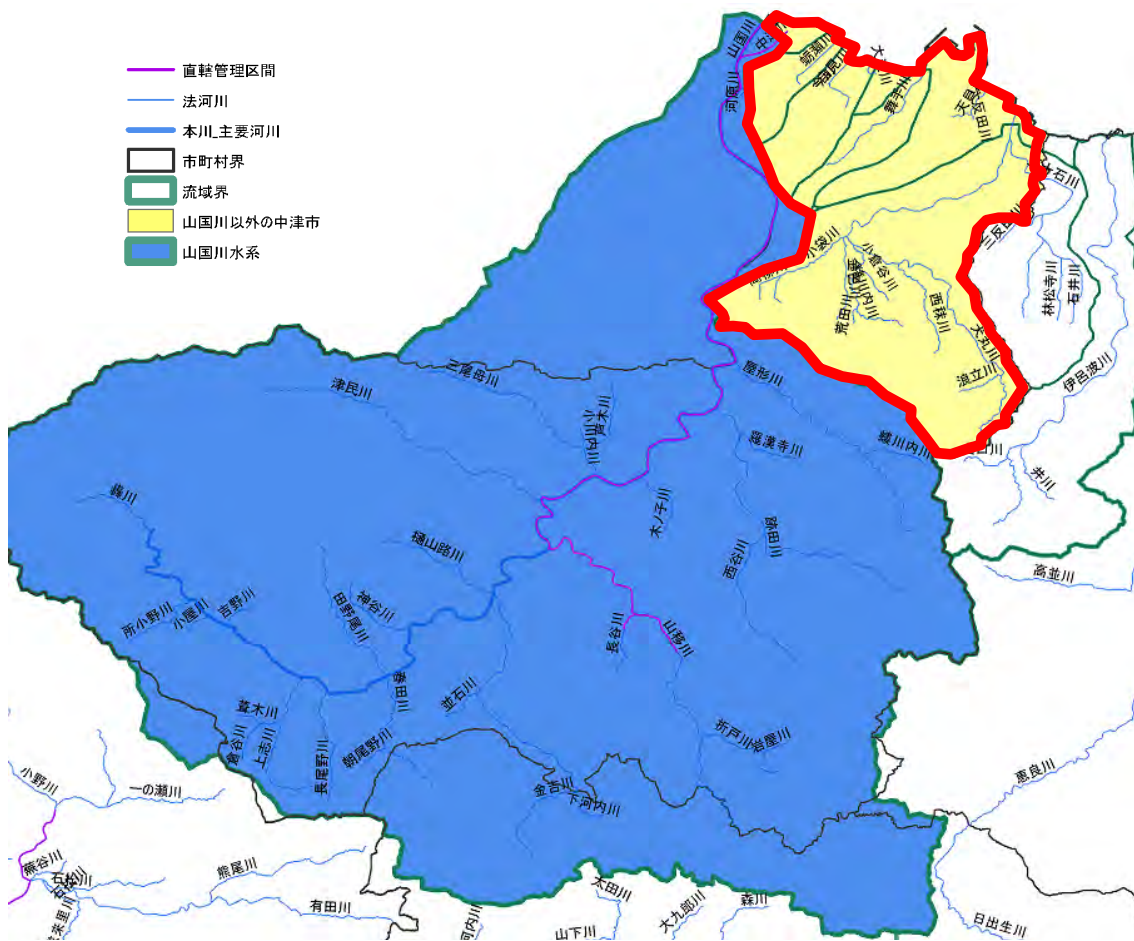
山国川圏域（2級水系版）流域治水プロジェクト

～大分県北部における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～



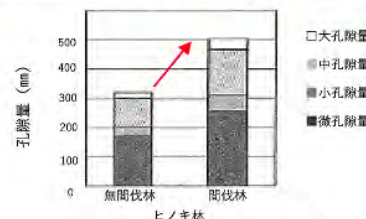
■森林整備、治山対策

森林の有する水源涵養機能や山地災害防止機能等の適切な発揮に向け、治山対策等を推進していく。



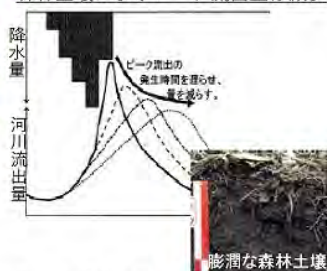
(参考) 森林整備による浸透能の向上効果

間伐の実施で森林土壌の孔隙量が保持



※版部「間伐林と無間伐林の保水容量の比較 (2001)」

森林土壌によりピーク流出量は減少



※玉井幸治「森林の持つ「洪水災害の軽減機能」について」山林第1635号 (2020)

(参考) 治山事業の実施による流木・土砂の流出抑制効果



流木捕捉式治山ダムが流木を捕捉した事例【熊本県球磨村】



治山ダムが山腹崩壊と土砂流出を軽減した事例【大分県日田市】

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	土砂災害対策	大分県、大分西部森林管理署、森林整備センター	森林整備・治山対策		

大分県 中津土木事務所

山国川圏域（2級水系版）流域治水プロジェクト



～大分県北部における被害の軽減に向けた治水対策及び流域一体の防災対策の推進～

■ 犬丸川等における河川整備

- 平成24年7月洪水により犬丸川などで多数の家屋浸水を含む甚大な被害が発生した。
- 犬丸川等で河道掘削や橋梁架替等の河川改修を進めており、治水安全度向上を図る。

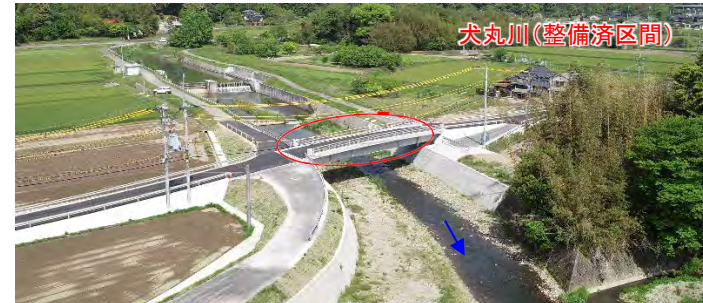
犬丸川浸水写真(H24年7月)



堤防整備・護岸整備、橋梁架替、河道掘削等



犬丸川(整備済区間)



犬丸川(整備済区間)



犬丸川(整備済区間:橋梁架替)

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	河道掘削、護岸整備、橋梁架替、堰改築	大分県			



令和8年度 山国川圏域|流域治水協議会

(3) 令和8年度の取り組みについて

令和8年5月27日

開催概要

日時：令和8年5月19日(火) 15:30～16:30
場所：中津土木事務所 3階大会議室

会議の構成員

機関及び団体名、部署名	
気象庁	福岡管区気象台 大分地方気象台
中津市	総務部 防災危機管理課 上下水道部 排水対策課
吉富町	未来まちづくり課 危機管理室
上毛町	総務課
福岡県	総務部防災危機管理局 防災企画課 県土整備部 道路維持課 県土整備部 河川管理課 県土整備部 河川整備課 県土整備部 港湾課 県土整備部 砂防課 建築都市部 都市計画課 建築都市部 公園街路課 建築都市部 上下水道課 建築都市部 住宅計画課 教育庁教育総務部 施設課 農林水産部 農漁村振興課 農林水産部 林業振興課 農林水産部 農村森林整備課 京築県土整備事務所 用地課 京築県土整備事務所 河川砂防課 行橋農林事務所 農村整備第一課
大分県	生活環境部防災局 防災対策企画課 土木建築部 河川課 土木建築部 砂防課 土木建築部 都市・まちづくり推進課 土木建築部 公園・生活排水課 土木建築部 建築住宅課 農林水産部 農地・農村整備課 農林水産部 森林保全課 農林水産部 森林整備室 北部振興局 中津土木事務所
林野庁	大分西部森林管理署
森林整備センター	九州整備局 水源林業務課
国土交通省	九州地方整備局 山国川河川事務所 (オブザーバー)九州農政局 農村振興部 (オブザーバー)NPO法人 レスキュー・サポート九州

議事内容

1. 取り組みの振り返りについて
2. 各機関の取り組み状況について
3. 令和8年度の取り組みについて
4. その他

令和8年度の取組目標

山国川圏域の令和8年度の取組目標については下記のとおりとする。

- ①流域治水プロジェクト2.0の着実な実装
- ②ロゴマークなどを活用した広報強化、拡大
- ③関係機関（企業等含む）の連携強化、拡大



事務局からの取組状況の紹介・意見交換

1. 取り組みの振り返りについて

○令和7年度の取組目標と実施状況を総括し説明した（山国川）

2. 各機関の取り組み状況について

(1)氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための取り組みについて

○令和3年度に唐原地区の堤防整備を完了し、現在、相原地区で堤防整備を進めている（山国川）

○百留地区や三光土田地区において河道掘削を実施している（山国川）

○東友枝川や黒川等で河道掘削等を進めている（福岡県）

○山国川等で河道掘削や橋梁架替等を進めている（大分県）

○緊急度の高い、北部第3排水区の角木雨水ポンプ場および雨水路の整備、中摩上川の排水路整備を進めている（中津市）

○町内の水路ゲートの事前水位操作と、吉富排水機場等の排水ポンプによる強制排水により内水氾濫を防いでいる（吉富町）

○防災重点農業用ため池の劣化状況評価を行い、適正な維持管理を進めている（上毛町）

○保安林の計画的な配備、治山対策等により森林の適切な管理及び保全を推進していく（大分西部森林管理署）

○水源林造成事業により、森林の整備・保全を進めている（森林整備センター）

(2)被害対象を減少させるための取り組みについて

○土地利用や住まい方の工夫をすることで被害対策を減少させる対策として立地適正化計画をR5.3に策定した（中津市）

(3)被害の軽減、早期普及、復興のための取り組みについて

○水害リスクや対策効果の見える化に寄与するデジタルテストベッド仮想空間構築に取り組んでいる（山国川）

○土砂災害・洪水・津波・ため池の被害想定を記載した総合的な防災マップを作成し配布した。今後は防災マップを活用した避難訓練の実施支援を行う（中津市）

○子どもたちの防災に関する知識と意識を育むための「なかつジュニア防災リーダー」の養成を推進している（中津市）

○おおいた防災VRや防災啓発動画等の活用により、住民の防災意識の醸成を図っている（大分県）

○唐原地区河川防災ステーションの整備を進めており、令和8年度に完成予定である（山国川、上毛町）

3. 令和8年度の取組目標について

山国川圏域流域治水の令和8年度の取組目標は、令和7年度の目標のさらなる強化、拡大を図ることです承を得た。

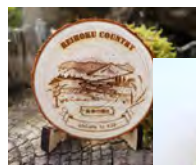
2

令和8年度：自分事化に向けた取組のロードマップ

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	YouTubeへの動画配信（河川カメラ画像）、自治体との防災対応の振り返り、おおいた防災VR等を活用した住民の防災意識の醸成、テレビとの連携による情報配信の強化			
	◎連携活動 地域 個人	流域治水パンフレットの作成・配布・ロゴマークを活用した普及啓発・全国流域治水マップ投稿 メディアとの連携による洪水・土砂災害情報の提供、防災ワークショップ、広報誌等による周知・啓発・防災情報の提供			
		行政実務者コアメンバーによる懇談会・現地視察			
		● 商業施設での防災展出演		● 学園祭にて流域治水＆防災展開催 ● 商業施設での防災展出演	
②自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	出水時の指定河川洪水予測 危機管理水位計による情報発信、防災情報の配信、防災気象情報の提供 緊急速報メールによる洪水情報の提供			
		水害リスクマップ・防災マップ・ハザードマップの作成・更新・運用・作成支援、デジタルテストベッド等の運用、浸水想定区域・土砂災害警戒区域等の公表、洪水浸水想定区域図の作成・配信			
	◎教育活動・人材育成 地域 個人	雨水浸透・貯留の分かりやすい模型教材の展示 ダム見学会における防災教育、小中学校等への防災教育・出前講座・防災士養成・スキルアップ研修・土木未来教室等の開催、消防学校へ講師派遣、ジュニア防災リーダーの養成の推進、防災講演会の開催、防災資格取得の推進			
	◎訓練活動 地域 個人	水辺で乾杯による地域住民との連携強化			
③行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体	住民参加型の避難訓練の実施			
	◎水災害対策の支援 個人 企業	雨水貯留浸透施設の促進 田んぼダム堰板の設置[現地実証]（中津市） ● 市民への土のうの事前配布			
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体	災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化			
		水防活動拠点整備（唐原地区防災ステーション整備）			

○ 山国川圏域流域治水の取組推進における各主体の意識を統一することを目的に、山国川圏域流域治水のロゴマークを圏域内から一般公募を行い、令和5年度の協議会にて、決定した。圏域内のあらゆる関係者が“協働し流域治水を自分事として取り組む”ための意識醸成に向け、様々なツールに活用してプロモーションを行っていく。

ロゴマークの活用イメージ(例)



ウッドプレート



エコバック



ステッカー



各種パンフレット



缶バッジ



のぼり旗(大・小)



バックパネル



田んぼダム実践地で収穫された
お米へのラベル表示イメージ

「流域治水ブランド」商品による広報

ロゴマークの活用イメージ(子ども向けの工夫)

缶バッジ配布台紙 (その後、名刺)

- 缶バッジを配布するだけでなく、**名刺として再利用できる台紙**に貼付し下記内容を記載
- 興味をひく**アニメ風**のイラスト
- 流域治水推進に向けた**わかりやすいフレーズ**
- 親子で流域治水を学習するための山国川圏域流域治水の**ホームページ**にリンクする**QRコード**



缶バッジを
メンディングテープで貼る

缶バッジをとった後、
台紙をすぐ捨てて
しまわないように
自分の名刺
にしよう!
※子ども対象

◆PR動画の作成と放映

- ・流域治水の概要や、山国川圏域流域治水のこれまでの取組について紹介するための**短時間の動画**を作成し、**放映**する。
- ・放映場所は、イオンモール三光さまのデジタルサイネージや、吉富町「よしとみ憩いのやかた」のLEDビジョンなどを想定。

動画に使用できる素材(映像・写真)の提供をお願いします



イオンモール三光さまのデジタルサイネージ



よしとみ憩いのやかた

◆子どもたちに向けた広報

- ・山国川圏域では、イオンモール三光さま等の家族連れが多く利用する商業施設があること、流域内の小学生による「耶馬溪ダム」の見学が毎年実施されていることなどから、小学生をはじめとした子どもたちをターゲットとした広報を推進することが重要。
- ・子どもたちへPRすることで、親御さんをはじめ、ご家族にも情報が伝わることも期待できる。

I. 子ども向けの流域治水パンフレットの作成



出典：四国地方整備局 中村河川国道事務所

II. 耶馬溪ダム見学の小学生に向けた流域治水の説明



III. 流域治水PRイベント実施時の工夫

- ・模型などを使って、子どもたちの興味を惹ける展示となるよう工夫
- ・山国川圏域流域治水ロゴマークが入ったオリジナルグッズの配布 など…



模型を活用した展示例



ロゴマークが入ったグッズ

◆イベント時の簡易アンケートの実施

- ・流域内で開催されるイベントの中で山国川圏域流域治水に関する認知度アンケートも実施。
回答してくれた子どもには関連グッズをプレゼントする。アンケートは、シール貼り付け式などの簡易なものを想定している。

「山国川圏域流域治水」についてのアンケート

「流域治水」というのは、降った雨の水が川に流れて集まってくる地域（＝「流域」と呼びます）に住んでいるみんなが協力して、水の災害からくらしを守る取り組みのことです。山国川の周りにある中津市・上毛町・吉富町では、地域のみんなで力をあわせて水害をふせぐ「山国川圏域流域治水」という取り組みをはじめています。



山国川圏域流域治水 ロゴマーク

知っていた

知らなかった

シールを貼り付けて
回答してもらう



回答用シールデザイン
（直径3cm）



関連グッズの例
（ロゴマグネット）

簡易アンケート台紙（A1サイズでの印刷を想定）

●広報促進に向けたお願い(昨年度より継続した取り組み)

より多くの方に山国川圏域流域治水について知っていただくため、関係機関のホームページのトップページなどに、山国川圏域流域治水のホームページへのリンクを設定したバナーを配置し、ホームページ間の連携を図っていただきたいと思います。



市役所など、関係機関のホームページのトップ(または目につきやすいページ)に、山国川圏域流域治水のページへのリンクを設定したバナーの配置をお願いします
※バナーとリンク先URLは簡単に設定可能です！



- 流域治水においては、流域内の企業・団体などの多様な関係者が連携して治水対策に取り組むことが必要である。
- 企業等の流域治水への参加を促進する「流域治水サークル」の将来的な立ち上げを見据え、今年度は試行的な取り組みを実施する。

R7年10月のコアメンバー会議

- ・流域治水サークル立ち上げの構想を共有
- ・今後は、実施内容をより明確にして、立ち上げに向けた試行を開始する

【要検討事項】

- 趣旨
- 参加企業の募集方法・内容
- 行政側にもメリットがある仕組みづくり
- 参加企業のインセンティブの整備
- 事務局機能等

令和8年度の実施内容(案)

(仮称)山国川圏域流域治水サークル 試行(案)

○趣旨(案)

激甚化・頻発化する水害に対し、流域全体で治水対策に取り組む「流域治水」では、企業、団体等の多様な関係者(以下「企業等」)を含むあらゆる関係者との連携が重要です。

自然の恵み豊かな山国川圏域の暮らしと住民の生命を守る「流域治水」への企業等の参加の促進を目的に、(仮称)山国川圏域流域治水サークルを試行します。

(仮称)山国川圏域流域治水サークル 参加企業のインセンティブ

①企業等の山国川圏域での流域治水参加に役立つ情報の発信

…参加企業限定HP、かわら版、メルターなど

②流域治水に貢献する企業等の取組みの圏域住民への紹介

…流域治水リーフレット、デジタルサイネージでの紹介など

③圏域の行政と企業、企業と企業の連携促進

…参加企業と交流会の開催など

④企業の防災力の向上(BCP)

参加企業
交流会開催



流域治水
関連イベント開催



流域治水
リーフレットでの
企業の取組
み紹介



○参加企業のイメージ(案)

・過去にヒアリングを実施した企業へ、試行の目的や内容をお伝えし参加を依頼する

- 本年度は流域内の事例に加え、近隣の流域外での事例などについても現地視察先の候補として検討する。
- 流域内で整備が進む砂防堰堤、河川防災ステーションや流域外の雨水貯留施設について候補地(案)とした。

現地視察先候補(案)

■防災ステーション

- ・唐原地区河川防災ステーション(国交省・上毛町)



唐原地区河川防災ステーション

出典: 国土交通省HP

■砂防堰堤

- ・砂防ダム(流木捕捉透過型堰堤を含む)
関の本川、大迫川(中津市本耶馬溪町曾木)、町川
(中津市本耶馬溪町跡田)



砂防ダム(本耶馬溪町)

出典: 中津土木事務所instagram

■雨水貯留浸透施設

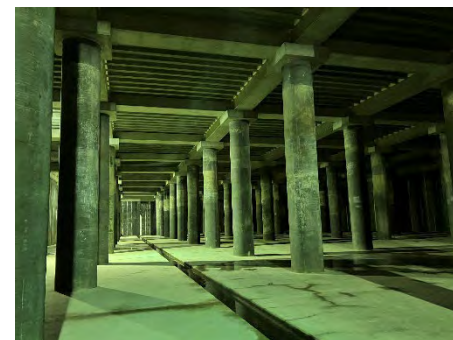
①福岡市近郊

- ・山王雨水調整池(福岡市)
- ・福岡県営春日公園一雨庭(福岡県春日市)



雨庭(春日公園)

出典: 福岡県営春日公園HP



山王雨水調整池

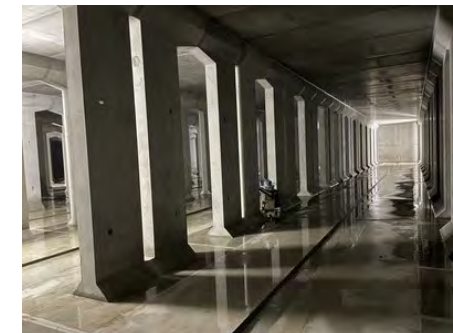
②久留米市近郊

- ・久留米大学御井キャンパス(久留米市)
ごへいじま
- ・御幣島公園(久留米市)



久留米大学雨水貯留施設

出典: 久留米市HP



御幣島公園雨水貯留施設

出典: 久留米市HP



■田んぼダムの効果検証により、現在主流となっている門型タイプの堰板の方が、三角堰タイプに比べ流量低減(ピークカット)効果が高いことを確認した。
■今後、関係各所と連携して堰板の設置支援や実感しやすい効果の見せ方により理解を促進し、田んぼダムを推進していくこと有効と考えられる。

田んぼダムの流量低減効果試算

①対象流域: 流域15,16,18

水田面積割合が多く、周辺で田んぼダム実施地区等がある。

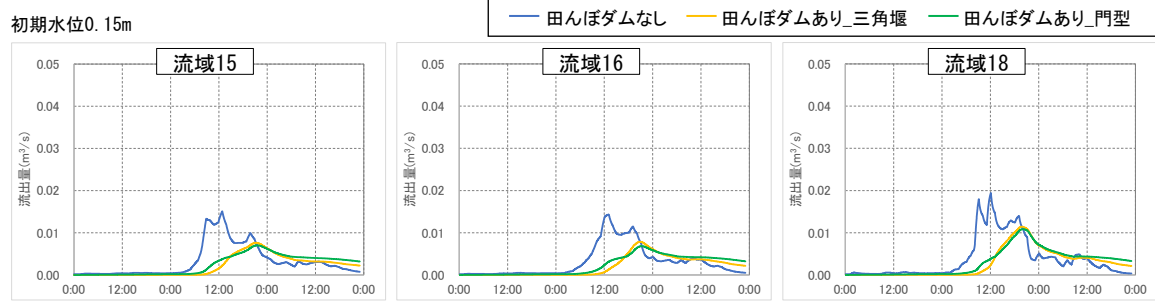
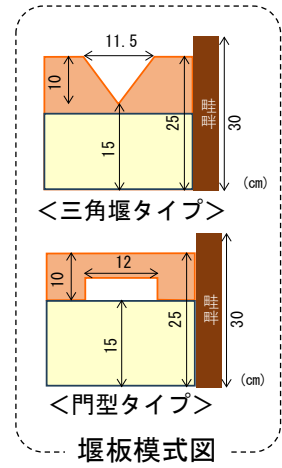
②田んぼダム検討条件

流出計算により対象流域の流量を算出し、面積比換算により、水田一筆当たりの流量を算出。次に、田んぼダム調節計算により、田んぼダムを実施した場合の流量を算出。

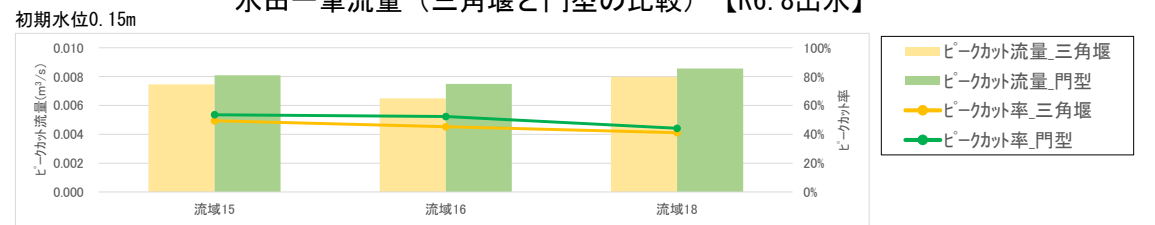
- 水田一筆面積: 0.3ha(100m × 30m) 標準的な面積
- 畦畔高: 30cm (「田んぼダムの手引き」参考)
- 堰板: 大分県採用 三角堰タイプ、門型タイプ

③田んぼダム流量低減効果試算結果

- ・ピークカット効果は4割～5割程度
- ・門型タイプのほうが効果が高い傾向

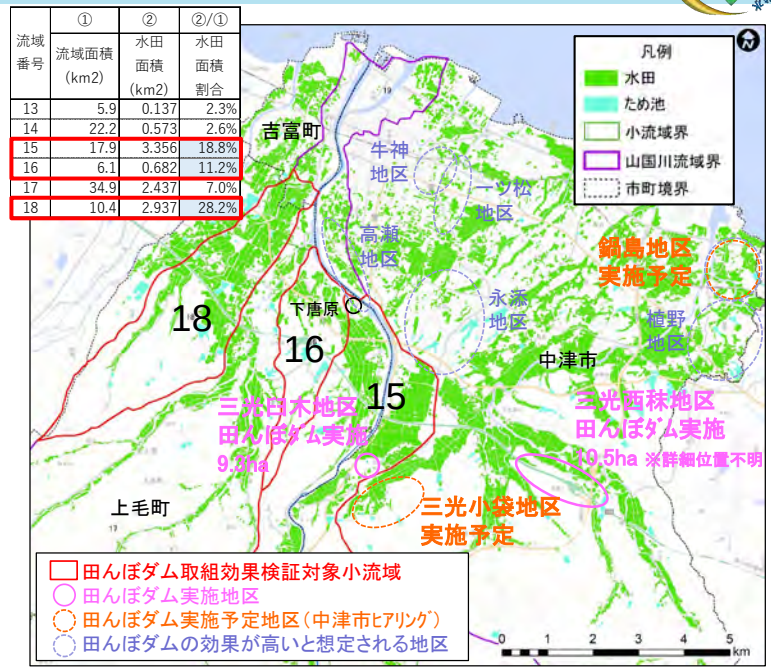


水田一筆流量(三角堰と門型の比較)【R6. 8出水】



田んぼダムによるピークカット効果【R6. 8出水】

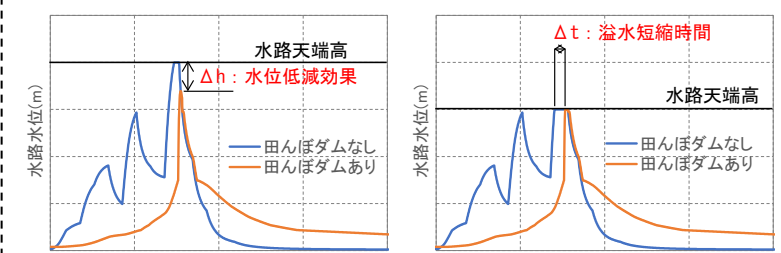
流域番号	① 流域面積 (km2)	② 水田 面積 (km2)	②/① 水田 面積 割合
13	5.9	0.137	2.3%
14	22.2	0.573	2.6%
15	17.9	3.356	18.8%
16	6.1	0.682	11.2%
17	34.9	2.437	7.0%
18	10.4	2.937	28.2%



水田分布状況・田んぼダムの実施状況

今後の方針(実感しやすい効果の見せ方)

流量低減(ピークカット)効果を示したが、地域住民や農家には水位低減効果のほうが実感しやすいため、モデル地区を設定し、水路の形状・勾配などの諸元を踏まえ、水位低減効果(水路の溢水抑制や溢水時間短縮等)の検討を行う。
また、流量低減による浸水範囲の縮小を地形条件から概略的に示す。



田んぼダムによる水位低減効果イメージ

- 流木・災害リスク等の分析・検証により、森林施業効果の高いエリアを抽出。3Dマップや個票などを作成し「見える化」を図った。
- 今後は、これら情報を森林部局、森林組合等と共有し、より効率的・効果的な森林施業を推進していくことが有効と考えられる。

これまでの取組概要

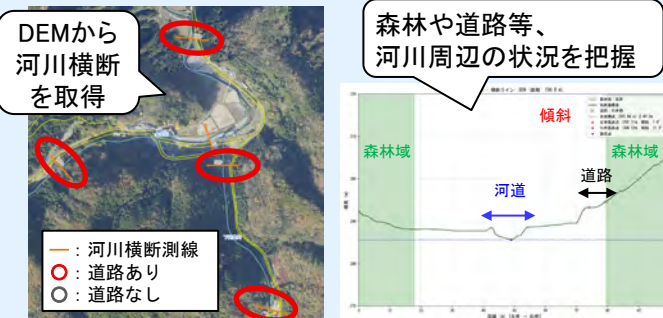
前年度:流木リスク分析・整備優先エリア抽出

流木災害リスクに精通した学識者の知見や「林野庁ツール」を活用した、客観的根拠に基づく流木・災害リスクを分析。また、治山・砂防施設の整備状況を基に整備優先度の高いエリアを抽出した。



今年度:ヒアリングを踏まえた選定条件の机上整理

河川横断面図を全962測線作成し、「流木が発生しやすいか」「道路沿いで作業がしやすいか」等、森林施業を実施するうえでの選定条件を確認した。



森林施業を効率化するためのデジタルデータ等の整備

施業推奨箇所の設定および「見える化」のためのデータ・ツールの開発

- 前年度および今年度の分析内容を総合的に判断し、「リスクが高く、ハード施設が不足傾向にあるが、森林施業による対策は実施しやすい」河川を抽出。「最優先で森林施業に取り組むべき河川(施業推奨箇所)」とした。
- 3Dマップや平面図+横断面図からなる個票の作成により「見える化」を図った。



オレンジ:
施業推奨箇所

個票

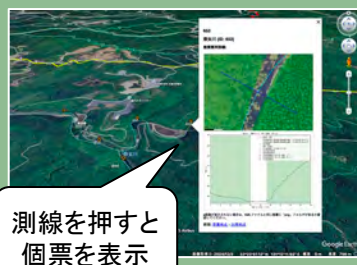
施行推奨
箇所全て
作成

一目見て河川
周りの情報が
わかる!

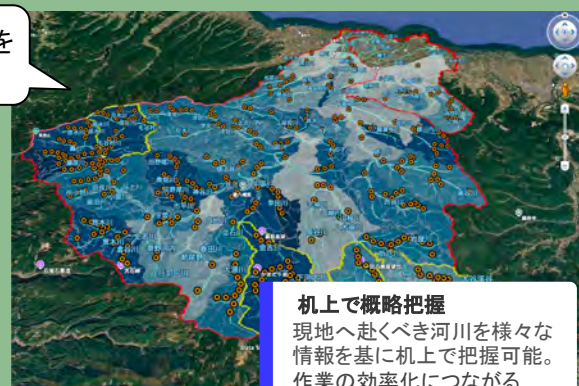


3Dマップ

様々な情報を
一元集約



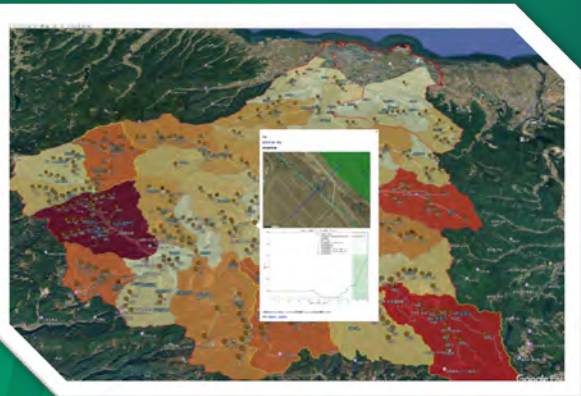
測線を押すと
個票を表示



机上で概略把握
現地へ赴くべき河川を様々な
情報を基に机上で把握可能。
作業の効率化につながる

災害に強い森林づくり適地選定ツール

「どこから手を付けるべきか」が
机上で一目で
わかる！



山国川圏域森林情報3Dマップ
4.23 コアメンバー会議にて配布！



DVD収録データの3つの特長



① 施行推奨箇所が一目瞭然

流木・山地災害リスクが高く、対策しやすい位置を「**オレンジ色**」で抽出。最優先で取り組むべき箇所が視覚的にわかります。



② 森林個票をワンクリック

マップ上の測線をクリックするだけで、傾斜、森林域、道路の有無が一目でわかる「**河川横断面図**」がポップアップ表示されます。



③ 机上で現地状況を把握

DEM等の詳細データを活用。現地へ赴く前に、急勾配や作業道の有無を確認でき、**手戻りを防ぎリードタイムを短縮**します。

環境に合わせて選べる

どんなPC環境でも閲覧OK！ ハイブリッド仕様

インストール可能である場合

Google Earth Pro 版

3次元表示や横断面図プレビュー機能等
全ての機能をフルに活用できます。

ソフトのインストール制限がある場合

Web版横断面図PDF

ブラウザにKMLを直接読み込み、
横断面図はPDFで番号照合して
確認できます。



操作に迷わない！ マニュアル付き

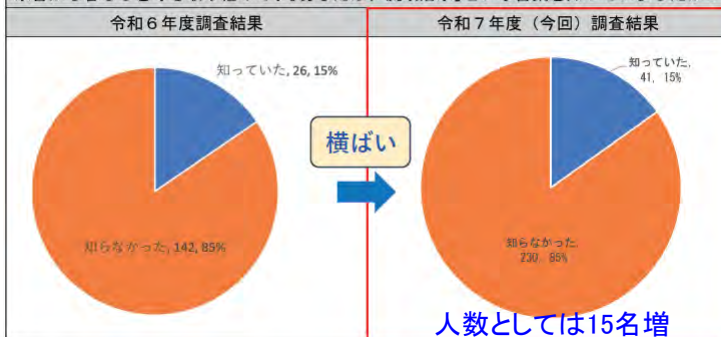
画像付きで分かりやすい「ブラウザ閲覧用取扱説明書 (HTML形式)」をDVD内に収録しています。

概要

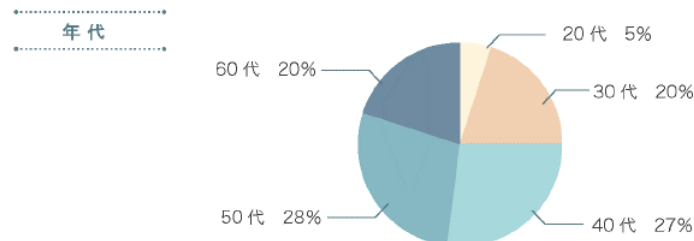
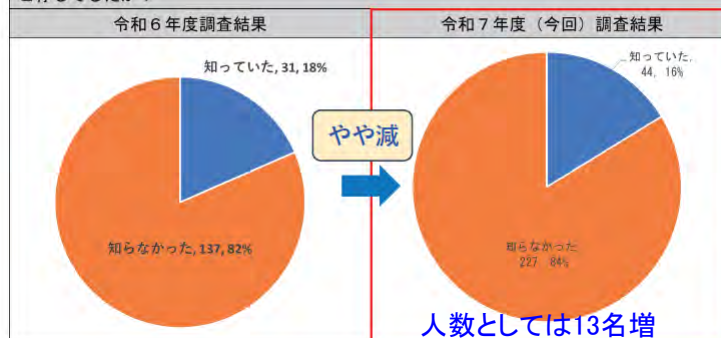
- 流域治水の取り組みの認知度や防災に対する認識の把握のためネットサービスを利用したアンケートを実施。
- 令和6年度に実施し、その後の取り組みの効果でどのように変化するかを把握するために令和7年度にも同様のアンケートを実施。
- ネットサービスの範囲を拡大したことでアンケート回答者は拡大したものの、「流域治水」というワードや取り組みについての認知度の割合の向上は見られなかった。

R	実施期間	令和6年度9月13日～9月20日
6	回答総数	168名(中津市:145名 上毛町:12名 吉富町:11名)
R	実施期間	令和7年度9月下旬～
7	回答総数	271名(中津市:227名 上毛町:16名 吉富町:28名)

設問2:「流域治水」とは雨水が川に集まる大地の範囲(流域)のあらゆる関係者が協力して水害から暮らしを守る取り組みです。あなたは、「流域治水」という言葉を知っていましたか?

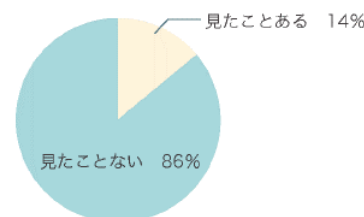


設問3-1:山国川周辺地域(中津市、上毛町、吉富町)では、地域全体で協力して水害対策に取り組む「山国川圏域流域治水」を開始しています。山国川周辺地域のこのような動きをご存じでしたか?

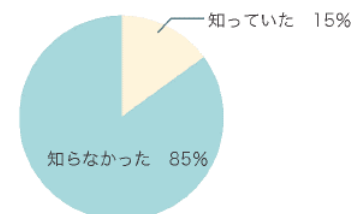


令和7年度 結果概要

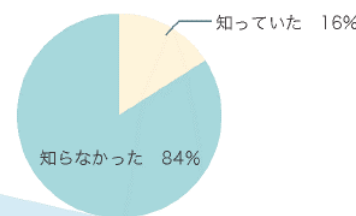
「山国川圏域流域治水」のロゴマークを見たことがありますか?



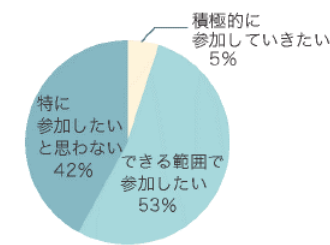
「流域治水」とは雨水が川に集まる大地の範囲(流域)のあらゆる関係者が協力して水害から暮らしを守る取り組みです。あなたは、「流域治水」という言葉を知っていましたか?



山国川周辺地域(中津市、上毛町、吉富町)では、地域全体で協力して水害対策に取り組む「山国川圏域流域治水」を開始しています。山国川周辺地域のこのような動きをご存知でしたか?



今後、流域治水の取組みに参加していきたいですか?



令和7年度 of 取組内容やアンケートの結果を踏まえ、今年度の目標 of 更なる強化、拡大、が必要であるため、令和8年度 of 取組目標については下記のとおりとする。

①流域治水プロジェクト2.0 of 着実な実装

- ・各機関による着実な取組 of 推進

②ロゴマークなどを活用した広報強化、拡大

- ・こども向けパンフを作成し、イベントなどで配布
- ・広報動画を制作し、ショッピングモール等でPRを実施
- ・ロゴマーク of のさらなる活用（広報誌や配布物、工事看板など）
- ・自治体イベントにおけるのぼり旗（ミニ of のぼり旗） of の活用やグッズ（シール等）配布

③関係機関（企業等含む） of の連携強化、拡大

- ・「山国川圏域流域治水サークル」 of の試行など企業とのネットワーク of の構築を図る。
- ・企業への営業活動（民間イベントや企業との連携）や行政間の連携強化
（例：ショッピングモールのイベント参画、企業HPに掲載、行政HP of の連携など）
- ・現地視察候補（案）防災ステーション、雨水貯留施設、治山対策 of の実施箇所 など
- ・田んぼダム効果 of の見える化、森林整備 of の効率化等

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

いのちとくらしをまもる
防災減災
 令和 8 年 4 月 1 0 日
 水 管 理 ・ 国 土 保 全 局
 都 市 局
 住 宅 局

令和 7 年度の流域治水の取組の進展について ～令和 8 年度からの流域治水のさらなる加速化・深化に向けて～

令和 7 年度においても流域治水プロジェクトの取組が全国で進展しています。特にプロジェクトの取組にも位置づけられている洪水浸水想定区域については、一級・二級のすべての河川において令和 7 年度末までに作成・公表が完了しました。引き続き、令和 8 年度からの予算制度の拡充等により、流域治水の現場レベルでの実践をさらに加速化していきます。

○ 流域治水プロジェクトの取組の進展

- 流域治水プロジェクトの指標として見える化した 7 つの代表的な取組内容を整理しました（速報値）。【別添 1】
- 水害リスク情報の空白域を解消するため、令和 3 年の水防法改正により作成・公表対象を浸水範囲に住宅等の防護対象のある全ての一級・二級河川に拡大した洪水浸水想定区域について、目標である令和 7 年度末までに全ての河川 (20, 819 河川) で作成・公表が完了しました。

○ 流域治水に係る予算制度の拡充

- 令和 8 年度より、流域における貯留や土地利用の工夫等の対策、住宅市街地における水害対策を推進するため、河川、まちづくりの分野において流域治水の取組に資する予算制度を拡充・創設します。【別添 2、3】

○ 特定都市河川の取組の推進

- 令和 7 年度は、淀川水系、富士川水系、中川水系、馬淵川水系、筑後川水系、信濃川水系、山国川水系、広渡川水系、最上川水系、荒川水系、紀の川水系、佐波川水系の 12 水系 88 河川が特定都市河川に指定されました。また、休泊川水系、仁淀川水系、日高川水系、一宮川水系の 4 水系 46 河川の流域水害対策計画が策定されており、今後、特定都市河川における流域の取組が一層期待されます。【別添 4】

○ 「NIPPON 防災資産」第 2 回認定の実施

- 令和 6 年 5 月に創設した地域で発生した災害の状況を分かりやすく伝える施設や災害の教訓を伝承する活動などを内閣府防災担当大臣及び国土交通大臣が認定する「NIPPON 防災資産」の制度について、令和 7 年度は新たに 10 件（優良認定：6 件、認定：4 件）の認定を行いました。【別添 5】

(URL : <https://www.mlit.go.jp/river/bousai/bousai-shisan/index.html>)

○ 土砂災害リスクを踏まえた防災まちづくりの推進

- 令和 7 年度に市町村管理構想等に位置づけられた地域生活拠点における防災まちづくりと連携した砂防関係施設の重点的な整備に向けて、令和 8 年度よりまちづくり連携砂防等事業が新たに山口県下関市で開始

されました。【別添6】

○ 関係省庁、流域関係者との連携強化

- 令和8年2月に「流域治水の推進に向けた関係省庁実務者会議」を開催し、関係省庁間の連携強化を進めています。(URL : <https://www.mlit.go.jp/river/kasen/suisin/renkei009.html>)
- 令和7年度は、全国のべ41ダムで事前放流を実施し、洪水に備えました。
(URL : https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000286.html)
- 官民連携により実施している、流域の浸水状況をリアルタイムで把握する浸水センサについて、令和7年度は共通仕様を改定し、浸水センサの利用に関するガイドライン(案)を作成しました。引き続き、全国233の市町村をフィールドとして実証実験を継続します。【別添7】

【問い合わせ先】

(流域治水プロジェクト及び流域治水に係る予算制度の拡充について)

水管理・国土保全局 治水課 課長補佐 武田(内線35582) 流域治水推進係長 児島(内線35685)
代表 : 03-5253-8111 直通 : 03-5253-8452(治水課)

(水害リスク情報について)

水管理・国土保全局 河川環境課 水防企画室 企画専門官 鳥山(内線35454) 水防調査係長 江口(内線35459)
代表 : 03-5253-8111 直通 : 03-5253-8460

(住宅市街地総合整備事業について)

住宅局 市街地建築課 市街地住宅整備室 企画専門官 竹之内(内線39663) 係長 柳(内線39664)
代表 : 03-5253-8111 直通 : 03-5253-1631

(特定都市河川の取組の推進について)

水管理・国土保全局 治水課 課長補佐 鈴木(内線35572) 流域水害対策係長 山本(内線35684)
代表 : 03-5253-8111 直通 : 03-5253-8455

(「NIPPON防災資産」第2回認定について)

水管理・国土保全局 河川環境課 水防企画室 企画専門官 鳥山(内線35454) 水防企画係長 小川(内線35456)
代表 : 03-5253-8111 直通 : 03-5253-8460

(まちづくり連携砂防等事業の取組について)

水管理・国土保全局砂防部 保全課 課長補佐 辻(内線36232) 砂防技術係長 濱崎(内線36233)
代表 : 03-5253-8111 直通 : 03-5253-8469

(流域治水の推進に向けた関係省庁実務者会議について)

水管理・国土保全局 治水課 課長補佐 武田(内線35582) 流域治水推進係長 児島(内線35685)
代表 : 03-5253-8111 直通 : 03-5253-8455

(事前放流の実施状況について)

水管理・国土保全局 河川環境課流水企画室 企画専門官 三輪(内線35364) 水利係長 井出(内線35483)
代表 : 03-5253-8111 直通 : 03-5253-8449

(ワンコイン浸水センサの実証実験について)

水管理・国土保全局 河川情報企画室 企画専門官 成島(内線35392)、流域情報係長 上平(内線35394)
代表 : 03-5253-8111 直通 : 03-5253-8446

(都市局所管の流域治水の取組みについて)

都市局 都市安全課 専門調査官 佐々木(内線32333) 宅地耐震化係長 酒井(内線32335)
代表 : 03-5253-8111 直通 : 03-5253-8400
都市局 都市計画課 企画専門官 平井(内線32662) 交通計画係長 佐々木(内線32686)
代表 : 03-5253-8111 直通 : 03-5253-8409

流域治水プロジェクトの主な取組の進展

別添1

全国の流域治水プロジェクトの取組が令和7年度も着実に進んでいます。
令和8年度も、流域関係者の協働により地域の早期の安全・安心の確保に
引き続き取り組んでまいります。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

被害対象を減少させるための対策

被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

※今後精査により増減の可能性がある。



(参考)

※1

・個別避難計画を作成（全部又は一部）
済みの市町村数

※1: 累計ではなく、単年度の実施箇所数

※2: 全国の作成団体数

流域治水の本格的実践（令和8年度新規・拡充事項一覧）

別添2

○令和8年度より、河川、まちづくりの分野において流域治水の取組に資する予算制度の拡充を行うなど、引き続き流域治水の本格的実践に向けて必要な取組を支援。

①特定都市河川浸水被害対策法に基づく貯留機能保全区域の指定等の取組推進【水管理・国土保全局】

➢ 特定都市河川浸水被害対策推進事業（補助）
区域指定に係る支援制度の拡充

○土地所有者等の負担を緩和・軽減するなど、貯留機能保全区域の指定促進のための支援制度を拡充し、区域指定等に係る合意形成の促進を図る。



拡充内容

貯留機能保全区域の指定を促進するため、区域内の土地所有者等の負担の緩和・軽減にも資する取組として、以下を補助対象に追加

- 区域内に流入する塵芥や土砂等を捕捉する流入防止施設整備
- 地方公共団体が管理する区域内施設の耐水性向上対策
- 貯留機能保全区域の理解増進のための看板設置・防災教育等の啓発活動 等



（防災教育のイメージ）

②流域対策を組み合わせた治水計画の検討促進【水管理・国土保全局】

➢ 総合流域防災事業（防災・安全交付金）
流域対策を組み合わせた治水計画検討の新設

○気候変動による水災害の激甚化・頻発化を踏まえ、本支川や上下流のバランスを踏まえた流域全体の浸水被害最小化を図るため、気候変動を踏まえた河川整備基本方針へ変更した年度の翌年度から10年以内限り、河川整備計画の策定又は変更の検討を行う、1級水系の指定期間において、河川整備に加え、**地形や将来の土地利用等の状況を考慮した多様な流域対策を組み合わせた治水対策の検討に係る支援を追加。**



〈ハード・ソフトが一体となった流域治水の取組イメージ〉



○令和8年度予算概要 https://www.mlit.go.jp/page/kanbo05_hy_003334.html

③住宅市街地における水害対策【住宅局】

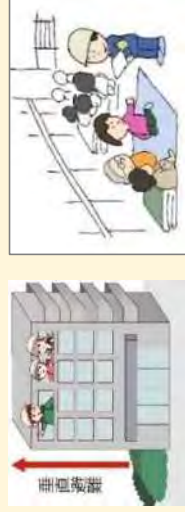
➢ 住宅市街地総合整備事業（水害対策型）の創設
○大規模水害が想定される人口集積地において、浸水切迫時の垂直避難先となる建物内避難者受入れスペースや避難経路となるデッキの整備、被害軽減のための浸水対策改修など、住宅市街地における水害対策を総合的に支援する事業を創設。

【緊急避難対策】

建物内の避難者受入れスペース、避難路・デッキ、避難地・高台公園等

【一時滞在対策】

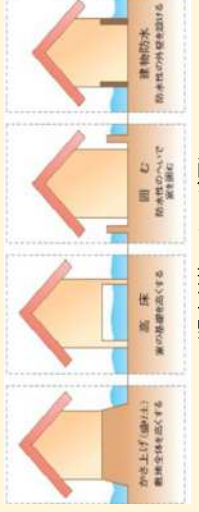
防災備蓄倉庫、非常用発電機、太陽光パネル・蓄電池、防災井戸、耐震性貯水槽、浄化設備や排水設備、マンホールトイレ等



（緊急避難対策のイメージ図）（一時滞在対策のイメージ図）

【住宅・建築物の浸水対策】

嵩上げ、ピロティ化、止水板・困い扉の設置、耐水化、雨水貯留浸透施設の設置等



（浸水対策のイメージ図）

大規模水害が想定される人口集積地において、浸水切迫時の垂直避難所となる建物内避難者受入れスペースや避難経路となるデッキの整備、被害軽減のための浸水対策改修など、住宅市街地における水害対策を総合的に支援する事業を創設する。

ソフト対策・計画策定

現況調査・計画策定 事業化コーディネート 協議会活動 普及啓発 等

<補助率>

民間：国1/3、地方1/3 公共：国1/2

緊急避難対策

水平避難・垂直避難に資する避難経路・避難場所の確保

建物内の避難者受入れスペース 避難路・デッキ 避難地・高台公園等

<補助率>

民間：国2/3、地方1/3 公共：国1/2

※避難者受入れスペースは、その整備に伴うかかり増し費用が対象



一時滞在対策

水が引くまでの避難者の一時滞在に必要な施設整備

防災備蓄倉庫 非常用発電機 太陽光パネル・蓄電池 防災井戸
耐震性貯水槽 浄化設備や排水設備 マンホールトイレ 等

<補助率>

民間：国2/3、地方1/3 公共：国1/2

※避難者受入れスペースの整備に伴うかかり増し費用が対象



浸水対策

住宅・避難所等の浸水対策に係る改修等

嵩上げ ピロティ化 止水板 囲い堀 耐水化 雨水貯留浸透施設

【嵩上げ、ピロティ化、止水板、囲い堀、耐水化】

<補助率(避難所等の防災拠点)>

民間：国1/3、地方1/3 公共：国1/2

<補助率(その他の住宅・建築物)>

民間：国11.5%、地方11.5% 公共：国11.5%

<対象建築物>

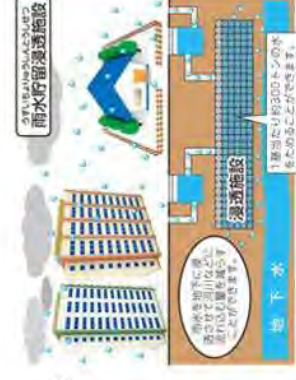
避難所等の防災拠点	その他の住宅・建築物
高上げ、ピロティ化	既存建築物 ①に限る
囲い堀、止水板、耐水化	①又は②に限る

- ① 災害危険区域などの水害に関する建築制限により既存不適格となった住宅・建築物
- ② 浸水想定区域内の住宅・建築物(浸水想定区域の指定以前に建築されていたもの)

【雨水貯留浸透施設】

<補助率>

民間：国1/3、地方1/3 公共：国1/3



【整備地区の要件】

- ・重点整備地区を一つ以上含む地区
- ・整備地区の面積が概ね5ha以上
- ・(重点供給地域は概ね2ha以上)
- ・原則として住宅戸数密度が30戸/ha以上の地区

【重点整備地区の要件】

- ・浸水想定区域内
- ・浸水被害発生時の緊急避難先が地区内に不足
- ・重点整備地区の面積が概ね1ha以上
- ・(重点供給地域は概ね0.5ha以上)

特定都市河川の指定等の状況(令和8年3月31日時点)

別添4

○「流域治水」の本格的な実践に向けて、令和3年11月1日に全面施行された流域治水関連法※の中核をなす**特定都市河川浸水被害対策法**に基づき、**特定都市河川の指定を全国の河川に拡大**

※特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律(令和3年法律第31号)

○流域治水関連法施行後**全国初の指定となる大和川水系大和川等**をはじめ、**42水系485河川**が指定されている
(法改正前: 8水系64河川、法改正後: 35水系421河川)

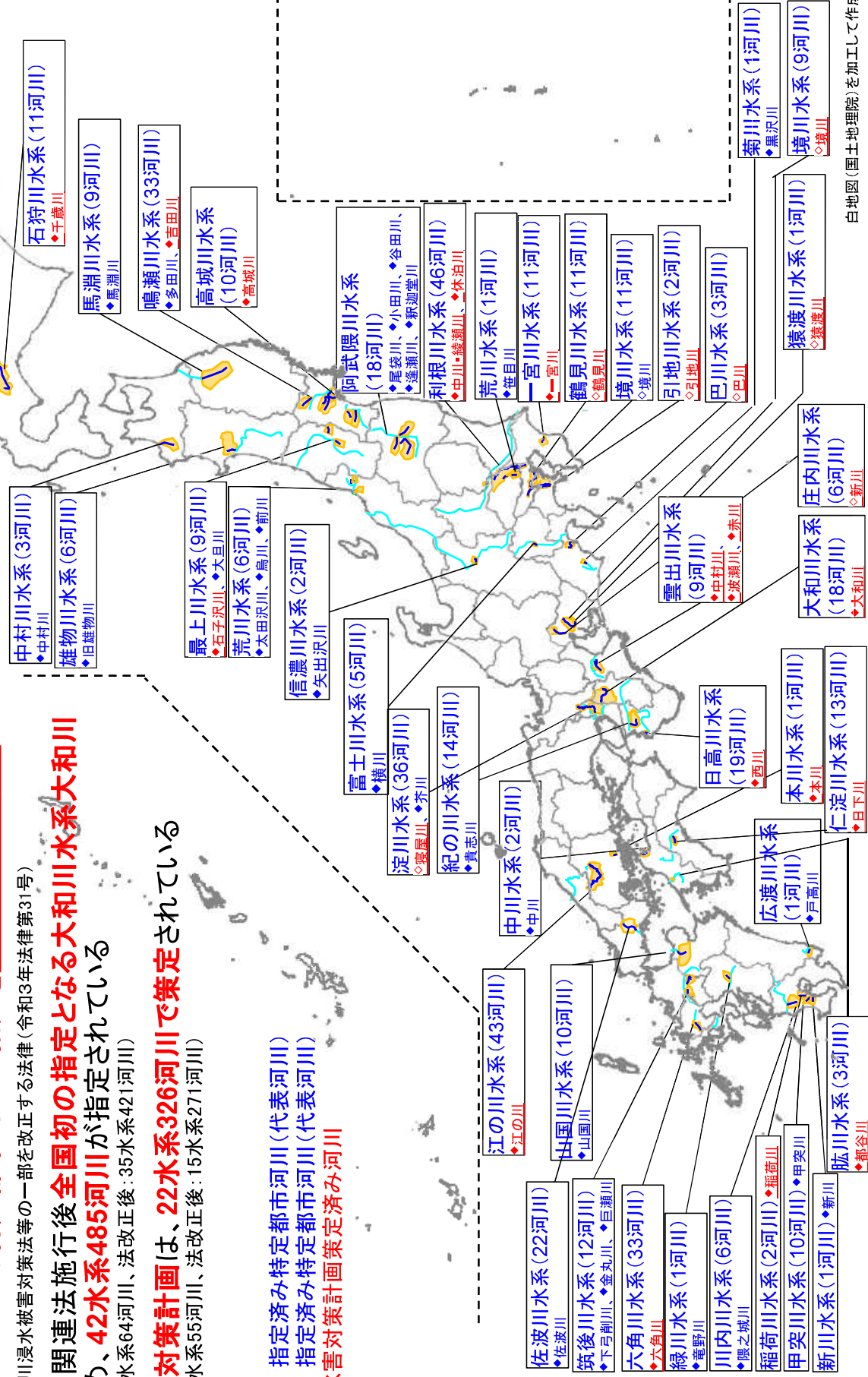
○**流域水害対策計画は、22水系326河川で策定**されている
(法改正前: 7水系55河川、法改正後: 15水系271河川)

【凡例】

◇ : 法改正前 指定済み特定都市河川(代表河川)

◆ : 法改正後 指定済み特定都市河川(代表河川)

赤下線: 流域水害対策計画策定済み河川



白地図(国土地理院)を加工して作成

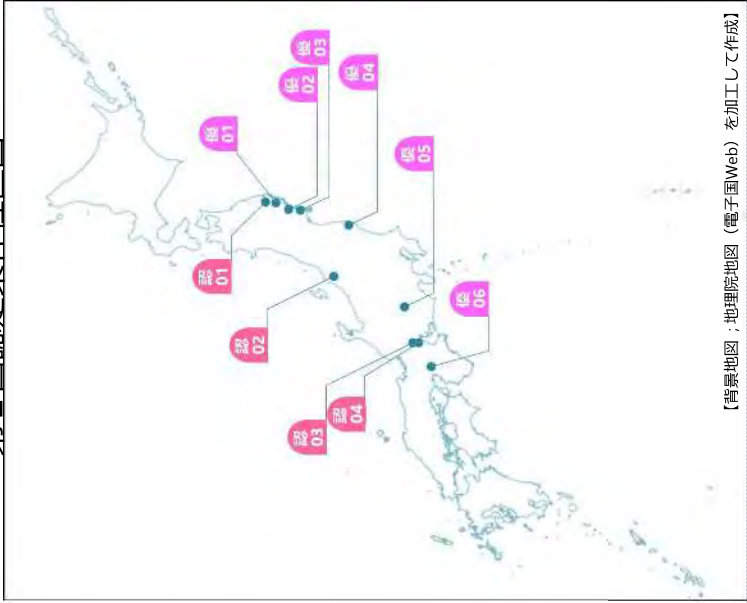
「NIPPON防災資産」の第2回認定について(自分事化の取組)

別添5

- 内閣府、国土交通省では、地域で発生した災害の状況を分かりやすく伝える施設や災害の教訓を伝承する活動※などを「NIPPON防災資産」として認定する制度を令和6年5月に創設。
〔内閣府特命担当大臣（防災）、国土交通大臣が認定〕
- 認定された防災資産を通じて、住民の方々が過去の災害の教訓や今後の備えを理解することで、災害リスクを自分事化し、主体的な避難行動や地域に貢献する防災行動につなげていく。
- 有識者による選定委員会での審議を踏まえ、令和7年度は新たに10件（優良認定：6件、認定：4件）を認定。【令和7年12月17日公表】

※活動：語り部、防災に係る催事、防災ツアー等

第2回認定案件位置図



【背景地図：地理院地図（電子国Web）を加工して作成】

No.	名称	活動拠点	対象災害
優01	いのちをつなぐ未来館における震災伝承活動	岩手県 釜石市	東日本大震災
優02	東日本大震災津波伝承館	岩手県 陸前高田市	東日本大震災
優03	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館	宮城県 気仙沼市	東日本大震災
優04	いわき震災伝承みらい館	福島県 いわき市	東日本大震災
優05	天竜川総合学習館 「かわらんべ」	長野県 飯田市	昭和36年三六災害
優06	津波・高潮ステーション	大阪府 大阪市	昭和9年室戸台風等
認01	学ぶ防災	岩手県 宮古市	東日本大震災
認02	三条市水防学習館	新潟県 三条市	平成16年7.13水害等
認03	大垣市輪中館及び 大垣市輪中生活館	岐阜県 大垣市	大垣市における水害全般
認04	木曽三川輪中ミュージアム	岐阜県 海津市	海津市における水害全般

第1回NIPPON防災資産 選定委員会 委員名簿		第2回認定案件位置図	
氏名	所属	氏名	所属
井嶋 猛	全国地方新聞社連合会会長（新潟日報社執行役員東京支社長）	大知 久一	一般社団法人日本損害保険協会専務理事
佐藤 翔輔	東北大学災害科学国際研究所准教授	徳山 日出男	一般財団法人国土技術研究センター理事長（敬称略、五十音順）

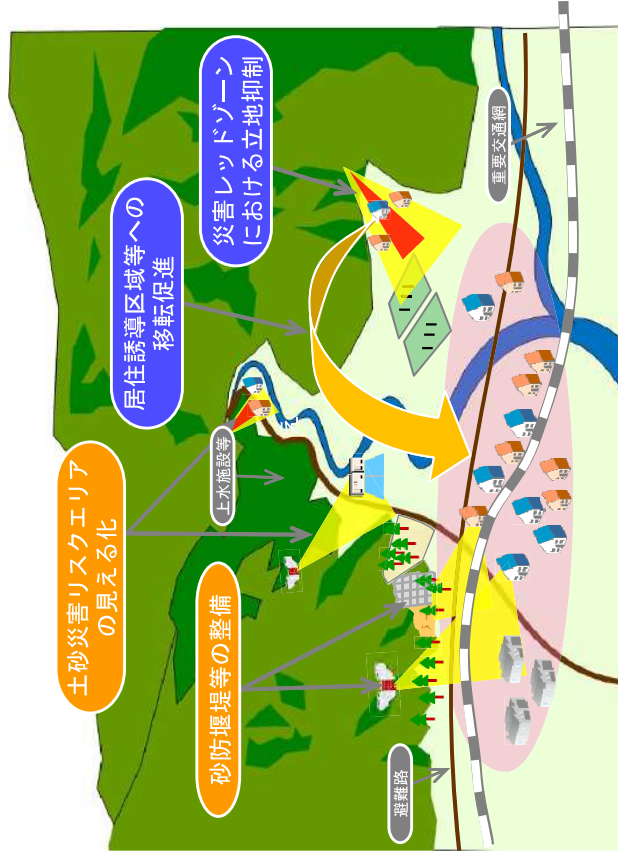
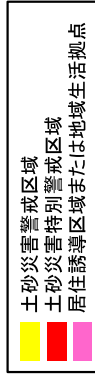
土砂災害リスクを踏まえた防災まちづくりの推進

別添6

○ 流域治水の一環として、土砂災害を含む災害ハザード情報を踏まえ、災害リスクのソフト対策による回避とハード対策による低減を適切に組み合わせた防災まちづくりを推進。

「防災まちづくり」の推進

➤ まちづくり部局と連携し、災害リスクのソフト対策による**回避**とハード対策による**低減**を組み合わせた施策展開が可能となり、早期の**防災まちづくりの実現**が図られる。



砂防部局

- 居住誘導区域や避難路等を保全する砂防関係施設の重点的整備
- 土砂災害警戒区域等の指定による災害リスクエリアの見える化

まちづくり部局

- 居住誘導区域等への移転促進
- 災害レッドゾーンにおける立地抑制

➤ 「まちづくり連携砂防等事業」における下関市の事例

○ 山口県下関市では、R7年度に立地適正化計画（防災指針含む）の改定と併せて、都市計画区域外を対象に市町村管理構想※を策定。

○ 同構想に位置づけた地域生活拠点内の市役所支所等を保全するため、令和8年度よりまちづくり連携砂防等事業を実施。

※市町村管理構想とは

- ✓ 国土利用計画の市町村レベルでの実行計画
- ✓ 人口減少下の適切な国土の管理のあり方について、現状把握・将来予測し、市町村士全体として目指す管理の在り方、課題、必要な措置等を示し、管理構想図として地図化するもの



豊田総合支所（保全対象）



出典：山口県下関市HP下関市土地管理構想（豊田・豊北地域）
https://www.city.shimonoseki.lg.jp/soshiki/73/134071.html

浸水域のリアルタイム把握～官民連携による流域内の浸水状況把握～

別添7

官民連携で浸水状況をリアルタイムで把握する仕組みを作っています

国・自治体・企業・大学など、流域内のあらゆる関係者が参加して実証実験を実施中！

官民連携による浸水域把握（活用のイメージ）



ワンコイン浸水センサ

小型、低コストかつ長寿命で、流域内に多数の設置が可能な浸水センサ



リアルタイムの浸水状況表示システム

各センサの情報を一元的に収集し、浸水状況を共有するシステム



■浸水センサ実証実験の詳細は以下URLをご参照ください。

<https://www.mlit.go.jp/river/gijutsu/wankoinsensa/index.html>

ワンコイン浸水センサ実証実験の実施状況

- ・浸水センサの共通仕様を改定
- ・浸水センサの利用に関するガイドライン（案）を作成

引き続き、全国233の市町村をフィールドとして浸水センサ実証実験を継続

※令和8年1月16日現在



自動販売機搭載型浸水センサの事例

自動販売機の飲料等の売上で浸水センサの設置・運用・維持管理を賄うもの。

自動販売機本体



浸水センサ



出典：(株)大創産業ホームページ